

香淳皇后実録 卷十

昭和四十九年（西暦一九七四年）

七十一歳

一月

一日 火曜日 午前九時四十五分より宮殿において、新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・宣仁親王、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官及び各国外交使節団の長等の祝賀を受けられる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、徳仁親王・文仁親王・清子内親王、元皇族・御縁故者等、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

昭和三十八年十一月十一日より宮内庁において、褒章受章者や大臣表彰を受けた者等が天皇・皇后もしくは皇后より謁を賜ることを「賜謁」と称してきたが、今後はこの呼称を廃止し、「拝謁」又は「御

会釈」の呼称に改めるとされる。これに伴い、褒章受章者や大臣表彰を受けた者等の「賜謁」は「拝謁」に、紅葉山御養蚕所主任等及び同所元奉仕者への「賜謁」は「御会釈」に改められる。なお、従来「拝謁」はお言葉・お礼言上の順であったが、以後、お礼言上・お言葉の順に改められる。本改正はこの日より実施される。○例規録

二日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において未成年皇族である憲仁親王の祝賀を、ついで正殿竹の間において元側近奉仕者・元部局長等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王・同妃華子と共に、午前三回と午後六回の計九回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

三日 木曜日 午前、元始祭につき、女官長北白川祥子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

六日 日曜日 天皇と共に吹上御所において、崇仁親王・同妃百合子と御夕餐を御会食になる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

七日 月曜日 新年につき、午後、天皇と共に、鳳凰の間において元女官等の祝賀を、宮殿御車寄前

において元女孀等の祝賀をお受けになる。その後、お一方にて花の間において、元侍従職御用掛有島暁子、ついで御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日誌、典式録

八日 火曜日 午前十時三十分、天皇と共に正殿松の間において、講書始の儀に臨まれる。日本学士院会員手塚富雄より「ゲーテの世界の特質」、同菊池勇夫より「社会立法の進展について」、同武居三吉より「二、三の植物香氣成分について」と題する進講をお聴きになる。進講後、天皇と共に正殿竹の間において、進講者及び進講者控の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日誌、典式録、儀式録、年末年始行事、講書始録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

九日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のスリランカ国駐劔特命全權大使吉岡章及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

午後、花の間において、法華寺門跡の久我高照、曇華院門跡の飛鳥井慈孝の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、内舍人日誌、典式録

吹上御所において、天皇及び皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。

○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日誌、東宮録

ベルギー国特命全權大使アルペール・ユッペール昨八日死去につき、この日、天皇・皇后の弔問使として侍従安楽定信を同国大使館に差し遣わされる。十四日に聖イグナチオ教会において行われる告別

昭和四十九年一月

式には、天皇・皇后より花環をお供えになる。○侍従日誌、侍従職日誌、外交慶弔録、外交贈答録、賜与録

十日 木曜日 午前十時三十分、天皇と共に正殿松の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「朝」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

くれなゐのよこぐものへに光さしつかのまにして伊豆の朝明く

儀終了後、正殿竹の間において選者・諸役・同控の拝謁を、ついで回廊において預選者の拝謁を天皇と共にお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、年末年始行事、歌会始録、宮内庁庁報、官報

十二日 土曜日 吹上御所において、天皇及び正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、

この年は月二回ほど吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十三日 日曜日 大相撲一月場所八日目を御覧になるため、午後三時五十分御出門、天皇と共に蔵前国技館に行啓される。幕内力士の土俵入りより結びの一番まで御覧になり、六時七分還啓される。○

女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

十四日 月曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のインド国駐劄特命全權大使新関欽哉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内

庁庁報、官報

十五日 火曜日 警視庁創立百年記念式典に御臨席のため、午前十時二十七分御出門、天皇と共に警

視庁に行啓される。式典に臨まれ、ついで庁舎内を御巡覧になる。十一時四十二分還啓される。○女官
長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

十六日 水曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、第十七回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援受賞
校代表者等の拝謁を受けられる。読売新聞社代表取締役社長務台光雄の挨拶をお受けになり、天皇に
続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宣召録、宮内庁
庁報、読売新聞

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のタンザニア国特命全権大使ジョージ・バテガ・ルシン
ビを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内
庁庁報

十七日 木曜日 午後、正殿梅の間において、故ベルギー国特命全権大使去る八月二十六日の夫人クロード・ユツ
ペール及び息女を御引見になる。翌日、遺体が本国へ送還されるに際し、同夫人に花束を賜う。○女官
長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

これより先、天皇・皇后が古希の賀を済まされたこと並びに御結婚満五十年来る一月二十六日を迎えられること
を記念して、読売新聞社より『あけぼの集』と題する天皇・皇后の御製・御歌集を刊行したい旨の願
い出があり、この日、天皇・皇后のお許しがある。同書は侍従長入江相政・侍従次長徳川義寛・宮内
庁御用掛木俣修により編纂され、装画は前田青邨が担当する。題名は昭和二十二年の歌会始のお題「あ
けぼの」から採られ、御製三百四十一首、御歌二百三十二首を収録し、この年四月に刊行される。○

賜与録、あけぼの集

二十三日 水曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のスペイン国特命全権大使ホアキン・グティエレス・カノ及び同夫人・息女二人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に宮殿北溜において、宮内記者会会員十四名とお会いになり、同記者会代表より来る二十六日の御結婚満五十年の祝辞をお受けになった後、各記者からの質問にお答えになる。その際に、御結婚からの五十年間で一番楽しかった思い出について、また苦しかったことの有無についての質問をお受けになる。楽しかった思い出に関しては、昭和四十六年に天皇と共にヨーロッパを訪問したことである旨、苦しかったことに関しては、ないとはいえない旨をお答えになる。天皇は、御婚約時代のおい出についての質問をお受けになり、良子女王を初めて知ったのは大正八年で、翌年久邇宮邸にたため、皇后と初めてお会いになった時の印象はない旨を、笑いを交えてお答えになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、天皇記者会見、宮殿行事録、昭和天皇と私達

二十五日 金曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のソビエト連邦駐劄特命全権大使重光晶及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、

宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に吹上御所において、翌日御結婚満五十年の金婚式を迎えるに当たつての御感想を録音される。この録音は、日本放送協会から寄せられた、御結婚満五十年の御感想をテレビ・ラジオで

放送したいとの願い出によるもので、皇后は、天皇及び御自身が健康でこの日を迎えられたことを幸せに思う旨をお話しになる。その後、天皇と共に宮殿北溜において、御結婚満五十年奉祝のため欧州共同体^E諸国^Cより合同で献上された生花を御覧になる。御夕餐前、天皇と共に吹上御所において、御結婚満五十年に当たり作成された記録用映画を御覧になり、また御夕餐後、各国の特命全權大使より献上された生花を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十六日 土曜日 天皇后御結婚満五十年につき、午前、賢所・皇靈殿・神殿の御代拝を女官長北白川祥子に仰せ付けられる。これとは別に、久邇家墓所に女官市村菊重を差し遣わされる。なお、この日、御結婚満五十年につき、神武天皇陵、並びに多摩陵^{大正天皇}・多摩東陵^{貞明皇后}において祭典が行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、祭典録、天皇后両陛下御結婚満五十年祝賀関係、幸啓録、

宮内庁庁報

午前、天皇と共に宮殿において、御結婚満五十年の祝賀を受けられる。初めに鳳凰の間において、宮内庁長官始め部局長等、続いて側近奉仕者並びに石坂泰三の祝賀をお受けになる。ついで通御廊下において御成婚当時東宮職に在職した元判任官以下の職員の祝賀をお受けになる。宮殿御車寄前においては宮内庁職員・皇宮警察本部職員などの祝賀をお受けになる。次に正殿竹の間において、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等の祝賀をお受けになる。ついで鳳凰の間において御縁故者の祝賀を、正殿竹の間において皇太子・同妃始め皇族・元皇族・御縁故者の祝賀をお受けになる。正午、天皇と共に豊明殿において内宴を催される。皇族・元皇族・御縁故者が出席する。午

昭和四十九年一月

後二時、天皇と共に桃華樂堂にお出ましになり、舞樂^{万歳樂、納曾利}を御覧になった後、再び宮殿に戻られ、鳳凰の間において御成婚当時の側近奉仕者の祝賀を、連翠において御成婚以後奉仕の宮内省・宮内府の両期を含む元宮内庁部長以上の者及び側近奉仕者の祝賀をそれぞれお受けになり、お茶の席を設けられる。また、この日宮内庁は、庁舎正面玄関前において一般参賀者より、宮殿北溜において認証官、国会議員始め特定資格者よりそれぞれ記帳を受け付ける。

なお、去る十六日、御結婚満五十年に際しての外国元首その他からの祝電及びお祝品等の取扱いについて、外国元首及び皇族からの祝電に対しては天皇・皇后より直接答電を發せられること、外国元首・王族・総督・首相及び本邦駐在外国大使からの御贈進及び献上があつた場合はこれを御受納になり、外国元首・王族に対しては天皇・皇后より直接札電を發せられることなどが定められる。以後、エクアドル国大統領始め各国元首等から寄せられた祝電・お祝品に天皇・皇后より答電・札電を發せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時儀式録、幸啓録、賜与録、天皇皇后両陛下御結婚満五十年祝賀関係、天皇皇后両陛下御結婚満五十年のお祝い行事等、御結婚五十年一般参賀関係、外交慶弔録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

御結婚満五十年に際して、老人福祉事業御奨励のため、天皇・皇后より厚生大臣に対し金一封を賜う。また、御結婚満五十年を記念し記念切手が發行され、この日全国の郵便局等より発売される。○天皇皇后両陛下御結婚満五十年のお祝い行事等、御結婚五十年一般参賀関係、賜与録、宮内庁庁報

二十七日 日曜日 邦彦王^{御父}の祥月命日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌

二十八日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る二十日に結婚した久邇朝宏^御・同夫人澄子の拝謁をお受けになる。その際、天皇・皇后より同夫妻にそれぞれ洋服地及び万那料等を賜う。また、去る十七日には天皇・皇后より久邇邦昭^{朝宏の兄}に清酒及び鮮鯛代料を、朝宏に白羽二重等を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、旧皇族録、贈賜録

天皇と共に正殿竹の間において、氣象庁長官高橋浩一郎より、最近の異常氣象についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録

午後四時五十六分御出門、天皇と共に東宮御所に行啓され、皇太子・同妃主催の御結婚満五十年のお祝いの会に御臨席になる。御到着後、皇太子・同妃始め皇族・御親族等よりお祝いの挨拶をお受けになる。ついで余興の奇術を御覧になり、御会食になる。八時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

三十日 水曜日 午前、孝明天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、祭典録、当直日誌、宮内庁庁報

二月

一日 金曜日 東久邇盛厚の祥月命日^{五年祭}につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、最高裁判所の賓客として来日中の米国最高裁

昭和四十九年二月

判所長官ウオーレン・E・バーガー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 日曜日 御風気のため、六日まで御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌

五日 火曜日 ブラジル国特命全権大使パウロ・リヤオン・デ・モーラ昨年十二月四日結婚につき、天皇・皇后より御紋付銀製花瓶を賜う。○賜与録、外交贈答録

これより先、日本赤十字社社長及び朝日新聞社社長より、京都国立博物館において皇后の御作品展「皇后さまの絵と書展」三月一日から同二十四日までの開催を希望する旨の願い出が寄せられ、この日、御作品の貸し下げ

をお許しになる。なお、前年日本芸術院会館において開催の同展と同様に、収益は日本赤十字社の事業資金に繰り入れられる。○重要雑録、日本赤十字社社史稿

七日 木曜日 天皇と共に須崎御用邸に行啓のため、午後一時十二分御出門、四時四十九分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓綴、幸啓録、

宮内庁庁報

十日 日曜日 午前、展望台にお出ましになり、天城連山及び大島、利島を御覧になる。翌日及び十四日には、天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓綴

十五日 金曜日 午後零時三十四分天皇と共に須崎御用邸を御出門、四時三分皇居に還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓綴、幸啓録

十八日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、公賓として来日中のエジプト国副首相

文化情報担当

モハメド・アブデル・カードル・ハーテム及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 火曜日 地方事情御視察のため、天皇と共に静岡県に行啓される。午前九時二十五分御出門、東京駅より静岡駅を経て、清水市の石垣いちご栽培地、静岡県柑橘試験場を視察される。ついで三保文化ランド敷地内の三保会館屋上より三保の松原を御展望になる。同所にて御昼餐後、東海大学海洋科学博物館、東海大学臨海実験場を視察される。終わって、四時二十二分御泊所日本平観光ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十日 水曜日 午前十時天皇と共に御泊所日本平観光ホテルを御出発、焼津魚市場、静岡県水産試験場、静岡県立漁業高等学園を御視察になる。続いて焼津ランドホテルにおいて御昼餐後、登呂遺跡を御視察になる。終わって静岡駅より東京駅を経て、午後四時五十一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十一日 木曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のマレーシア国特命全権大使ラジャ・アズナム・ビン・ラジャ・ハジ・アハマド及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、公賓として来日中の欧州共同体^E委員会委員長フランソワ・グザヴィエ・オルトリ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和四十九年三月

来る三月六日にお誕生日を迎えられるに当たり、この日、日本赤十字社病院及び恩賜財団済生会病院の収容患者合計七千二百二十五名に、手拭い一筋ずつを賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十三日 土曜日 午前、花の間において前田青邨の拝謁をお受けになり、御絵を披露される。○女官

長日記、女官日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

二十五日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のパキスタン国特命全権大使サルタン・モハメツド・カーン及び同夫人、モンゴル国特命全権大使ソノムドルジン・ダンバダルジャール及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に対し、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

三月

一日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、転勤のため去る二月十八日デンマーク国より帰国した久邇邦昭^{御甥}の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、旧皇族録、

贈賜録

二日 土曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨日臨席

の京都国立博物館における「皇后さまの絵と書展」

日本赤十字社・朝日新聞社主催、宮内庁後援

開会式について報告をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、重要雑録、京都新聞

三日 日曜日 元最高裁判所長官田中耕太郎去る一日死去につき、この日、天皇・皇后の賜物使兼枢前使として侍従松平潔を同人邸に差し遣わされ、祭装料及び生花を賜い、拝礼させられる。また、翌四日には、天皇・皇后の葬場使として侍従田中直を葬場^{東京カテドラル}に差し遣わされ、拝礼させられる。○賜与録

五日 火曜日 スキー旅行中の負傷により日本赤十字社中央病院へ入院の憲仁親王に、お尋ねとして果物を賜う。○女官長日記、贈賜録

六日 水曜日 満七十一歳のお誕生日を迎えられる。

午前、芳菊の間において宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の祝賀を、花の間において石坂泰三の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、芳菊の間において元側近奉仕者の祝賀を、通り廊下において女嬭・雑仕の祝賀を、御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、再び芳菊の間において元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を順次お受けになる。

午後、花の間において東久邇文子の祝賀を、御車寄前において元女嬭等の祝賀を、再び花の間において元御用掛有島暁子、続いて御学友・御同級生六名の祝賀を順次お受けになる。その後、天皇と共に吹上御所において、徳仁親王・文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上

御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・宣仁親王、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子と御晚餐を御会食に
なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁序報

八日 金曜日 去る三日発生のトルコ航空機事故フランス国パリ市近郊において発生により多数の日本人が犠牲になったこと

について、ベルギー国王ボードワン一世・王妃ファビオラより天皇・皇后に対する弔意が、この日、
宮内庁長官の許へ寄せられる。後日、これに対する天皇・皇后の謝意が伝達される。○外交慶弔録

十二日 火曜日 天皇と共に連翠において、グアテマラ国特命全権大使フェリペ・アントニオ・ガン
ダラ・ガルシア及び同夫人、シンガポール国特命全権大使ウィー・モン・チェン及び同夫人、モロッ
コ国特命全権大使アブデスラム・タドラウイ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。これに先
立ち、シンガポール国大使夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后にはワニ皮ハンドバッグ黒及
びロウケツ染布地が贈られる。午餐の際、天皇・皇后より謝意を表される。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁序報

十三日 水曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のオランダ国駐劄特命全権大使広田稯及び
同夫人、ザイール国駐劄特命全権大使徳久茂及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報、官報

十四日 木曜日 午後、花の間において、元フランス語進講者マリー・シモーヌ・ルヌー元日仏会館フランス学長夫人、昭和

二十九年より三十一年まで担当を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録

十五日 金曜日 午後、正殿梅の間において、新任のエジプト国特命全權大使モホセン・アブデル・カレック及び同夫人、マダガスカル国特命全權大使アルマン・ラザフィンドラベ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 来る二十日の後光厳天皇六百年式年祭に先立ち、午前、天皇と共に正殿竹の間において、東京大学教授今枝愛真より「後光厳天皇の御事蹟について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

二十日 水曜日 午前、後光厳天皇六百年式年祭の儀が行われ、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、祭典録、宮内庁庁報

二十一日 木曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭が行われ、女官長北白川祥子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 昨日、英国王女アン及び同夫君マーク・フィリップスが去る二十日暴徒による狙撃事件に遭遇したとする情報が寄せられ、この日、同女王エリザベス二世に対する天皇・皇后のお見舞いの意を宮内庁長官が外務大臣に伝達する。○外交慶弔録

二十五日 月曜日 テイギリス・ユーフラテス文明展東京国立博物館・イラク国文化情報省・中日新聞・東京新聞主催を御覧になるため、午前九時四十九分御出門、天皇と共に東京国立博物館に行啓される。崇仁親王オリエンツ学会会長ほかの説明により、

天皇及び先着の皇太子・同妃と共に展示品を御巡覧になる。十一時十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、東宮録、宮内庁庁報、官報

太平洋諸島信託統治地域マリアナ諸島サイパン島において、厚生省主催の中部太平洋戦没者の碑竣工

昭和四十九年三月

並びに追悼式がこの日舉行されるに当たり、天皇・皇后より厚生省を通じて生花をお供えになる。○賜与録、引揚げと援護三十年の歩み

ホンジュラス国家主席夫人グローリア・フィゲロア・デ・ロペス・アレリャーノが非公式にて来日するに際し、花束を賜う。後日、同国家主席夫人よりお礼として絵画が贈られる。○外交贈答録

二十八日 木曜日 午前、天皇と共に月の間において、「皇后さまの絵と書展」去る一日より二十四日まで
京都国立博物館にて開催に

御出品の絵画を御覧になる。翌日も御一緒に御覧になる。三十日には、同展に種々尽力した前田青邨に、皇后より御紋付木盃を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録

天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のカンボジア国特命全権大使シム・ヴァル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のアイerland国特命全権大使クリストファー・ピーター・フオガティー及び同夫人、大韓民国特命全権大使金永善及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

英国王配エディンバラ公フィリップ去る二十五日馬車事故にて負傷につき、この日、天皇・皇后より同国女王エリザベス二世にお見舞電報をお送りになる。これに対し三十日、答電が寄せられる。○外交

慶弔録、宮内庁庁報、官報

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のペルー国特命全権大使ホセ・カルロス・マリアテギ・アレリャーノを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

四月

一日 月曜日 午前、花の間において、新任の管理部長小幡祥一郎・式部副長松平潔・侍従小林忍、及び前任の管理部長高尾亮一・式部副長内藤政道ほか四名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、典式録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

午後、昭和四十八年度音楽大学卒業生による演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。皇太子妃^{第二部か}_{ら陪席}・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子のほか、元皇族・御縁故者等が陪聴する。東京

芸術大学卒業生による能、武蔵野音楽大学卒業生によるピアノ独奏、国立音楽大学卒業生によるテノール独唱、上野学園大学卒業生によるピアノ独奏、東京芸術大学卒業生によるコントラバス独奏、桐朋学園大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになり、御休憩を挟んだ後、上野学園大学卒業生によるヴァイオリン独奏、国立音楽大学卒業生によるクラリネット独奏、東京芸術大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。終わって御休所に入られた後、御休所脇廊下において、各校代表者等に御会釈を賜う。なお、この度の演奏会に際し、出演者二十名に御紋付銀製スプーンを賜う。○女官長日記、女官日記、内舍人日記、音楽大学卒業生演奏会、賜与録

二日 火曜日 午後、天皇と共に春秋の間において、竹友会会員等の拝謁をお受けになる。引き続きお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、典式録、宮殿行事録

第十九回ユニセフ学校募金運動を実施の財団法人日本ユニセフ協会に、事業御奨励のため金員を賜う。

○賜与録、宮内庁庁報

昭和四十九年四月

三日 水曜日 午前、神武天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇靈殿御神楽の儀につき、女官長北白川祥子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、祭典録、宮内庁庁報

宮内庁庁報

四日 木曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任の中央アフリカ国駐箚特命全權大使田村豊及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮内庁庁報、宮内庁庁報、官報

五日 金曜日 来る二十三日に落成式が行われる迎賓館赤坂離宮を御視察のため、午前十時二十七分御出門、天皇と共に同所に行啓される。本館・和風別館の各間を御巡覧になる。その際、天皇より関東大震災時の思い出等をお聞きになる。終わって東宮御所に立ち寄られ、皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王と御昼餐を御会食になる。午後二時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

フランス国大統領ジョルジュ・ポンピドウ去る二日死去につき、この日、天皇・皇后の弔問使として侍従安楽定信を同国大使館に差し遣わされる。なお、天皇・皇后から弔意を同大統領夫人クロードに伝えるよう御下命があり、昨日、宮内庁長官より外務大臣にこの旨が通知される。○侍従日誌、侍従職日誌、外交慶弔録

七日 日曜日 御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、藤楓協会昭和二十七年六月に宣仁親王を総裁として発足したハンセン病支援団体製作の映画を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、藤楓協会創立三十周年誌

九日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、外務省賓客として来日中のスウェーデン国外

務大臣スベン・アンダソン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、贈賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、宮殿北溜において、財団法人結核予防会総裁から表彰された結核予防事業功労者約六十名の拝謁をお受けになる。同会理事長山口正義よりお礼言上をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、宮殿行事録、宣召録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、松平潔この度侍従より式部副長に転任と御夕餐を共にされる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

十日 水曜日 翌十一日の明治神宮における昭憲皇太后六十年祭に先立ち、御参拝のため、午前九時四十三分御出門、天皇と共に明治神宮に行啓される。天皇に続き、御拝座に進まれ御拝礼になる。終わって御休所において、宮司伊達巽、名誉宮司甘露寺受長ほかの拝謁をお受けになる。十時五十七分還啓される。なお、御参拝に際し、天皇・皇后より幣帛料・神饌料をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のブルガリア国特命全権大使バルヴァン・チエルネフ及び息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十一日 木曜日 昭憲皇太后の祥月命日崩御後六十年につき、午前はお出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十五日 月曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のドイツ民主共和国駐劄特命全権大使谷盛

昭和四十九年四月

規及び同夫人、マレーシア国駐箚特命全權大使須磨未千秋及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

午後、正殿梅の間において、新任のアラブ首長国連邦特命全權大使ラシド・アブドル・アジーズ・アル・マハーウイ、キューバ国特命全權大使マリオ・ガルシア・インチャウスティ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十八日 木曜日 午前、天皇と共に連翠において、日米知事会議に参加のため来日中の米国メイン州知事ケネス・M・カーティス^{共同}、ワイオミング州知事スタンレー・K・ハサウェイ^同及び同夫人、ア

リゾナ州知事ジャック・ウイリアムズ及び同夫人、テネシー州知事ウィンフィールド・ダン及び同夫人、ノースダコタ州知事アーサー・A・リンク及び同夫人、アメリカ全国知事会事務局長ブレヴァード・クリフィールドを御引見になる。なお後日、ノースダコタ州知事夫妻より天皇・皇后に飾額が、アリゾナ州知事夫妻より皇后に雑誌『アリゾナ・ハイウェイ』が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

元東宮職御用掛加藤真一去る十五日死去につき、この日、天皇・皇后より祭糝料を賜う。加藤は、大正三年東宮御学問所御用掛を仰せ付けられ、その後、十年より十三年まで東宮職御用掛を務めた。○

恩賜録、宮内庁庁報

十九日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、来日中の前国際オリンピック委員会^{IO}。会長アベリー・ブランデー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 土曜日 今般刊行の『あけぼの集』を、天皇・皇后より皇太子・同妃始め、常陸宮家・秩父宮家・高松宮家・三笠宮家、鷹司家・池田家・島津家に御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、あけぼの集
二十三日 火曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のロシア国特命全権大使ルイス・ゴンサレス・パロスを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のロシア国駐劔特命全権大使中根正己及び同夫人、ケニア国駐劔特命全権大使太田正己及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二十九日 月曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀、女官長始め女官等の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。終わって花の間において、元女官長始め元女官の祝賀をお受けになる。午後一時、天皇と共に豊明殿において、天皇誕生日宴会の儀に臨まれる。四時、天皇と共に春秋の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。両儀の間に、天皇と共に芳菊の間において、東久邇文子・同優子の祝賀をお受けになる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和四十九年五月

天皇誕生日一般参賀につき、午前中四回にわたり天皇及び皇太子・同妃・正仁親王・同妃華子と共に長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

三十日 火曜日 午後、宮殿北溜において、第六回愛育班員全国大会社会福祉法人恩賜財団母子愛育会主催で総裁または会長から表彰された愛育班員及び愛育班育成功労者等約三十名の拝謁をお受けになる。同会理事長新居善太郎よりお礼言上をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、宣召録、宮内庁庁報

五月

一日 水曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の拝謁をお受けになる。厚生政務次官石本茂よりお礼言上をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宣召録、宮内庁庁報

花の間において、新任の書陵部長野本松彦・皇室経済主管石川一郎ほか、及び前任の書陵部長並木四郎の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、官報

午後、正殿梅の間において、新任のオーストラリア国特命全権大使キース・チャールズ・オーエン・シャン及び同夫人、ヨルダン国特命全権大使アーメル・アブデル・カール・シャンムート及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

二日 木曜日 午前十時二十八分御出門、天皇と共に最高裁判所新庁舎来る二十三日落成式挙行予定に行啓される。三

階の大会議室・長官室、二階の大法廷合議室、大法廷及び大ホール定礎を御巡覧になり、十一時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

四日 土曜日 久松貞子御母久邇
倪子の姉 昨三日死去につき、霊前にお花料・菓子料を賜う。○女官長日記、贈賜録

七日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官

日誌、内舎人日誌

九日 木曜日 日韓身障児文化交流のつどい「韓国明暉園合唱団公演」開催翌十日東京公演、十五日
十六日大阪公演につき、

この日、明暉園を支援する会日韓身障児文化交流
のつどい参加団体に金員を賜う。韓国社会福祉法人明暉園は、李方子が理事

長を務める。○贈賜録

十日 金曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、春の園遊会を催される。午後二時二分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時四十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、園遊会録、幸啓録、行幸啓録、東宮録、宮内庁庁報、官報

翌十一日千鳥ヶ淵戦没者墓苑において納骨並びに拝礼式を行う厚生省に、天皇・皇后より生花を賜う。

○賜与録、宮内庁庁報

十一日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

去る九日の伊豆半島沖地震により甚大な被害を受けた静岡県に、天皇・皇后よりお見舞金を賜う。○

賜与録、宮内庁庁報

十三日 月曜日 午前、花の間において、新式部副長安井芳郎、前式部副長福田孝三郎の拝謁をお受

昭和四十九年五月

けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、恩賜録、御写真録、宮内庁庁報、官報

午後、正殿梅の間において、新任のドイツ民主共和国特命全権大使ホルスト・ブリー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 火曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、来月英国を訪問予定の故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十五日 水曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のベトナム共和国特命全権大使ドオウ・ヴァン・リー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 翌十七日より二十二日まで大阪阪急百貨店において「春のばら会展」財団法人日本ばら
会関西支部主催開催につき、この日、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。二十日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録

十七日 金曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

この日より二十二日まで上野京成百貨店において「春の日本ばら会展」財団法人日本
ばら会主催開催につき、この日、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。十九日、二十一日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録

十八日 土曜日 岩手県において開催の第二十五回全国植樹祭に御臨場、併せて地方事情を御視察の

ため、天皇と共に同県に行啓される。午前八時三十三分御出門、原宿駅より滝沢駅を経て、午後五時二十四分御泊所雇用促進事業団岩手レクリエーションセンター八幡平ハイツに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、岩手県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十九日 日曜日 午前十時五十五分天皇と共に御泊所雇用促進事業団岩手レクリエーションセンター八幡平ハイツを御出発、岩手郡松尾村の岩手県民の森植栽地における第二十五回全国植樹祭に臨まれる。お手植地に進まれ、天皇に続き、松尾村長沼田宗一・青年団体代表山津田礼子・学校生徒代表高橋一也・森林愛護少年団代表阿部栄美子の介添えにより、ナンブアカマツ^木二本・オオヤマザクラ一本をお手植えになる。一旦御泊所にお戻りになり、御少憩の後天皇と共に御出発、国立岩手山青年の家に御到着になる。御昼食後同所を御視察になり、ついで農林省東北林木育種場を視察される。終わって滝沢駅より花巻駅を経て、午後四時十分御泊所花巻温泉株式会社佳松園に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岩手県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十日 月曜日 午前九時五十六分天皇と共に御泊所花巻温泉株式会社佳松園を御出発、北上市役所を訪問され、二階バルコニーにおいて市民の奉迎にお応えになる。続いて岩手県林木育種場におけるお手播き行事に臨まれ、江刺市長渡辺長純の介添えにてナンブキ^花の種子をお手播きになる。天皇はナンブアカマツ^木の種子をお手播きになる。ついで敷地内の林業展示館を御覧になる。午後、岩手県種山牧野事務所をお訪ねになり、昭和森展望台より周囲を御展望になる。その後、陸前高田市民会館を訪問され、二階の窓から市民の奉迎に応えられる。四時十二分御泊所大船渡グランドホテルに御

昭和四十九年五月

到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岩手県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十一日 火曜日 午前十時二十四分天皇と共に御泊所大船渡グランドホテルを御出発、三陸町役場を訪問され、三陸地方沿岸に産する海草の標本等を御覧になる。ついで、岩手県水産試験場を御視察になる。終わって、釜石駅より宮古駅間の車中において御昼食の後、岩手県沿岸精神薄弱児施設組合はまゆり学園及び宮古市立崎山小学校・同中学校はまゆり学園分校を御視察になり、午後三時四十分御泊所宮古国民休暇村に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岩手県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十二日 水曜日 午前九時二十二分天皇と共に御泊所宮古国民休暇村を御出発、宮古市浄土ヶ浜レストハウスをお訪ねになり、海岸風景を展望される。ついで、宮古湾漁業協同組合連合会地方卸売市場を御視察になる。終わって宮古駅より盛岡駅間の車中において御昼食の後、養護老人ホーム岩手県立松寿荘、小岩井農牧株式会社小岩井農場を御視察になる。午後三時三十分御泊所盛岡グランドホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、岩手県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十三日 木曜日 午前九時三十一分天皇と共に御泊所盛岡グランドホテルを御出発になる。盛岡駅より黒磯駅を経て、午後三時十七分那須御用邸に御到着になる。御少憩後、天皇と共に御用邸御内庭を、植物の御調査を兼ねて御散策になる。御用邸御滞在中は還幸啓前日まで毎日、天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、岩手県行幸啓録、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、官報

二十四日 金曜日 午前、天皇と共に御用邸御車寄前において、那須町長笹沼賢弥・同町議会議長佐

藤又作に御会積を賜う。以後、この年も那須御用邸御滞在中、栃木県関係者等に御会積を賜う。○女官
長日記、女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十八日 火曜日 午前八時四十三分天皇と共に那須御用邸を御出門、十一時二十六分皇居に還啓さ
れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用
邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、官報

二十九日 水曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のレバノン国特命全権大使ハリ
ム・シエビーヤ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、
宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

三十日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、外務省賓客として来日中のイラン国皇族シヤ
ハラーム<sup>同国皇妹の
第一皇子</sup>及び同妃ニールファルと御会見になる。この度の来訪に当たり、天皇・皇后より同皇
族に七宝花瓶を、同妃に佐賀錦ハンドバッグを御贈進になる。また、同夫妻より天皇・皇后に古代陶
製壺<sup>出土
品</sup>の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈
答録、賜与録、宮内庁庁報

午後、楽部にお出ましになり、糸竹会例会の演奏会に臨席される。糸竹会による平調々子<sup>笙三、
五常楽</sup>急、越殿楽<sup>残楽、
三返</sup>、陪臚、御歌をお聴きになる。演奏後、御休所において、出席の糸竹会会員一同の拝謁
をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、糸竹会

三十一日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来月の故雍仁親王妃勢津子英国訪問の首席

昭和四十九年六月

随員吉川重国の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、宮内庁
庁報

常磐会総会に御出席のため、午後一時二十一分御出門、椿山荘に行啓される。御着後、御休所においで正仁親王妃華子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子ほかと御対面になる。ついで会場^{鐘の}にお出ましになり、会員一同が「花すみれ」を奉唱する中、舞台上に上られる。会長賀陽敏子より御結婚婚満五十年の祝詞言上をお受けになり、ついで観世流の仕舞^{観世清頭、}舞囃子^{観世元昭}を御覧になる。終わって懇親会となり、出演者、会員等に御会釈を賜う。四時十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

六月

一日 土曜日 午前、花の間において、新任の御料牧場長川口宏平及び前御料牧場長高野守雄の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、官報
紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の成長ぶりを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌
三日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のスーダン国特命全権大使バシエール・イブラヒム・オスマン・イスハグ及び同夫人、パナマ国特命全権大使ホセ・ナポレオン・フランコ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報
四日 火曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた崇仁親王妃百合子と御対面になる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

正殿梅の間において、新任のイタリア国特命全権大使カルロ・ペッローネ・カパーノ、ネパール国特命全権大使ヤダブ・プラサード・パント及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五日 水曜日 昭和四十九年度全国赤十字大会に名誉総裁として御臨席のため、午前十時三十九分御出門、明治神宮会館に行啓される。御到着後、御休所において、名誉副総裁の皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子と御対面になり、ついで厚生大臣齋藤邦吉、日本赤十字社長東竜太郎、同社副社長石坂泰三・小池欣一、同社名誉社長島津忠承の拝謁をお受けになる。それより式場に臨御される。式中、社長挨拶に続き、金色有功章受章者代表九名、銀色有功章受章者代表三名、特別社員章受章者代表一名にそれぞれの記章及び章記を授与される。ついで、次のお言葉を賜う。

本日、全国赤十字大会に出席して、赤十字のために尽力されている皆さんに、親しくお会いできたことを大変うれしく思います。

日本赤十字社が創立以来九十七年の長い間、年ごとに活動の伸展を遂げ、人類の福祉に大きく貢献してきたことを深く満足に思います。

人命の尊重を基調とする赤十字の任務は、今後ますます重要性を加えると思しますので、受賞者をはじめ、関係者の皆さんが、互いに協力して、その使命の達成に努めるよう希望します。

社長奉答、受章者総代鈴木太左衛門青森県の謝辞、厚生大臣の祝辞の後、赤十字奉仕団員二名及び青少年赤十字代表一名による体験発表、赤十字社幹部看護婦研究生による「あこがれの赤十字」合唱をお聞きになる。式場を退場され、午後零時一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

昭和四十九年六月

日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

午後、花の間において、天皇后御結婚満五十年に際しての賜品拝領についてお礼言上のため参内の元女官長保科武子、元女官小川梅子・植村蒙子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌
天皇と共に吹上御所において、来る七日英国へ出発する故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

七日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭掻きをされる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

天皇と共に宮殿西車寄において、侍従職員等より天皇后御結婚満五十年の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

八日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、中華人民共和国訪問の帰途に來日したネパール国国王岳父ケンドラ・シヤムシエル・ラーナ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十日 月曜日 この日、英国王族グロスター公ヘンリー^{同国女王エリザベス二世の叔父}薨去につき、同国女王エリザベス

二世及び故グロスター公妃アリスにそれぞれ天皇・皇后より弔電をお送りになる。これに対し十四日、それぞれより答電が寄せられる。また、葬儀当日には、天皇・皇后より柩前に花環をお供えになる。

なお、去る八日には、天皇・皇后よりグロスター公にお見舞電報をお送りになり、これに対し九日付にて同公より謝意を表する答電が寄せられる。○外交贈答録、外交慶弔録、賜与録、宮内庁庁報、官報

十二日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、オーストラリア国より帰国の北白川道久の拝

謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、正殿梅の間において、新任のローマ法王庁大使イッポリト・ロトーリ、チリ国特命全権大使カ
ルロス・ベサ・リオン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

十三日 木曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時四十八分御出門、午後零時三十七分
同邸に御到着になる。御昼餐後、御用邸付近を植物御調査を兼ねて天皇と共に御散策になる。これ以
降御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人
日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十七日 月曜日 スウェーデン国王女クリスティーナ・ルイズ・ヘレナ^{国王の姉} 去る十五日結婚につき、こ
の日天皇・皇后より同王女に同国駐劄特命全権大使を通じ銀製宝石箱を御贈進になり、併せて祝意を
伝達させられる。後日、同王女より謝意を表する書簡^{七月十日付}がある。○外交慶弔録、外交贈答録、賜与録

二十一日 金曜日 午前八時四十三分天皇と共に那須御用邸を御出門、十一時二十七分皇居に還啓さ
れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用
邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のグアテマラ国特命全権大使フェリペ・アントニオ・
ガンダラ・ガルシア及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁
見録、宮殿行事録、外交贈答録、重要雑録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に芳菊の間において、去る十九日英国より帰国した故雍仁親王妃勢津子と御対面にな

昭和四十九年六月

る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、宮内庁庁報

二十五日 火曜日 アイルランド国特命全権大使クリストファー・ピーター・フォガティー及び同夫人、スーダン国特命全権大使バシエル・イブラヒム・オスマン・イスハグ及び同夫人、ホンジュラス国特命全権大使セサル・モッシ・ソルト及び同夫人を招かれ、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 水曜日 午前十時三分御出門になり、天皇と共に多摩陵・多摩東陵に行啓される。天皇に続き、両陵を御拝礼になる。終わって午後二時六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時祭祀録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

二十七日 木曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のイラン国駐劔特命全権大使井川克一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のスリランカ国特命全権大使アーサー・バスナヤケ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、楽部職員による洋楽演奏会を御鑑賞のため、桃華楽堂にお出ましになる。ヴィヴァルディ作曲「チェロソナタ第五番」、サン＝サーンス作曲組曲「動物の謝肉祭」より「白鳥」、ベートーヴェン作曲交響曲第五番「運命」などをお聴きになった後、アンコールとして「早春賦」をお聴きになる。久邇正子^{御兄久邇朝融の子息邦昭の夫人}のほかが陪聴する。演奏終了後、御休所において、楽長東儀和太郎・同豊雄秋、指揮者

甲斐正雄の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、旧皇族雑録

二十八日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、故雍仁親王妃勢津子英国訪問の首席随員吉川重国の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、宮内庁庁報

七月

一日 月曜日 午前、花の間において、新任の侍従石田淳、前任の侍従杉原正純ほか一名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報、官報

高松塚古墳壁画模写特別公開展^{文化庁・東京国立博物館共催}を御覧になるため、午後一時五十分御出門、東京国立博物館

館に行啓される。御到着後、館長稲田清助・文化庁長官安達健二の先導により、玄関ホールにおいて

皇太子・同妃のお出迎えをお受けになる。その後、皇太子・同妃と共に特別第三室<sup>特別公開
展会場</sup>に向かわれ、

東京芸術大学教授平山郁夫の説明により高松塚古墳壁画の模写を御覧になる。終わって、二時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。紅葉山御養蚕所主任山崎太郎より収穫量等の報告をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、素顔の昭和

天皇

三日 水曜日 天皇と共に吹上御所において、去る六月十九日に英国より帰国した故雍仁親王妃勢津子をお招きになり、御晚餐を催される。皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、崇仁親王・同妃百合子、寛仁親王・宜仁親王が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、重要雑録、東

昭和四十九年七月

宮録

四日 木曜日 午前、天皇と共に花蔭亭脇において、紅葉山御養蚕所主任山崎太郎及び助手四名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

正殿梅の間において、この度赴任のエルサルバドル国駐節特命全権大使林祐一及び同夫人、サウジアラビア国駐節特命全権大使鈴木千夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

五日 金曜日 午後、皇居内覆馬場に天皇と共にお出ましになり、御結婚満五十年に際し、イラク国

大統領アハマッド・ハッサン・アル・バクルより贈られた同国産アラブ馬二頭を、車馬官松林二郎の説明により御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、外交贈答録

九日 火曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のメキシコ国駐節特命全権大使鈴木孝、ギリシヤ国駐節特命全権大使神原富比古及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

ベネズエラ国特命全権大使フレディー・アロチャ・カストレサナ及び同夫人・息女、ナイジェリア国特命全権大使イグナティウス・ジュリアス・ダワー・ダーロング及び同夫人、タイ国特命全権大使ソムポン・スチャリトクン及び同夫人・息女を招かれ、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

台風八号に伴う集中豪雨により甚大な被害を受けた香川県・静岡県・神奈川県に、それぞれ天皇・皇后よりお見舞金を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

十五日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のユーゴスラビア国特命全権大使
ヨージェ・スモレ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見
録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十七日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のアラブ首長国連邦特命全権大使
ラシド・アブドル・アジーズ・アル・マハーウィを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職
日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十八日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のトルコ国特命全権大使シユク
リュ・エレキダーを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、
外交贈答録、宮内庁庁報

十九日 金曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、この日誕生日を迎えた正仁親王妃華子と御対
面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

元主厨長秋山徳蔵去る十四日死去につき、この日、天皇・皇后より祭染料を賜う。これとは別に、天
皇・皇后より霊前に切り花・菓子を賜う。なお、去る十一日には、皇后より入院中の同人にバラを賜
う。○女官長日記、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

二十日 土曜日 去る十一日、コスタリカ国大統領夫人より、今般来日の同国外務省儀典次長に託さ
れたラン同国の
国花の株及び切り花が献上される。これに対し、同夫人への謝意伝達を宮内庁長官に仰せ付
けられ、この日この旨が長官より外務大臣に伝達される。○女官長日記、外交贈答録

二十三日 火曜日 東久邇成子の祥月命日につき、終日吹上御所において過ごされる。○女官長日記、女

昭和四十九年七月

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録

二十四日 水曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のニュージールランド国駐筭特命全権大使田中秀穂及び同夫人、ヨルダン国駐筭特命全権大使土屋南夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に月の間において、文化勲章受章者前田青邨が今春の日本美術院展覧会に出品した作品十五点を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

午後、正殿梅の間において、新任のブルガリア国特命全権大使ルーメン・スラヴェイコフ・セルベゾフ及び同夫人、ベトナム共和国特命全権大使グエン・チュウ・ダン及び同夫人を順次御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 木曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、国際オリンピック委員会¹。理事竹田恒徳より第七回アジア競技大会²。この年九月イラン、次回のオリンピック大会³。昭和三十二年七月からカナダ国モントリオール市において開催等についてお

聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十九日 月曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のアラブ首長国連邦駐筭特命全権大使小高正直及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のガボン国特命全権大使クリストフ・ブパナ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮

内庁庁報

三十日 火曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 水曜日 午前、正殿梅の間において、新任の米国特命全権大使ジェイムズ・デイ・ホッドソン及び同夫人、カンボジア国特命全権大使クン・ウイック及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八月

二日 金曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時四十八分御出門、午後零時三十七分同邸に御到着になる。午後、天皇と共に御用邸御庭にお出ましになり、植物を御調査になる。これ以降御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

六日 火曜日 広島原爆の日につき、午前中、静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

八日 木曜日 午前九時四十分天皇と共に御出門、深山ダム管理事務所、ついで沼原発電所を御視察になる。午後零時十五分帰邸される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓綴、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録

十一日 日曜日 早朝、北白川房子死去の報をお聞きになる。この日より七日間服喪される。天皇・皇后より弔問使として侍従卜部亮吾を千代田区三番町の宮内庁分室の靈前^{遺体は宮内庁病院より移され同室に安置}に差し遣わさ

昭和四十九年八月

れる。また、天皇・皇后より盛花を、皇后より果物を靈前にお供えになる。北白川房子は明治天皇の第七皇女として、明治二十三年一月二十八日に生まれ、周宮と称する。四十二年、成久王北白川宮と結婚し、一男三女を儲ける。昭和二十二年に皇族の身分を離れ、北白川姓を名乗り、同年神宮祭主に就任する。二十七年には宗教法人神社本庁総裁となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、皇親録、重要雑録、墓誌銘録、那須御用邸行幸啓録

十四日 水曜日 一時御帰京のため、午前八時四十三分天皇と共に那須御用邸を御出門、十一時二十七分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

午後、天皇と共に吹上御所において、北白川房子死去につき御機嫌伺いのため参殿の故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

正殿梅の間において、この度赴任のフィリピン国駐筭特命全権大使沢木正男及び同夫人、クウエート国駐筭特命全権大使高橋正太郎及び同夫人、ニカラグア国駐筭特命全権大使谷新太郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報
天皇と共に鳳凰の間において、来る十六日より三十日までオーストラリア国を旅行する徳仁親王の随従員大金瑞穂東宮侍従の拝謁をお受けになる。天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王と御夕餐を御会食になり、その際、同親王より旅行の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、宮内庁庁報

十五日 木曜日 午前十一時四十八分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓され、政府主催の全国戦

没者追悼式に御臨席になる。午後零時二十四分還啓される。なお、同追悼式を行う厚生省に対し、天皇・皇后より生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、賜与録、宮内庁序報、官報

去る十一日死去の北白川房子との御永訣のため、午後二時二十八分御出門、天皇と共に千代田区三番町の宮内庁分室に行啓される。喪主北白川道久房子の孫及び北白川祥子房子の子息故永久王の夫人、女官長のお出迎えをお受けになった後、正寝の間食に入られ、天皇に続き祭壇へ進まれ御拝礼になる。終わって同所を御発の際、道久・祥子の挨拶をお受けになる。同五十二分還啓される。行幸啓に際し、天皇・皇后より霊前に花をお供えになる。翌十六日には遺骨去る十三日密葬執行が同室から北白川邸に移され、その霊前に皇后より吹上御苑の花をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、皇親録、重要

雑録

十八日 日曜日 この日、去る十一日の北白川房子死去による七日間の御喪明けにつき、午前、吹上御所において御喪明けの清祓が行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、賢所諸件

十九日 月曜日 午前、花の間において、新任の皇宮警察本部長猪瀬彰三・前皇宮警察本部長長雨森和雄ほか二名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、官報

二十日 火曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時四十八分御出門、午後零時三十七分同邸に御到着になる。なお、北白川房子死去のため、御出発日が十六日からこの日に変更された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務

昭和四十九年九月

所日誌、宮内庁序報

二十二日 木曜日 午前十時御出門、天皇と共に那須町共同利用模範牧場に行啓され、放牧場、畜舎等を御視察になる。十一時三十分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓綴、那須御用邸行幸啓録、幸啓録

来る九月一日よりイラン国テヘラン市において開催される第七回アジア競技大会に日本選手団が参加するに当たり、天皇・皇后より財団法人日本体育協会に御奨励金を賜う。○賜与録、宮内庁序報

二十四日 土曜日 故北白川房子の葬儀当日につき、お慎みになる。なお、昨二十三日執行の一般通夜には、天皇・皇后より賜物使として侍従山本岩雄を青山斎場に差し遣わされ、北白川道久に祭資を賜い、霊前に白羽二重・榊・菓子をお供えになる。この日の同所における葬儀には、皇后宮使として侍従卜部亮吾を差し遣わされる。遺骨はこの日、豊島岡墓地に埋葬される。○女官長日記、女官日誌、皇親録、重要雑録

二十八日 水曜日 午後、植物御調査のため、天皇・鷹司和子^{二十五日参邸}と共に、この日参邸した東京大学

名誉教授本田正次以下五名の植物学研究者を伴われ、那須山麓有料道路^{塩那スカイライン}を経て木の俣橋付近までお出ましになり、周辺の林を御散策になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、贈賜録、北村四郎関係文書

九月

一日 日曜日 関東大震災の日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

四日 水曜日 午前十時十分御出門、天皇と共に社会福祉法人みその会聖園那須老人ホームに行啓され、静養室ほかを御巡覧になり入居者を慰問される。十一時二十分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓綴、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

六日 金曜日 午前、天皇と共に澄空亭において宮内記者会会員十四名とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、今夏卓球をしたことについて、また絵画の制作についての質問をお受けになる。卓球に関しては、学生時代に経験があり時折女官としていた旨、絵画に関しては、あまり進んでいない旨をお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、天皇記者会見、那須御用邸管理事務所日誌

九日 月曜日 久邇^御_母倂子の祥月命日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、典式録

十日 火曜日 午前、天皇と共に嚶鳴亭へお出ましになる。御到着後、栃木県林務観光部長弘田尊勇よりキジ放鳥の概要についてお聞きになり、ついで天皇と共にキジを放たれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、天皇記者会見、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

十三日 金曜日 午前八時四十三分天皇と共に那須御用邸を御出門、十一時二十七分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃及びオーストラリア国旅行より帰国の徳仁親王と御夕食

昭和四十九年九月

を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

人事院総裁佐藤達夫昨十二日死去につき、この日の通夜に当たり、天皇より菓子を、皇后より切り花をそれぞれ霊前にお供えになる。○侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のスイス国駐劄特命全権大使力石健次郎及び同夫人、ルーマニア国駐劄特命全権大使石川良孝及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、賜与録、宮内庁庁報、官報

十八日 水曜日 午前、正殿梅の間において、赤十字国際委員会駐日名誉代表ハリー・カール・アングスト及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宮殿行事録

二十日 金曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣表彰の第二十六回保健文化賞受賞者等の拝謁を受けられる。厚生大臣斎藤邦吉の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宣召録、宮内庁庁報

二十一日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る八月三十日に成年に達した東久邇優子の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より同人に白羽二重を賜う。また、これとは別に洋服地^{紅葉山御養蚕所産}及び

び万那料等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十三日 月曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のブラジル国特命全権大使パウロ・リヤオン・デ・モロー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十七日 金曜日 午前、御訪欧三周年に当たり、天皇と共に正殿梅の間において、元首席随員福田赳夫始め随員の拝謁をお受けになる。福田元首席随員の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。引き続き豊明殿脇において、一同と共に御訪欧の記録映画を御覧になる。終わって連翠北において、午餐を催される。ついで連翠南において、お茶の席を設けられる。午後、天皇と共に御車寄内広間において、元随行員等の拝謁をお受けになる。元随行員森岡恭三郎の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録

外務省からの要請により、この度来日の前ニカラグア国大統領アナスタシオ・ソモサ・デバイレこの年十二月

に大統領再就任予定の夫人に、花束をお贈りになる。○女官長日記、外交贈答録

二十九日 日曜日 故北白川房子五十日祭につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、重要雑録

三十日 月曜日 天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた鷹司和子と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

正仁親王・同妃華子結婚満十年につき、同妃にお祝いの品を賜う。○女官長日記

昭和四十九年度国民たすけあい共同募金運動御奨励のため、社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后より金一封を賜う。○賜与録、宮内庁庁報

昭和四十九年十月

十月

一日 火曜日 天皇と共に連翠において、バングラデシュ国特命全権大使アブドウル・ムンタクイム・チョードリ、モンゴル国特命全権大使ソノムドルジン・ダンバダルジャー及び同夫人、マダガスカル国特命全権大使アルマン・ラザフィンドラベ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

竹田恒和元皇族竹田恒徳の第三男子 来る七日結婚につき、天皇・皇后より竹田恒徳に清酒及び鮮鯛代料を、恒和に白羽二重等を賜う。○贈賜録、旧皇族雑録

二日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この度北白川房子死去による喪が明けた北白川道久の拝謁をお受けになり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

第六十一回列国議会同盟会議開会式に御臨席のため、午後二時四十二分御出門、天皇と共に国会議事堂に行啓される。御到着後、御休所において、衆議院議長前尾繁三郎より列国議会同盟評議員会議長ガーディアル・シン・デイロンインド国下院議長の紹介を、参議院議長河野謙三より列国議会同盟事務総長ピオ・カルロ・テレンチオ元ユネスコ人事局長の紹介をお受けになり、天皇に続き、御握手及びお言葉を賜う。ついで参議院議場における式典に臨まれる。終わって、三時四十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

三日 木曜日 午後、天皇と共に春秋の間において、藍綬褒章を受章した最高裁判所関係功労者等の

拜謁をお受けになる。東京地方裁判所調停委員野島武吉より挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五日 土曜日 午後、第六十一回列国議会同盟會議に列席の各国議員団代表及び配偶者等を招待され、天皇と共に宮中茶会を催される。天皇と共に各国議員団代表及び配偶者等を御引見、御握手になる。

その後、被招待者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、列国議会同盟會議茶會書類、宮殿行事録、宮内庁庁報

米国大統領夫人ベティ・フォードの病氣入院につき、天皇・皇后からのお見舞いの意を同国大統領に伝えるよう御下命があり、この日、宮内庁長官より外務大臣にこの旨が通知される。○外交慶弔録

八日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日独定期協議出席のため来日中のドイツ連邦共和国外務大臣ハンス・デイトリツヒ・ゲンシャール及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外交雜録

九日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任の中央アフリカ国特命全權大使ネストル・コンボ・ナグモン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十一日 金曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、アジア競技連盟名誉副会長竹田恒徳より去月イラン国テヘラン市において開催の第七回アジア競技大会に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、賜与録

午後一時二十六分天皇と共に御出門、この年創設百年目を迎えた気象庁、この年創刊満百年を迎えた

昭和四十九年十月

読売新聞社に順次行啓され、御視察になる。四時二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

十四日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のマダガスカル国特命全権大使アルマン・ラザフィンドラベ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のリベリア国特命全権大使アーネスト・イーストマン、メキシコ国特命全権大使マヌエル・アルバレス・ルーナ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

十五日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のイスラエル国特命全権大使エイトン・ロン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十六日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、在日米軍司令官兼第五空軍司令官ウォールター・T・ガリガン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、外務省賓客として来日中の国連世界食糧会議事務局長サイド・アハマド・マレイ及び同夫人を御引見になる。なお御引見に先立ち、同夫妻より天皇・皇后に金属製燭台の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内

庁庁報

十七日 木曜日 午前、神嘗祭が行われ、吹上御所前庭に設えられた御遙拝所より神宮を遙拝される。

ついで神嘗祭賢所の儀にお出ましになり、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典

式録、祭典録、宮内庁庁報

この日より二十二日まで大阪阪急百貨店において「秋のぼら会展」財団法人日本ばら
会関西支部主催開催につき、吹上御所

前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。○女官長日記、贈賜録

十八日 金曜日 午前、正殿梅の間において、新任のペルー国特命全権大使ホルヘ・ベランド・ウガルテツチエ及び同夫人、スペイン国特命全権大使ホセ・アラゴネス・ピラ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、この度吹上御所内に新築落成した女孀雑仕室等を天皇と共に御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

十九日 土曜日 茨城県において開催される第二十九回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に二十三日まで同県に行啓される。午前十時十三分御出門、東京駅より水戸駅を経て、茨城県庁に御到着になる。二階バルコニーより市民の奉迎にお応えになり、御昼食の後、財団法人茨城県教育財団茨城県歴史館、茨城県立コロニーあすなろを順次御視察になる。午後四時御泊所水戸京成ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、茨城

県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十日 日曜日 午前九時四十六分天皇と共に御泊所水戸京成ホテルを御出発、弘道館水戸藩
の藩校にお着きになり、館内を視察される。ついで偕楽園を御訪問になり、園内を巡覧される。その後、茨城県護国

昭和四十九年十月

神社に立ち寄り、拝殿前までお進みになり御拝礼になる。茨城県公館において御昼食後、茨城県笠松運動公園陸上競技場における第二十九回国民体育大会秋季大会開会式に臨まれる。その後日立市に向かわれ、午後三時五十五分、御泊所日立製作所大みかクラブに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、茨城県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十一日 月曜日 午前九時三十二分天皇と共に御泊所日立製作所大みかクラブを御出発、日立市民運動公園野球場において国体軟式野球競技を、日立製作所大みかサッカー場において国体蹴球競技をそれぞれ御覧になる。次に日本原子力研究所東海研究所を御視察になる。同所において御昼食の後、東海村阿漕ヶ浦運動公園ホッケー場において国体ホッケー競技を御覧になる。ついで動力炉・核燃料開発事業団大洗工学センターを御視察になる。午後五時御泊所鹿島セントラルホテルに御到着になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、茨城県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十二日 火曜日 午前十時天皇と共に御泊所鹿島セントラルホテルを御出発、鹿島港湾合同庁舎を御訪問、鹿島臨海工業地帯を御展望になる。ついで鹿島神宮をお訪ねになり、天皇に続いて御拝座において御拝礼になる。終わって、東村役場において御昼食をお召し上がりになる。雨天につき、土浦市川口運動公園庭球場における国体庭球競技御観戦はお取りやめとなり、午後二時二十分御泊所の土浦市国民宿舍水郷に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、茨城県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十三日 水曜日 午前九時三十四分天皇と共に御泊所の土浦市国民宿舍水郷を御出発、科学技術庁無機材質研究所を御視察になる。ついで茨城県立鬼怒商業高等学校において国体フェンシング競技を

御覧になる。同校にて御昼食後、古河駅より原宿駅を経て、午後四時一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、茨城県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十五日 金曜日 この日より二十九日まで上野京成百貨店において「秋の日本ばら会展」財団法人日本ばら会主催開催につき、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を出品される。二十八日にも御出品になる。○女官

長日記、贈賜録

二十八日 月曜日 午前九時三十分天皇と共に御出門、社会福祉法人川崎市福祉会鷺ヶ峯老人ホームに行啓され、特別養護棟・養護棟を御巡覧になる。ついで株式会社よみうりランドを御訪問、海水水族館において海洋生物等を御覧になる。午後零時四十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、正殿梅の間において、新任のガボン国特命全権大使シドワヌ・ムーニョン及び同夫人、トリニダード・トバゴ国特命全権大使ソロモン・サトクマル・ラツチマン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

二十九日 火曜日 午前、天皇と共に松風の間において、松栄会会員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

午後、正殿梅の間において、新任のベルギー国特命全権大使ラウル・ドゥールマン及び同夫人、アラブ首長国連邦特命全権大使アハメド・サーリム・アル・モカッラブ及び同夫人を順次御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

三十日 水曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、秋の園遊会を催される。午後二時二分天皇と

共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時四十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、園遊会録、東宮録、宮内庁庁報、官報

十一月

二日 土曜日 インドネシア国御訪問の帰途お立ち寄りのベルギー国国王ボードワン一世及び同王妃ファビオラをお出迎えのため、午後五時十六分御出門、天皇と共に東京国際空港に行啓される。天皇と共に国王・王妃をお出迎えの後、王妃と御同車になり、迎賓館赤坂離宮に向かわれる。御到着後、正面玄関ホールにおいて国王及び王妃に暇乞いの御挨拶を告げられ、七時三十八分還啓される。御入京に当たり、皇后より王妃に花束を贈られる。

九時、天皇と共に正殿竹の間において、ベルギー国国王及び王妃御来訪につき御会見になる。ついで同三十分より連翠北において宮中晚餐を催される。なお、この度の御来訪に当たり、天皇より国王にあじろ描藷醬小筍、皇后より王妃に色紙額を御贈進になる。また、国王及び王妃より天皇・皇后に現代刺繡額「歌う鳥」の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

三日 日曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、全日本健康優良学校児童表彰会朝日新聞社主催から表彰された健康優良児童及び健康優良学校代表等の拝謁をお受けになる。同表彰会会長広岡知男朝日新聞社社長より挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四日 月曜日 午前九時四十七分御出門、天皇と共に東京国際空港に行啓され、ベルギー王国王ボドワン一世及び同王妃ファビオラをお見送りになる。十一時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、宮内庁序報、官報

六日 水曜日 午後、天皇と共に春秋の間において、黄綬褒章又は藍綬褒章を受章した厚生省関係功

労者等の拝謁を受けられる。厚生大臣齋藤邦吉より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁序報

七日 木曜日 昨年秋季第六十回式年遷宮が行われた神宮に御参拝のため、天皇と共に三重県に行啓さ

れる。午前九時二十九分御出門、東京駅を御発車になり、名古屋駅にて乗り換えられ、近鉄名古屋駅より宇治山田駅に向かわれる。午後一時二十三分宇治山田駅に御着車、それより皇大神宮に向かわれ、御泊所の内宮齋館に御到着、御少憩になる。次に豊受大神宮に向かわれ、外宮齋館にお着きになる。御潔斎の後、天皇の御拝礼に続き、正殿階下の御座に進まれ、御拝礼になる。四時四十分御泊所内宮齋館に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁序報、官報

八日 金曜日 午前九時、天皇と共に内宮齋館において御潔斎になる。天皇の皇大神宮御参拝終了後、十時三十二分内宮齋館御座所をお発ちになり、皇大神宮の正殿階下の御座に進まれ、御拝礼になる。皇大神宮御参拝に際して、次の御歌をお詠みになる。

おだやかに冬たつこの日みともして伊勢の宮居にまうでけるかな

内宮齋館にお戻りになり、天皇と共に神宮祭主鷹司和子の挨拶をお受けになる。ついで大宮司徳川宗

敬・少宮司慶光院俊の拝謁をお受けになる。続いて神宮責任総代三名、崇敬者総代・顧問四名の拝謁を順次お受けになる。なおこの度の御参拝に際し、天皇・皇后より皇大神宮及び豊受大神宮にそれぞれ幣帛料・神饌料を、別宮十四箇所それぞれ幣帛料・神饌料を御奉納になる。十一時四十四分天皇と共に内宮齋館を御出発になり、宇治山田駅を御発車、近鉄名古屋駅にて乗り換えられ、名古屋駅を御発車、東京駅に御着車、午後四時三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報、官報、神宮彙報

十二日 火曜日 天皇と共に連翠において、パキスタン国特命全権大使サルタン・モハメッド・カーン及び同夫人、パナマ国特命全権大使ホセ・ナポレオン・フランコ及び同夫人、大韓民国特命全権大使金永善及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、米国駐箚特命全権大使安川壯より同国についで進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

十九日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、国賓として来日の米国大統領ジェラルド・ルドルフ・フォードと御会見になる。その際、大統領より天皇・皇后御訪米の招請がある。写真撮影をお受けになった後、御贈進品が披露され、天皇・皇后より大統領に九谷焼大飾皿金襴手割取更紗小紋文様、皿立て付きを御贈進になる。また、大統領より天皇・皇后に三角柱ガラス置物セコイアの模様、スチューベン・グラス社製が贈られる。なお、

この日、政府より、米国大統領から天皇・皇后御訪米の招請があり、天皇・皇后に適当な時期に御訪米願うよう取り組む所存である旨が発表される。

午後七時三十分、天皇と共に豊明殿において、米国大統領のために宮中晩餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、外交贈答録、米国大統領訪日関係、宮殿行事録、天皇皇后両陛下御訪米記録、宮内庁庁報、官報、読売新聞

二十日 水曜日 午後七時四十二分御出門、天皇と共に迎賓館赤坂離宮に行啓され、米国大統領、ジェラルド・ルドルフ・フォード主催の晩餐会に御出席になる。十時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

二十一日 木曜日 午後一時五十七分御出門、天皇と共に帝国ホテルに行啓され、医制百年記念式典に御臨席になる。二時三十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に春秋の間において、黄綬褒章、紫綬褒章又は藍綬褒章を受章の文部省関係功労者等の拝謁を受けられる。紫綬褒章受章者堀口申作の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、日仏定期協議に出席のため来日したフランス国外務大臣ジャン・ソーヴァニヤルグ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に宮殿北溜において、文部大臣表彰の教育功労者等の拝謁を受けられる。神奈川県立相模原高等学校長落合渉の挨拶をお受けになり、天皇に続き、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宣召録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のマレーシア国特命全権大使リム・テック・チューン、スリランカ国特命全権大使バーナード・ペレラ・ティラカトナ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十六日 火曜日 午後、花の間において、新任の宮内庁次長富田朝彦及び前任の宮内庁次長瓜生順良の拝謁を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、例規録、贈賜録、宮内庁序報、官報

二十七日 水曜日 元侍従久松定孝去る二十日死去につき、この日、天皇・皇后より祭糒料を賜う。

これとは別に、天皇・皇后より靈前に切り花・果物・菓子を賜う。久松は、皇后の御従兄御母偲子の姉
貞子の子息に当たり、天皇の御学友や侍従を務めた。○女官長日記、恩賜録、贈賜録、宮内庁序報

二十八日 木曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に宮内庁庁舎講堂において、宮内庁職員組合による文化祭美術展を御覧になる。同展に「旭岳の麓」「森の中」「溪流」などの日本画五点を御出品になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

午後、重要無形文化財財保持者による邦楽演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。梨本伊都子始め元皇族等が陪席する。御休所において、陪聴のため先着の皇太子妃・正仁親王妃華子と御対面になり、御一緒に会場にお入りになる。演奏会では、松本謙三の舞・森茂好他の地謡による能の仕舞「羅生門」、杵屋六左衛門他の唄・杵屋勘五郎他の三味線による長唄「壇の浦」、中村歌右衛門の舞

踊・常磐津千東勢太夫他の浄瑠璃・常磐津菊三郎他の三味線・田中伝左衛門他の囃子による舞踊「年増」を御鑑賞になる。演奏会終了後、御休所において重要無形文化財保持者である松本謙三・杵屋六左衛門・中村歌右衛門・常磐津菊三郎の拝謁をお受けになり、その他の出演者一同にも御会釈を賜う。なお、出演者にそれぞれ賜品がある。○女官長日記、女官日誌、賜与録、旧皇族雑録

三十日 土曜日 午前、花の間において、宮内庁職員文化祭にて皇后の御作品を拝見するため参内した御学友等、及び元女官の拝謁を順次お受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、重要雑録

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

十二月

二日 月曜日 午後、糸竹会会員による雅楽^管演奏をお聴きになるため、楽部にお出ましになる。鏡の間において、双調調子、賀殿急、胡飲酒破、酒胡子をお聴きになり、終わって御休所において、糸竹会会長甘露寺受長及び演奏者等十五名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、糸竹会天皇と共に吹上御所において、今般退官の前宮内庁次長瓜生順良と御夕餐を共にされる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

これより先、ガーナ国家救済評議会議長イグナティウス・クツ・アチャンボンより、昨十一月同国を訪問の外務大臣木村俊夫を通じて天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはガーナ民族衣装布地及び石製鳥の置物が贈られる。これに対し、この日、宮内庁長官より、天皇・皇后の謝意を同議長に伝

えるよう外務大臣に依頼がある。○外交贈答録

三日 火曜日 元宮内庁御用掛高木多都雄昨二日死去につき、この日、天皇・皇后より祭糒料を賜う。これとは別に、天皇・皇后より切り花・菓子、皇后より果物を霊前に賜う。高木は、大正十二年宮内省御用掛となり、その後昭和四十年まで、皇后宮職御用掛、女官、侍従職御用掛、宮内庁御用掛等を歴任した。また、同人は皇后の英語進講等を務めた。○女官長日記、贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報

四日 水曜日 雍仁親王例祭につき、午前、吹上御所において静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌

六日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のドミニカ共和国特命全權大使アルマンド・ヘルマンを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、

外交贈答録、宮内庁庁報

元侍従次長木下道雄昨五日死去につき、この日、賜物使として侍従田中直を同人邸に差し遣わされ、天皇・皇后より祭糒料を賜う。八日には、霊前に盛菓子を賜う。告別式が行われる十三日には、天皇・皇后より霊前に切り花・菓子・果物を賜う。木下は、大正十三年東宮侍従に就任し、翌十四年に侍従を兼任、以後、内匠頭・帝室会計審査局長官等を歴任する。昭和二十年皇后宮大夫兼侍従次長となり、翌年退官するが、二十二年まで宮内省御用掛を務めた。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、

宮内庁庁報

九日 月曜日 歌道御奨励のため、向陽会へ金一封を賜う。○賜与録

十日 火曜日 天皇と共に連翠において、菊栄親睦会会員をお招きになり午餐の御陪食を賜う。御会

食に先立ち、泉の間において、この年米寿を迎えた朝香鳩彦・東久邇稔彦に天皇・皇后よりお祝いの品及び万那料等を賜う。また、会員一同より御結婚満五十年のお祝いの品の目録献上を受けられる。御食後、石橋の間においてお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

典式録、宣召録、菊栄親睦会録、贈賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十一日 水曜日 午前、花の間において、日本赤十字社長東竜太郎の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十二日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く離任のベネズエラ国特命全権大使フレディー・アロチャ・カストレサナ及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十六日 月曜日 夕刻、賢所御神楽につき、女官市村菊重に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十七日 火曜日 オーストラリア国特命全権大使キース・チャールス・オーエン・シヤン、ヨルダン国特命全権大使アーメル・アブデル・カーデル・シヤンムート及び同夫人、イタリア国特命全権大使カルロ・ペッローネ・カパーノを招かれ、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午前、花の間において、京都在住堂上会総代植松雅房の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

二十三日 月曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総

代の祝賀を、ついで女官長始め女官、元女官長始め元女官、元皇子傳育官の祝賀をお受けになる。ついで同所において、皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、

贈賜録、東宮録

二十四日 火曜日 事業御奨励のため、天皇・皇后より日本赤十字社に金一封を、皇后より財団法人結核予防会に金一封をそれぞれ賜う。○賜与録、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十五日 水曜日 午前、大正天皇祭皇靈殿の儀につき、女官長北白川祥子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、同御神楽の儀につき、同じく女官長に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のアルゼンチン国特命全権大使ホルヘ・カワバタ及び同夫人、アフガニスタン国特命全権大使アリ・アハマド・ポパル及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮内庁庁報

二十九日 日曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官、ついで皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後一時四十分より天皇と共に正殿松の間において、憲仁親王成年式朝見の儀に臨まれる。式中、憲仁親王より謝恩の辞をお受けになり、天皇に続き、いよいよ健やかに学業に励むことを希望する旨のお祝いのお言葉を賜う。ついで天皇に続き、親王に御盃をお授けになる。終わって御退出になる。その後、天皇と共に鳳凰の間において、崇仁親王・同妃百合子及び大勲位菊花大綬章を佩用の憲仁親王

よりお礼言上をお受けになる。なお、憲仁親王の成年式に当たり、天皇・皇后より憲仁親王に金員を、別に白羽二重・洋服地・万那料等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、重要雜録、皇親録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

昭和五十年（西曆一九七五年） 七十二歳

一月

一日 水曜日 午前九時四十五分より天皇と共に宮殿における新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・宣仁親王・憲仁親王、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官及び各国外交使節団の長等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀の前又は各祝賀の間に、徳仁親王・文仁親王・清子内親王、元皇族・御縁故者のほか、宮内庁長官始め部局長及び側近奉仕者等よりの祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、宮殿行事録、宮内庁序報、官報

二日 木曜日 新年一般参賀につき、午前三回・午後六回の計九回、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に長和殿、ペランダに出御され、宮殿東庭の一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、当直日誌、年末年始行事、典式録、宮殿行事録、宮内庁序報、官報

一回目の新年一般参賀お出ましの後、天皇と共に正殿竹の間において、元側近奉仕者・元部局長等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録

三日 金曜日 午前、元始祭につき、女官長北白川祥子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、儀式録、祭典録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になり、天皇・皇后よりの賜品についてのお礼言上をお受けになる。この年は親王が古希を迎えたため、通例の鮮鯛代料とは別にお品料等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、贈賜録

七日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴く新任のバチカン国駐劄特命全権大使猪名川治郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のスイス国特命全権大使ジョヴァンニ・エンリコ・ブツヘルを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

新年につき、午後、天皇と共に鳳凰の間において元女官・元傳育官の、ついで宮殿御車寄前において元女嬬・元出仕・元雑仕等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録

花の間において、服部豊子^{ヴァイオリスト}、御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

八日 水曜日 午前十時三十分、天皇と共に正殿松の間において、講書始の儀に臨まれる。東京大学名誉教授中村元より「原始仏教の成立」、同川野重任より「産業としての農業」、日本学士院会員東京大学名誉教授小川鼎三より「解体新書の成立とその意義」と題する進講をお聴きになる。進講後、天

昭和五十年一月

皇と共に正殿竹の間において、進講者及び進講者控の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、年末年始行事、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、

この年は概ね水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

九日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のポルトガル国特命全権大使マヌエ

ル・ロドリゲス・デ・アルメイダ・コウテイニヨ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、花の間において、中宮寺門跡の日野西光尊、ついで三時知恩寺門跡の久我信成の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録

天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は月に二回から四回程度、吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十日 金曜日 午前十時三十分、天皇と共に正殿松の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「祭り」であり、皇后宮御歌は左のとおり。

皇后宮御歌

星かげのがやく空の朝まだき君はいでます歳旦祭に

儀終了後、天皇と共に正殿竹の間において、召人・選者・諸役並びに同控の拝謁をお受けになる。引

き続き天皇と共に宮殿回廊において、預選者の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、年末年始行事、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十二日 日曜日 この日、天皇の御風気のため、綱町三井倶楽部における憲仁親王成年式祝宴への行啓をお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、皇親録

十六日 木曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、第十八回日本学生科学賞^{全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援}入賞

者代表等の拝謁をお受けになる。読売新聞社代表取締役社長務台光雄より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁

庁報、読売新聞

天皇と共に鳳凰の間において、来る十八日からエジプト国を訪問する崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、挨拶をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、首席随員田村秀治^{元特命全權大使}の拝謁をお

受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のフランス国特命全權大使フランソワ・ルフエーヴル・

ド・ラブレール及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮

殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十七日 金曜日 天皇と共に連翠北において、エジプト国特命全權大使モホセン・アブデル・カレッツク、ローマ法王庁大使大司教イッポリト・ロトーリ、ドイツ民主共和国特命全權大使ホルスト・ブリー及び同夫人のため、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事

録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のポリビア国特命全權大使アルマンド・ヨシダ・バーカ及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十三日 木曜日 午後、吹上御所において、大谷智子^{御妹}と御対面になる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十七日 月曜日 邦彦王^{御父}祥月命日につき、終日お慎みになる。○女官長日記、女官日誌

この日、天皇に謁見のトリニダード・トバゴ国首相エリック・ユースタス・ウィリアムズより金製腕輪が皇后に献上される。○女官長日記、女官日誌、外交贈答録、宮内庁庁報

三十日 木曜日 午前、孝明天皇例祭につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 金曜日 須崎御用邸に行啓のため、午後一時十三分天皇と共に御出門、四時四十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

二月

一日 土曜日 午前、天皇と共にカニ沢南側に造成の新道を経由して三井浜まで散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中は、御用邸敷地内及びその周辺をしばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

十二日 水曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に対し、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

十四日 金曜日 須崎御用邸より還啓のため、午後零時三十四分天皇と共に御出門、四時一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十七日 月曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る九日エジプト国より帰国の崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。ついで崇仁親王・同妃並びに近くネパール国を訪問予定の皇太子・同妃をお招きになり、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王妃喜久子、島津久永・同夫人貴子を交え、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

十八日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、今般ネパール国を訪問予定の皇太子・同妃の首席随員中川融及び随員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

天皇と共に連翠北において、チリ国特命全権大使カルロス・ベサ・リオン及び同夫人、リベリア国特命全権大使アーネスト・イーストマン、ブルガリア国特命全権大使ルーメン・スラヴェイコフ・セルベージツ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。その際、天皇・皇后がサボテンに興味を示されたため、この年九月にチリ国大使夫人より同国産の「夜の女王」と呼ばれるサボテンが献上される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において、去る九日エジプト国訪問から帰国した崇仁親王・同妃百合子の首席随

員田村秀治の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

十九日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴く新任のフランス国駐箚特命全権大使北原秀雄及び同夫人、ガーナ国駐箚特命全権大使村上謙及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に千草の間において、前フランス国駐箚特命全権大使中山賀博及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、典式録、宮殿行事録

夕刻、天皇と共に吹上御所において、翌二十日よりネパール国王戴冠式参列のため同国を訪問する皇太子・同妃と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴く新任のデンマーク国駐箚特命全権大使大和田涉及び同夫人、経済協力開発機構^{OECD}日本政府代表部特命全権大使平原毅及び同夫人、ポルトガル国駐箚特命全権大使大口信夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、御写真録、宮内庁庁報

来る三月六日に満七十二歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、日本赤十字社病院及び恩賜財団済生会病院の救助収容患者^{生活保護法適用患者}合計六千百名に、手拭い一筋ずつを賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

二十一日 金曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、女官市村菊重に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面に

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十六日 水曜日 天皇・皇后より、救らい事業御奨励の思召しをもって、藤楓協会に金一封を賜う。

なお、賜金には、『あけぼの集』天皇皇后両陛下御集 木俣修編、読売新聞社、昭和四十九年発行 の印税が充てられる。○恩賜録、藤楓協会創立三十

周年誌

二十七日 木曜日 午後、正殿梅の間において、今般着任のトルコ国特命全権大使ジェラル・エイジェオール及び同夫人、ユーゴスラビア国特命全権大使ミロスラヴ・クレアチツチ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十八日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この日ネパール国訪問より帰国の皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外交雑録

午後、正殿梅の間において、今般着任のイスラエル国特命全権大使シャウル・ラマテイ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日、天皇・皇后の米国御訪問が閣議決定され、宮内庁及び外務省より発表される。○侍従日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、閣議資料

三月

三日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る二月二十八日にネパール国訪問より帰国した皇太子・同妃の首席随員中川融及び随員の拝謁をお受けになる。引き続き、天皇と共に宮殿御車寄内広間において、随行員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮

昭和五十年三月

内庁序報

四日 火曜日 参与石坂泰三病氣入院中につき、お尋ねとして切り花を賜う。○女官長日記、贈賜録

六日 木曜日 満七十二歳のお誕生日を迎えられる。

午前、芳菊の間において、宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、芳菊の間において元側近奉仕者の祝賀を、通り廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、再び芳菊の間において元女官長・元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を順次お受けになる。

午後、花の間において東久邇文子・同優子の祝賀を、御車寄前において元女嬬等の祝賀を、再び花の間において元御用掛安東秀子・服部豊子、続いて御学友・御同級生七名の祝賀を順次お受けになる。その後、天皇と共に吹上御所において、徳仁親王・文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・憲仁親王、鷹司和子、島津久永・同夫人貴子と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、

宮内庁序報

七日 金曜日 須崎御用邸に行啓のため、午後一時十四分天皇と共に御出門、四時四十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、

宮内庁序報

八日 土曜日 祐子内親王祥月命日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌

参与石坂泰三去る六日死去につき、この日、賜物使として侍従小林忍を同人邸に差し遣わされ、天皇・皇后より祭糝料等を賜う。これとは別に、天皇・皇后より菓子・切り花を霊前にお供えになる。十二日には、天皇・皇后より御紋付銀花瓶を賜う。十四日に日本武道館において行われる葬儀には、天皇・皇后より生花をお供えになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内庁序報、官報

九日 日曜日 午前、天皇と共にお成道からミカン園方面にかけて散策され、植物を御調査になる。

御用邸御滞在中は、御用邸敷地内及びその周辺をしばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

十二日 水曜日 午前九時四十七分天皇と共に須崎御用邸を御出門、伊豆急下田駅を御発車、伊豆高原駅にて降車され、伊東市の伊豆シヤボテン公園及び伊豆サファリ公園を御視察になる。午後二時五十八分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

十八日 火曜日 午後零時三十四分天皇と共に須崎御用邸を御出門、四時一分皇居に還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

二十日 木曜日 午前九時四十五分御出門、天皇と共に日本放送協会^{NH}放送センター^Kに行啓され、放

送開始五十周年記念式典に御臨席になる。なお、式典の前後、展示品を御覧になり、記念公演^{「舞踊」}に御鑑賞になる。午後零時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人^ム響楽団演奏^{NHK}を御鑑賞になる。

昭和五十年三月

日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、NHK放送博物館所蔵資料

二十一日 金曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、女官長北白川祥子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、去る二日結婚の東伏見守叔及び同夫人具子、守叔の両親の東伏見慈治^{御弟}及び同夫人保子と御対面になる。なお天皇・皇后よりお悦びとして、守叔・具子それぞれに万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、旧皇

族録

二十四日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴く新任のポーランド国駐劄特命全権大使高杉幹二及び同夫人、キューバ国駐劄特命全権大使奈良賀男及び同夫人、ブルガリア国駐劄特命全権大使穂崎巧及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日学習院中等科を卒業した徳仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。天皇・皇后より親王に万那料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

二十五日 火曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、今般昭和女子大学短期大学部を卒業した東久邇優子の拝謁をお受けになる。天皇・皇后よりお品料・万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

天皇と共に連翠北において、キューバ国特命全権大使マリオ・ガルシア・インチャウステギ、アルゼ

ンチン国特命全権大使ホルヘ・カワバタ及び同夫人、ペルー国特命全権大使ホルヘ・ベランド・ウガルテツチエ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、財団法人藤楓協会会長葛西嘉資より、「わが国のらい、特に沖繩の事情について」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、藤楓協会創立三十周年誌

二十七日 木曜日 午前、花の間において、この日宮内庁御用掛の委嘱を解かれた加藤淳平フランス語通訳を担当の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、今般着任のタンザニア国特命全権大使ジョージ・ニグラ及び同夫人、ウルグアイ国特命全権大使アルベルト・ロドリゲス・ニン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三十日 日曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、昨二十九日スイス国・フランス国留学より帰国した容子内親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

四月

一日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、ルーマニア国駐劄特命全権大使石川良孝より、同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事

録

宮内庁病院に入院中の東久邇聡子に、この日の夕食より入院期間中、天皇・皇后より朝・昼・夕の食事を賜う。また翌日、天皇・皇后よりお尋ねとして果物を賜う。○贈賜録

財団法人日本ユニセフ協会に対し、事業御奨励のため金一封を賜う。○宮内庁庁報

二日 水曜日 午後、桃華楽堂にお出ましになり、昭和四十九年度東京都下五校の音楽大学卒業生による演奏会に御臨席になる。東京芸術大学卒業生による邦楽^等、桐朋学園大学卒業生によるヴァイオリン独奏、上野学園大学卒業生によるピアノ独奏、武蔵野音楽大学卒業生によるファゴット独奏、東京芸術大学卒業生によるヴィオラ独奏、国立音楽大学卒業生によるソプラノ独唱をお聴きになる。国立音楽大学卒業生によるソプラノ独唱において岡本敏明<sup>国立音楽大
学名誉教授</sup>作曲の貞明皇后御歌「ことくにの」

ことくにのいかなるをしへいりきて
もとかすがやがておほみくにぶり が演奏された際には、御起立になつてお聴きになる。御休憩の後、武蔵野音楽大学卒業生によるピアノ独奏、東京芸術大学卒業生によるオーボエ独奏、上野学園大学卒業生によるヴァイオリン独奏、国立音楽大学卒業生によるサクソフオン独奏、桐朋学園大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。故雍仁親王妃勢津子・寛仁親王が陪聴する。終わって、御休所脇廊下において各大学の担当教員等の拝謁をお受けになり、ついで御車寄前廊下において演奏者にお言葉を賜う。

なお、この日の出演者二十二名に御紋付銀製スプーンを賜う。○女官長日記、女官日記、内舎人日記、音楽大学卒業生演奏会、恩賜録

三日 木曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、女官原田リツに御代拝を仰せ付けられる。夕刻、

皇霊殿御神楽の儀につき、女官市村菊重に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

四日 金曜日 午前九時四十七分御出門、天皇と共に迎賓館赤坂離宮に行啓され、国賓として来日のルーマニア国大統領ニコラエ・チャウシエスク及び同夫人の迎賓行事に臨まれる。十時三十九分還啓される。なお、大統領夫妻の入京に際し、夫人に花束を贈られる。

午後零時三十分、天皇と共に正殿竹の間において、チャウシエスク大統領夫妻と御会見になる。一時より、天皇と共に豊明殿において、大統領夫妻のために宮中午餐を催される。御食後、石橋の間において、御贈進品が披露される。天皇・皇后より大統領に彫漆盛器^{梅紋}を、大統領夫人に佐賀錦ハンドバッグを御贈進になる。また、大統領夫妻より天皇・皇后に絨毯^{花柄手織}及びレース製のテーブルクロスとナ

プキンのセットが贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、ルーマニア国大統領参内録、外賓参内録、幸啓録、宮殿行事録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

七日 月曜日 今般徳仁親王が学習院中等科を卒業し学習院高等科に進学するに当たり、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交奩代料を賜う。また、徳仁親王には進学のお祝いとして、天皇・皇后よりお品料・万那料を賜う。○女官長日記、贈賜録

八日 火曜日 午後七時五十三分御出門、天皇と共に迎賓館赤坂離宮に行啓され、ルーマニア国大統領ニコラエ・チャウシエスク及び同夫人主催の晩餐会に御出席になる。十時十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、ルーマニア国大統領参内録、幸啓録、宮内庁庁報、官報

九日 水曜日 午前十一時五十二分御出門、天皇と共に迎賓館赤坂離宮に行啓され、ルーマニア国大

昭和五十年四月

統領ニコラエ・チャウシエスク及び同夫人の退京行事に御臨場になる。大統領夫妻より別れの挨拶をお受けになり、東京国際空港へ向かう夫妻をお見送りになる。午後零時二十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、ルーマニア国大統領参内録、幸啓録、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

十日 木曜日 午前、花の間において、フランス語通訳を担当する新任の宮内庁御用掛八木真幸外務省大臣官

房調査部
企画課長の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十一日 金曜日 昭憲皇太后の祥月命日につき、終日お慎みになる。○女官日誌

十三日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。来る十八日よりロンドン大学東洋アフリカ学部客員教授として同妃同伴にて訪英するに当たり、親王より挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、賢所諸件、宮内庁庁報

十七日 木曜日 午前、北溜において、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会主催の第七回愛育班員全国大会において総裁又は会長より表彰された愛育班員及び愛育班育成成功者の拝謁をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

午後、吹上御所において、大谷光暢・同夫人智子御、同光紹光暢の
子息・同夫人貴代子、及び今般得度の同光見光紹の
子息と御対面になる。退出の際、紅葉山御養蚕所産の生糸にて製作の織物裂やなぎ
に鷲等を光見に賜う。

○女官長日記、女官日誌

十八日 金曜日 午後、北溜において、財団法人結核予防会総裁より表彰された結核予防事業功労者の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、贈賜録

二十日 日曜日 午前、天皇と共に宮殿の南庭及び吹上御苑にお出ましになり、カメラマン吉岡專造による御訪米用お写真の撮影に臨まれる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、素顔の昭和天皇

二十三日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴く新任のベネズエラ国駐劔特命全権大使杉原真一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿梅の間において、新任のグアテマラ国特命全権大使カルロス・エンリケ・モリーナ・ムニョス、スイス国特命全権大使ピエール・キユエヌー及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日記、内舍人日誌、謁見録、宮内庁庁報

二十四日 木曜日 午後、花の間において、エスター・ビドル・ローズ^{元英語教師}を御引見になる。○女官長日記、女官日記、内舍人日誌

二十五日 金曜日 天皇と共に連翠北において、スペイン国特命全権大使ホセ・アラゴネス・ピラ及び同夫人、ベルギー国特命全権大使ラウル・ドゥールマン及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十六日 土曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の拝謁をお受けになる。厚生大臣田中正巳から挨拶をお受けになり、天

昭和五十年四月

皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

常磐会において恒例のバザー開催につき、切り花を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十八日 月曜日 午前、正殿梅の間において、今般着任のフランス国特命全権大使ジャン・ピエール・ブリュネ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁庁報

二十九日 火曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀、女官長始め女官の祝賀をお受けになる。その後、正殿梅の間において、皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。ついで花の間において、元女官長始め元奉仕者の祝賀をお受けになる。

午後一時、天皇と共に豊明殿において、天皇誕生日宴会の儀に臨まれる。その後、天皇と共に芳菊の間において、東久邇文子・同優子・壬生基博の祝賀をお受けになる。四時、天皇と共に春秋の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、例規録、宮内庁庁報

天皇誕生日一般参賀につき、午前四回にわたり、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に長和殿ベランダに出御され、宮殿東庭に参集の一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

三十日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のオランダ国特命全権大使テオドル・ポール・ベルフスマ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

五月

五日 月曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、昨四日の松平信子故雍仁親王妃の母七回忌への賜物についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、贈賜録

六日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、英国駐劄特命全權大使森治樹の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

七日 水曜日 午前、宮内庁病院に入院中の東久邇聡子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌
午後一時四十四分御出門、天皇と共に迎賓館赤坂離宮に行啓され、国賓として来日された英国女王エリザベス二世及び王配エディンバラ公フィリップの迎賓行事に御臨場になる。それより王配と御同乗天皇は女王と御同乗になり、二時四十五分皇居に到着される。ついで天皇と共に正殿竹の間において、女王・王配と御会見になる。終わって、御贈進品が披露される。天皇・皇后より女王に東山魁夷の絵画「春の曙」

を、王配に森芳雄の絵画「早春」を御贈進になり、皇后より女王に紅葉山御養蚕所製品の流模様裂地を、王配にお手製の絹織物を御贈進になる。また、英国女王より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはバーナード・リーチ作のエッチング「手賀沼我孫子」及びピーター・コーツ著『英国の偉大な庭園』が贈られる。なお、女王の御入京に際し、花束をお贈りになる。

八時、天皇と共に豊明殿において、再び御参内の英国女王及び王配のため宮中晩餐を催される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、英国女王陛下下訪日関係、外賓参内録、幸啓録、宮殿行事録、外交贈答録、

昭和五十年五月

恩賜録、宮内庁序報、官報

九日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

英国女王エリザベス二世及び王配エディンバラ公フィリップの御来訪を記念して開催の文化庁主催伝統芸能鑑賞会に御臨席のため、午後二時三十四分御出門、天皇と共に国立劇場に行啓される。女王・王配と共に舞楽、箏曲、歌舞伎を御鑑賞になり、四時十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、英国女王陛下下訪日関係、外賓参内録、幸啓録、宮内庁序報、官報

七時四十四分御出門、天皇と共に英国大使公邸に行啓され、英国女王エリザベス二世御主催の御晩餐に御出席になる。九時五十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、英国女王陛下下訪日関係、幸啓録、宮内庁序報、官報

十二日 月曜日 午後三時六分御出門、天皇と共に迎賓館赤坂離宮に行啓され、英国女王エリザベス二世並びにエディンバラ公フィリップの御退京行事に御臨場になる。女王及び王配よりお暇の御挨拶を受けられ、東京国際空港へ向かわれる女王・王配をお見送りになる。三時四十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、英国女王陛下下訪日関係、外賓参内録、幸啓録、宮内庁序報、官報

十三日 火曜日 日英ローズショー 英国大使館・日英協会・日英ローズショー委員会共催、外務省・農林省後援 を御覧になるため、午前九時四十分御出門、銀座松屋に行啓される。御着後、松屋会長古屋徳兵衛の先導によりエレベーターにて八階会場にお出ましになる。日英ローズショー委員会委員長茅誠司の先導にて、会場入口において皇太子妃、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王妃喜久子、英国公使ウエスト・レーク及び同夫人、日英協会理事長大

野勝巳のお迎えをお受けになる。ついで副委員長谷沢信夫の説明にて会場内の日本各地のバラ会出品、日本バラ切花協会出品、タワー状の切り花六千本、皇室御出品花

吹上御苑前庭において皇
后御栽培のバラの切り花

、外国出品花、

日英バラ交流史、造花による英国バラ等を御巡覧になる。十時二十九分還啓される。○女官長日記、女官

日誌、内舎人日誌、幸啓録、贈賜録、宮内庁序報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のリビア国特命全権大使ハサン・エルハーデー・ブクレス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事

録、外交贈答録、宮内庁序報

十六日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、同所主任山崎太郎の説明にて蚕が三眠に入る様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十七日 土曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

十八日 日曜日 大相撲五月場所八日目を御覧になるため、午後三時四十八分御出門、天皇と共に蔵前国技館に行啓される。幕内力士土俵入りから結びの一番までを御覧になり、六時六分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁序報、官報

十九日 月曜日 午後一時五十九分御出門、前田青邨展を御鑑賞のため、東京国立近代美術館に行啓される。玄関内において鷹司和子と御対面になり、日本画家前田青邨及び同夫人・息女に御会釈を賜う。ついで館長岡田譲の説明にて一階展示室内の作品全七十六点を御巡覧になる。このうち、屏風絵「洞窟の頼朝」「唐獅子」「出を待つ」は、前田による説明にて御覧になる。二時四十八分還啓される。

昭和五十年五月

○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十日 火曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のインド国特命全權大使S・ティルヴェンガダ・タン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十一日 水曜日 午前十時三十九分御出門、昭和五十年全国赤十字大会に日本赤十字社名誉総裁として御臨席のため、明治神宮會館に行啓される。御着後、御休所に入られ、名誉副総裁の皇太子妃・正仁親王妃華子と御対面になる。ついで厚生大臣田中正巳、日本赤十字社社長東竜太郎、同副社長小池欣一の拝謁をお受けになる。それより式場にお出ましになる。開会の辞、「君が代」斉唱、社長の挨拶に続き、有功章及び特別社員章を御親授になり、お言葉を賜う。

本日、全国赤十字大会に出席して、赤十字のために尽力されている皆さんと親しくお会いできたことを、大変うれしく思います。

日本赤十字社が創立以来九十八年の長い間、人道的使命に基づき、国の内外において、大きな役割を果たしてきたことを深く満足に思います。

赤十字の任務は、今後ますます重きを加えるものと思えますから、受賞者をはじめ、関係者の皆さんが互いに協力して、その活動を推進し、世界の平和と人類の福祉に貢献するよう希望します。

その後、社長の奉答、受章者総代の謝辞、厚生大臣の祝辞、赤十字奉仕団員及び青少年赤十字団員の各体験発表、合唱と続き、閉会の辞をもって大会は終了する。十一時五十九分還啓される。○女官長日

記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

二十三日 金曜日 載仁親王三十年式年祭に当たるため、午前、吹上御所において静かに過ごされる。

○女官長日誌、女官日誌、贈賜録

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、四眠の蚕を御覧になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十四日 土曜日 滋賀県において開催の第二十六回全国植樹祭に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に同県に行啓される。午前九時御出門、東京駅を御発車、午後零時二十四分近江長岡駅に到着される。最初に滋賀県三島池ビクターセンターを御訪問になる。次にお手播き行事会場の滋賀県森林センター湖北苗ほに行啓される。お手播き床に進まれ、県林業協会連合会会長中村敏一の介添えにてモミジ^木の種子を播かれる。その際、介添え者に対してモミジを選んだ理由等につき御質問になる。なお、天皇はヒノキの種子をお手播きになる。御退場後、浜縮緬工業協同組合を御訪問、浜友禅の手描き実演等を御覧になり、説明者に対して金粉が生地に付着する理由や縮緬の練り糸の動かし方につき御質問になる。終わって米原駅を御発車、大津駅にて下車され、天皇に続き弘文天皇陵を御拝礼になる。四時十三分御泊所琵琶湖ホテルに御到着になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、月輪陵墓監区事務所所蔵資料、宮内庁庁報、官報、滋賀県庁所蔵資料、行幸啓誌

二十五日 日曜日 午前九時四十六分天皇と共に御泊所琵琶湖ホテルを御出発、日本中央競馬会栗東トレーニングセンターを御訪問になる。競走馬の調教風景を御覧になった折、目前の鶏冠山にお目を留められ、山麓にかつて存在した久邇宮の御料林を御幼少時から折に触れて訪問された思い出に浸ら

昭和五十年五月

れる。その後、金勝山植栽地^{第二十六回全}国植樹祭会場に行啓され、お手植地において、林業功労者代表山本末松・林

業振興研究会代表栗本慶一・青年団体連合会代表古川和子・学校生徒代表高田順子の介添えにて、モ

ミジ^本の苗二本をお手植えになる。天皇はヒノキの苗二本をお手植えになる。栗東町役場において御

昼食後、滋賀県希望が丘文化公園の青年の城、滋賀県森林センター展示館を御視察になる。次に御上

神社前の悠紀齋田^{昭和三年の大嘗祭に当たり点定}においてお田植祭を御覧になる。午後四時十七分御泊所琵琶湖ホテルに

お戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、滋賀県庁所蔵資料、行幸啓

誌

二十六日 月曜日 午前九時五十九分天皇と共に御泊所琵琶湖ホテルを御出発、近江神宮を訪問され、

天皇に続き御拝座において御拝礼になる。なお、天皇・皇后より同神宮に幣帛料・神饌料をお供えに

なる。次に天台宗総本山比叡山延暦寺を御訪問になる。天台宗青蓮院門跡の門主東伏見慈治等に御会

釈を賜い、天台座主山田恵諦の拝謁をお受けになる。国民年金保養センター翠湖苑において御昼食、

伝統工芸品等を御覧になった後、特別養護老人ホーム清風荘を御慰問になる。終わって近江今津駅を

御発車、堅田駅にて御下車になる。それより琵琶湖大橋を渡られ、午後三時三十二分御泊所ホテルレ

クビワに御到着になる。その後、御座所より琵琶湖対岸の満月寺浮御堂や比良連峰を御遠望になり、

写生をされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、神宮及神社諸件、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌、

比叡山延暦寺所蔵資料

二十七日 火曜日 午前九時五十三分天皇と共に御泊所ホテルレクビワを御出発、滋賀県立滋賀整

肢園を御訪問になる。障害児童の機能回復訓練を御覧になった際、回復の度合いについて御質問になり、職員の苦勞に心を打たれる旨を述べられる。次に土山町茶園集団産地において茶摘み作業を御覧になり、女性による一日当たりの茶摘みの量について御質問になる。土山町山村開発センターにおいて御昼食後、水口町農業協同組合虫生野製茶工場を御視察になる。ついで、滋賀県立信楽窯業試験場に行啓される。施設内を御巡覧の折、廊下に展示のタヌキの陶器の製作時期について御質問になり、さらに屋外に展示のカエルの陶器大小約三十個に目を留められ、小カエル五個の献上をお受けになる。

午後四時三十分御泊所ホテルレークビワにお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報、行幸啓誌

五月二十三日より同二十八日まで上野京成百貨店において財団法人日本ばら会主催の「春の日本ばら会展」開催中につき、この日吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を出品される。○贈賜録

二十八日 水曜日 午前八時五十三分天皇と共に御泊所ホテルレークビワを御出発、滋賀県立八幡養護学校、滋賀県水産試験場を順次御視察になる。それより滋賀県護国神社を訪問され、拝殿入口において天皇と共に御拝礼になる。終わって彦根駅を御発車、東京駅に御着車、午後三時五十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報、滋賀県庁所

蔵資料、滋賀県水産試験場所蔵資料、行幸啓誌

二十九日 木曜日 来る五月三十一日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の納骨並びに拝礼式が行われるに当たり、この日、天皇・皇后より同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁序報

三十日 金曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、春の園遊会を催される。午後二時二分天皇と

昭和五十年六月

共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、四時五分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、園遊会録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

六月

二日 月曜日 常磐会総会に御出席のため、午後一時二十一分御出門、椿山荘に行啓される。御着後、会長賀陽敏子の先導にて御休所に入られ、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になる。ついで会員一同による「金剛石」の合唱に迎えられて総会場にお出ましになり、清興として柳家小さんの落語「こんにやくもんどろ」をお聞きになる。終わって懇親会の会場を廻られ、出演者・恩師・新入会員に御会釈を賜う。四時十二分還啓される。なお、行啓に際し、常磐会に金一封を賜う。○女官

長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、贈賜録、宮内庁庁報

三日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴く新任のザンビア国駐節特命全権大使伊藤博教及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁庁報

内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、外務省賓客として来日中のブルガリア国外務大臣ペタル・ムラディノフ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内

庁行事録、宮内庁庁報

この日、元内閣総理大臣佐藤栄作死去につき、天皇・皇后より弔問使として侍従田中直を同人邸に差し遣わされる。翌四日には、天皇・皇后より賜物使・枢前使として侍従安樂定信を差し遣わされ、焼

香させられ、祭糒料・供物・生花を賜う。十六日に日本武道館において行われる国民葬儀には、天皇・皇后より葬場使として侍従卜部亮吾を差し遣わされ、拝礼させられ、生花をお供えになる。また、葬儀の参列者が黙禱を捧げる午後二時十分には、御滞在中の須崎御用邸において一分間、天皇と共に黙禱される。なお、去る五月二十八日、入院中の同人に、天皇・皇后よりお見舞いとして果物を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、宮内庁庁報、故佐藤栄作国民葬儀関係綴、故佐藤栄作国民葬儀記録

四日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、養蚕の状況を御視察になる。○女官長日記、女

官日誌、内舎人日誌

天皇と共に連翠北において、ネパール国特命全権大使ヤダブ・プラサード・パント及び同夫人、メキシコ国特命全権大使マヌエル・アルバレス・ルーナ及び同夫人、米国特命全権大使ジェイムズ・デイ・ホッドソン及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、財団法人国立公園協合理事長千家啓磨より、

自然保護についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮

殿行事録、入江相政日記

午後、楽部にお出ましになる。糸竹会演奏会に御臨場になり、黄鐘調調子^{箏三}・海青楽・越天楽^{残楽}・

拾翠楽の演奏、御歌をお聴きになる。終わって、御休所において三条実春・清閑寺経泰・大村泰敏・

同光子・今城政典・小松行一・小早川富美子・四条淑子・永山盛綱・三条西実謙・小松行好・内藤政

武・大内庸平・安倍季巖・東儀和太郎・豊雄秋の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、

昭和五十年六月

糸竹会

十二日 木曜日 午後、桃華楽堂にお出ましになり、楽部職員の洋楽演奏会に御臨席になる。プロコフィエフ作曲「ピーターと狼」、ヨハン・シュトラウス作曲円舞曲「ウイーンの森の物語」、ミュンツァル「サウンド・オブ・ミュージック」の演奏をお聴きになる。その後、御休所において楽長東儀和太郎、同豊雄秋、甲斐正雄の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

十三日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭掻きをされる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のビルマ国特命全権大使チツ・コー・コー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

須崎御用邸に行啓のため、午後一時十四分天皇と共に御出門、四時四十八分同邸に御到着になる。御到着後、謁見室において静岡県知事山本敬三郎より昨年発生の伊豆半島沖地震による被害の復旧状況についての奏上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、発表綴、宮内庁庁報

この日より十七日まで非公式に来日のフィリピン国大統領夫人イメルダ・マルコスに、花束をお贈りになる。同夫人より、ランの御贈進がある。○女官長日記、外交贈答録

二十日 金曜日 須崎御用邸より還啓のため、午後零時三十五分天皇と共に御出門、四時一分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、

宮内庁庁報

二十五日 水曜日 午前十時三十五分御出門、第二十五回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に日本赤十字社名誉総裁として御臨席のため、東京プリンスホテルに行啓される。御着後、十一階御休所において同名誉副総裁の皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、ついで厚生大臣田中正巳、日本赤十字社社長東竜太郎、同副社長小池欣一、同名誉社長島津忠承の拝謁をお受けになる。それより二階式場に御臨場、キャンドルサービス、御歌「四方の国」合唱、社長挨拶の後、細川ふみこ石巻市私立小林病院看護婦長・高瀬松子沖繩赤十字病院看護部長・岡トヨ大阪赤十字病院看護部長の三名にフローレンス・ナイチンゲール記章並びに記章を授与され、左のお言葉を賜う。

本日、第二十五回フローレンス・ナイチンゲール記章の授与式に出席して、親しく皆さんとお会いすることができたことを、大変うれしく思います。

このたび、細川ふみこ、高瀬松子、岡トヨの三名の方々が、赤十字国際委員会から看護婦として最高の名誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長年にわたる献身的努力のたまものであり、本人の榮譽はもとより、我が国にとりましても、誠に喜ばしいことであります。

受章された方々は、今後も博愛と人道のためこの道に力を尽くし、後進の指導に当たるとともに、広く内外の人々に信頼され、模範となるよう切に希望します。

厚生大臣の祝辞、受章者代表細川ふみこの答辞、受章者及び既受章者への花束贈呈にて式は終了する。十一時四十八分還啓される。

午後、連翠南において、フローレンス・ナイチンゲール記章受章者等の拝謁をお受けになる。第二十

昭和五十年七月

四回受章者矢野シマ 鹿兒島純心女子
短期大学助教授・雪永まさる 元財団法人天理よろづ
相談所病院看護部長・佐賀リユウ 元秋田赤十字
病院看護婦長 第二十五回受章

者細川ふみこ・高瀬松子・岡トヨの話^を順次お聞きになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、宣召

録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十六日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のスウェーデン国特命全權大使

グンナル・エドヴァルド・ヘックシャー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十七日 金曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、今般離任の英国特命全權大使フレデリッ

ク・アーチボルド・ウオーナー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

七月

一日 火曜日 午前、花の間において、新任の京都事務所長宇土条治、前任の京都事務所長石川忠ほ

か一名の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録

午後、天皇と共に宮殿北溜において、女性初のエベレスト登頂に成功したエベレスト日本女子登山隊

隊長久野英子、登攀隊長田部井淳子^{登頂者}及び隊員の拝謁をお受けになる。後援者の読売新聞社代表取締

役社長務台光雄より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、恩賜録、宮内庁庁報、読売新聞

二日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、内舎人日誌

三日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴く新任の英国駐劄特命全権大使加藤匡夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のエクアドル国特命全権大使フランシスコ・ウルビーナ・オルテイスを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、この日アジア歴訪の途次に来日のガボン国大統領エル・アジ・オマール・ボンゴ及び同夫人と御会見になる。引き続き天皇と共に豊明殿において、宮中午餐を催される。なお、天皇・皇后より大統領に有田焼花瓶染錦御所車模様を、同夫人にクッション花樹獅子紋を御贈進になる。

翌四日、大統領夫妻より金製腕輪・金製首飾・金製耳飾・金製指輪の御贈進をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報

桐の間において、カメラマン吉岡専造による御訪米用お写真の撮影をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、素顔の昭和天皇

四日 金曜日 午後、天皇と共に宮殿にお出ましになり、カメラマン吉岡専造による御正装の御訪米用お写真の撮影をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、素顔の昭和天皇

五日 土曜日 正午過ぎ、天皇と共に花蔭亭前において、紅葉山御養蚕所主任山崎太郎、主任見習浅羽登代夫及び助手四名に御会釈を賜う。その際、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

昭和五十年七月

誌、典式録

七日 月曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、式部官長湯川盛夫・侍従次長徳川義寛・侍従山本岩雄より御訪米前の下検分結果をお聞きになり、日程について御了解になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録

午後、天皇と共に吹上御所において、東久邇聡子の拝謁をお受けになる。宮内庁病院をこの日退院の東久邇聡子に、吹上御苑のバラを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昨六日より八日まで非公式に来日中のインドネシア国大統領スハルト夫人^{大統領}に、この日、花束をお贈りになる。九日、大統領より天皇・皇后に、日本国滞在中に受けた款待に対する礼電が寄せられる。

○恩賜録、外交贈答録、外賓接待録、宮内庁庁報、官報

十日 木曜日 那須御用邸に行啓のため、午前九時四十九分天皇と共に御出門、午後零時三十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、広報那須

十一日 金曜日 午前、天皇と共に嚶鳴亭付近から三沢橋・千篠園新道・附属邸付近を経て本邸まで散策され、植物を御調査になる。以後、御用邸御滞在中、天皇と共に御用邸敷地内及びその周辺をしばしば散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

十二日 土曜日 午前、天皇と共に沼原への御散策に御出発の際、御用邸御車寄前において、那須町長笹沼賢弥・同町議会議長柄沢福栄等に御会釈を賜う。以後、この年も那須御用邸御滞在中、栃木県

関係者等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十日 日曜日 皇太子・同妃参邸につき、天皇と共に御夕餐を御会食になる。御会食中、昨十九日沖縄県訪問から帰京した皇太子より、名譽総裁として出席した沖縄国際海洋博覧会についてお聞きになる。皇太子・同妃は同県行啓中、石鹼液入りガラス瓶や火炎瓶等を投擲されたが、被害はなく、予定どおり行事を終える。なお、御会食前に、天皇と共に謁見所において、沖縄訪問に同行の東宮大夫鈴木菊男・東宮侍従八木貞二の拝謁をお受けになる。翌二十一日も、皇太子・同妃と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、皇宮警察史、朝日新聞

二十三日 水曜日 東久邇成子の祥月命日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、典式録、那須御用邸行幸啓録

二十五日 金曜日 那須御用邸より還啓のため、午前八時四十三分天皇と共に御出門、十一時二十七分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

二十六日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のイラク国特命全權大使ムンダル・タウフィーク・アル・ウアンダーウィ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

二十八日 月曜日 午前、天皇と共に宮殿南庭にお出ましになり、宮内庁嘱託カメラマン及び米国パ

昭和五十年八月

レード紙カメラマンによる御訪米関係のお写真の撮影をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録

三十日 水曜日 午前、明治天皇例祭につき、女官長北白川祥子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

八月

一日 金曜日 那須御用邸に行啓のため、午前九時四十九分天皇と共に御出門、午後零時三十七分御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に御内庭を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、御用邸敷地内及びその周辺をしばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二日 土曜日 御夕餐後、天皇と共に米国の動植物等に関するスライドを御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録

四日 月曜日 宇都宮市内の諸施設を御視察のため、午前九時二十分天皇と共に那須御用邸を御出門になる。最初に栃木県身体障害医療福祉センターを、ついで栃木県農業試験場を御訪問になる。午後一時五分那須御用邸に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、行幸啓録、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

五日 火曜日 午後、天皇と共に謁見所において、新任の皇宮警察本部長広山紫朗及び前任の皇宮警察本部長猪瀬彰三の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須御邸管理事務所日誌、那須御用邸行幸啓録

十日 日曜日 午前、天皇と共に謁見所において、新任の栃木県警察本部長森田昌孝及び前任の同県警察本部長湯川清弘の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須御邸管理事務所日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録

十一日 月曜日 故北白川房子一周年祭の儀につき、皇后宮使として侍従卜部亮吾を北白川邸の権舎に、侍従小林忍を豊島岡墓地の墓所にそれぞれ差し遣わされ、拝礼させられる。なお、天皇・皇后より霊舎に菓子を、墓所に榊をお供えになる。この日、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須御邸管理事務所日誌、那須御用邸行幸啓録、贈賜録

十三日 水曜日 那須御用邸より還啓のため、午前八時四十三分天皇と共に御出門、十一時二十七分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須御邸管理事務所日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十四日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴く新任のホンジュラス国駐筈特命全権大使田晴重及び同夫人、シンガポール国駐筈特命全権大使堀新助及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

花の間において、今般宮内庁御用掛の委嘱を解かれた山口達男ほか一名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録

昭和五十年八月

天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のポーランド国特命全権大使ズディスワフ・レグルスキー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十五日 金曜日 午前十一時四十九分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓され、政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席になる。午後零時二十七分還啓される。なお、天皇・皇后より、追悼式を行う厚生省に生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

十六日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のラオス国特命全権大使ティアオ・カムヒン<sup>ラオス
国王族</sup>及び同妃を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 午後、正殿梅の間において、今般着任のレバノン国特命全権大使アリフ・ジェバラ、コスタリカ国特命全権大使ヘルマン・ガゴ・ペレス及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に鳳凰の間において、今般宮内庁御用掛を拝命の特命全権大使藤山檜一の拝謁をお受けになる。藤山は、来る九月・十月の天皇・皇后御訪米の随員として米国側報道陣との応接に当たることとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、天皇皇后両陛下御訪米記録

この日、宮内庁より、天皇・皇后が九月三十日より米国を御訪問になり、十月十四日御帰国になることが告示され、併せて御日程が『官報』に掲載される。天皇・皇后の米国御訪問はこの年二月二十八日に閣議決定、御日程はこの月十四日持ち回り閣議により決定される。○外国御訪問録、天皇皇后両陛下御訪

米記録、宮内庁庁報、官報、閣議資料

十九日 火曜日 那須御用邸に行啓のため、午前九時四十九分天皇と共に御出門、午後零時三十七分御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、

那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

午後、天皇と共に御内庭において、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、好天の日は御用邸敷地内及びその周辺をしばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

去る十七日の台風五号に伴う集中豪雨により甚大な被害を受けた高知県に、天皇・皇后より災害お見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報

二十七日 水曜日 従来、小祭及び一部の祭典十一月二十三日の新嘗祭賢所皇靈殿神殿の儀、及び十一月十一日・十一月三日の賢所皇靈殿神殿臨時御拝の儀に天皇が御拝礼に

ならない場合の御代拝は侍従に仰せ付けられていたが、今後は掌典次長に仰せ付けられることとされ、また、大祭及び小祭を通じて皇后・皇太子・皇太子妃が御拝礼にならない場合の御代拝は、行われな
いこととされる。○典式録、庁規例規朝儀諸綴

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に御料ジープにて御用邸を御出発、嚶鳴亭へ向かわれる。御到着後、栃木県知事船田譲より県勢の概況と県政当面の課題についての奏上をお聞きになる。ついでキジの成育・生息状況についての説明をお聞きになり、放鳥される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供

奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

昭和五十年九月

九月

一日 月曜日 関東大震災の日につき、午前中のお出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二日 火曜日 那須御用邸より還啓のため、午前八時四十三分天皇と共に御出門、十一時二十七分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において、掌典香川朝男の拝謁をお受けになる。今般米国御訪問につき神宮に奉告のため、四日、香川は皇大神宮並びに豊受大神宮において天皇・皇后の御代拝を仰せ付けられ、それぞれに幣帛料を供える。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、天皇皇后両陛下御訪米記録、重要雑録

三日 水曜日 午前、天皇と共に石橋の間において、宮内記者会会員十四名にお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、御訪米に向けての健康管理について、また米国において御絵の展示会が開催されることに関連し米国の風物と日本画のテーマについての質問をお受けになる。御訪米前の健康管理に関しては、天皇と共に那須で歩き健康増進に努めた旨、日本画のテーマに関しては、外国の建物は日本画には難しい旨をお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、天皇記者会見、天皇皇后両陛下御訪米記録、昭和天皇と私達、朝日新聞、サンケイ、日本経済新聞、東京新聞、毎日新聞、読売新聞

午後、天皇と共に吹上御所において、崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。親王は去る四月十八日

よりロンドン大学東洋アフリカ学部客員教授として同妃を伴い訪英中のところ、八月二十九日帰国につき、挨拶のため参殿した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、賢所諸件、宮内庁庁報

五日 金曜日 天皇と共に連翠北において、米国特命全権大使ジェイムズ・デイ・ホッドソン及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に鳳凰の間において、米國御訪問の首席随員福田赳夫<sup>經濟企画
庁長官</sup>及び随員の拝謁をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。その後、天皇と共に宮殿御車寄内広間に向かわれ、同所において随行員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、

外国御訪問録、宮内庁庁報、官報

夕刻、天皇と共に正殿竹の間において、外務省賓客として来日中の米國ハワイ州知事ジョージ・リョウイチ・アリオシ及び同夫人を御引見になり、御訪米時にお立ち寄り予定のハワイについて御歓談になる。御引見の際、知事夫妻より天皇・皇后への献上品としてアンスリウムの切り花及びハワイ産貝殻<sup>飾りプラスチック
ク箱入り</sup>が披露される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、発表綴、宮内庁庁報

天皇皇后アメリカ合衆國御訪問につき神武天皇山陵に奉告の儀が行われ、侍従安樂定信に天皇・皇后の御代拝を仰せ付けられる。○臨時祭祀録、天皇皇后両陛下御訪米記録、宮内庁庁報

七日 日曜日 天皇と共に連翠北において、御訪米を前に、菊榮親睦会会員の皇太子始め皇族・元皇族等を招待され、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、天皇皇后両陛下御訪

昭和五十年九月

米記録、天皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、典式録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報

八日 月曜日 午後、天皇と共に連翠において、内閣総理大臣三木武夫・外務大臣宮沢喜一及び米國御訪問の首席随員福田赳夫始め随員・随行員等の拝謁をお受けになり、三木首相より挨拶をお受けになる。ついでお茶の席を設けられ、順次参進の招待者より話をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、天皇后両陛下御訪米記録、御訪米関係、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 火曜日 久邇侁子^{御母}の祥月命日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十日 水曜日 午前、千草の間・千鳥の間において開催の皇族たる皇室会議の議員及びその予備議員の互選に臨まれ、御投票になる。開票の結果、議員に宣仁親王・崇仁親王が、予備議員に皇太子・故

雍仁親王妃勢津子が当選する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、皇室会議皇族

議員互選録、重要雑録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のスーダン国特命全権大使バシエール・イブラヒム・オスマン・イスハグ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁

見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十二日 金曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された第二十七回保健文化賞受賞者等の拝謁をお受けになる。厚生大臣田中正巳より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉をお

賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 火曜日 日本ばら会大阪会場にバラを御出品になる。○女官長日記

十七日 水曜日 米國御訪問につき多摩陵^{大正天皇}及び多摩東陵^{貞明皇后}に御參拜のため、午前十時五分天皇と共に御出門になる。原宿駅を御発車、高尾駅にて御降車になり、陵所に御到着、天皇に続き多摩陵を御拝礼になる。ついで多摩東陵を御拝礼になる。午後二時五分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、臨時祭祀録、幸啓録、天皇皇后両陛下御訪米記録、宮内庁庁報

十八日 木曜日 天皇と共に連翠北において、昭和四十六年御訪歐時の随員竹内春海^{元外務省儀典長}及びこの度の御訪米随員藤山檜一^{宮内庁御用掛}・内田宏^{外務省儀典長}をお招きになり、午餐を共にされる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、典式録、宮殿行事録

吹上御所において、侍従次長徳川義寛より米國の御訪問先と美術等につき言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日記

十九日 金曜日 午前、米國御訪問につき賢所皇靈神殿に謁するの儀が行われ、三殿を御拝礼になる。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舎人日記、臨時祭祀録、天皇皇后両陛下御訪米記録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、今般着任の中央アフリカ共和国特命全權大使アントワーヌ・ムバリ・ダバを御引見になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舎人日記、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のギリシャ国特命全權大使テミストクレス・L・クリサントプロスを御引見になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、去る八月二十九日英國より崇仁親王・同妃百合子帰国につき、内宴を

昭和五十年九月

催される。崇仁親王・同妃のほか、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、寛仁親王・宜仁親王・容子内親王・憲仁親王と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

二十三日 火曜日 午前、花の間において、新任の宮内庁御用掛山口洋一、及び前任の宮内庁御用掛

深田宏の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録

二十四日 水曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

三十日 火曜日 この日より、天皇と共にアメリカ合衆国を御訪問になる。午前八時四十八分、関係者多数の奉送をお受けになり皇居を御出門、九時十分東京国際空港に御到着になる。空港行事に臨まれ、続いて九時三十九分お召し機にて御出発、最初の御訪問地バージニア州ウイリアムズバーグへ向かわれる。飛行約六時間の後、日付変更線を通り、現地時間二十九日午後九時五十三分、アラスカ州のアンカレジ国際空港に着陸する。給油の後、再び離陸、現地時間三十日午前十時四十分、ウイリアムズバーグ郊外のパトリック・ヘンリー国際空港に御到着になる。歓迎行事の際、現地のガイド・ホステス三名より花束の贈呈をお受けになる。ついで空港を御出発、十一時二十分御泊所ウイリアムズバーグ・インにお入りになる。午後三時三十分御泊所を御出発、ロックフェラー財団理事長ジョン・デイヴィソン・ロックフェラー三世の別邸バセット・ホールへ向かわれる。御到着後、同邸附属の庭園を御散策になり、四時四十五分御泊所に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日記、内舍人供奉日誌、宮殿行事録、空港行事録、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪

問記録、宮内庁序報、官報

昭和五十年国民たすけあい共同募金運動の事業御奨励のため、天皇・皇后より社会福祉法人中央共同募金会に金一封を賜う。○社会事業、宮内庁序報

十月

一日 水曜日 この日は御休養に充てられる。午前十一時三十分、天皇と共に馬車にて御泊所ウイリアムズバーグ・インを御出発、コロニアル・ウイリアムズバーグ地区を観光され、旧バージニア州議会議事堂を御視察になる。正午過ぎ、自動車にて御泊所に還御される。午後二時二十五分お一方にて御泊所を御出発、銀・スズ専門店に入られ、天皇へのお土産として洋銀製カフス釦、及びウサギの置物をお買い上げになる。なお、店主よりスズ製ゴブレットの贈呈をお受けになる。ついで印刷店に向かわれ、日本の墨流しに似た十八世紀の印刷工程の実演を御見学になり、下絵三枚と刷り上がりの絵一枚の贈呈をお受けになる。三時十分御泊所ウイリアムズバーグ・インに戻られる。○女官長日記、女

官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、外交贈答録、宮内庁序報、官報

二日 木曜日 午前九時、天皇と共に御泊所ウイリアムズバーグ・インを御出発、パトリック・ヘンリー国際空港に御到着になる。お召し機に御搭乗になり、同三十七分離陸、十時十三分メリーランド州アンドリュース空軍基地に御到着になる。ついで米国大統領差し回しの自動車にてホワイトハウスに向かわれ、歓迎式に臨まれる。終わって大統領ジェラルド・ルドルフ・フォード及び同夫人と御会

昭和五十年十月

見になる。その際、天皇・皇后より大統領に各御署名入りお写真^{銀縁入り}、及び東山魁夷作の日本画「夏山白雲」を、大統領夫人に第十二代今泉今右衛門作の有田焼花瓶^{色鍋島更紗文}を、皇后より大統領夫人に婦人服^{紅葉山御養蚕所製、梅花模様}の御贈進があり、披露される。また、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、大統領夫妻より天皇・皇后に署名入り写真^{銀枠入り}が、大統領夫人より皇后に絹製スカーフ^{フランキー・ウエルチのデザイン、ベチユニアの花}が贈られ、披露される。ホワイトハウスを御見学後、十一時四十五分御泊所ブレアハウス^{大統領に模倣}に御到着になる。

午後零時二十分、天皇と共に御泊所を御出発、日本国大使公邸にお出かけになり、非公式の午餐会に出席される。御会食後、同所を御出発、二時十分国立自然史博物館において天皇とお別れになった後、フリーア美術館に赴かれ、館長ハロルド・フリリップ・スターンの説明により同館収集の日本美術を御覧になる。三時四十五分、天皇と共に御泊所に戻られる。八時八分、ローブ・デコルテを召され、天皇と共に御泊所を御出発、ホワイトハウスにおける大統領夫妻主催の公式晩餐会に出席される。

御会食後、ピアノ演奏会に臨まれ、ヴァン・クライバーンの演奏を御鑑賞になる。翌三日午前零時十分、天皇と共に御泊所ブレアハウスに還御される。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、外交贈答録、宮内庁序報、官報

三日 金曜日 午前十二時二分、天皇と共に御泊所ブレアハウスを御出発、バージニア州のアーリントン国立墓地内の無名戦士の墓に赴かれる。天皇による墓前への花環お供えと黙禱に合わせ、皇后も黙禱される。それよりワシントン市内に戻られ、同三十分アメリカ赤十字本社を御訪問、天皇と共に賓

客名簿に御署名になり、歓迎をお受けになる。終わって一旦御泊所に戻られる。十一時五十分、市内各所を御視察のため、再び御泊所を御出発、トーマス・ジェファアソン記念館、ポトマック公園、リンカーン記念館等を御巡覧になる。ポトマック公園では、サクラの女王より花束をお受けになる。その後、ワシントン・ネイビー・ヤード埠頭へ向かわれ、午後零時四十七分大統領専用ヨット^{セコイア号}にて御出発、船内の非公式午餐会に御臨席になる。二時五十二分マウント・ヴァアノン埠頭にて御上陸、初代大統領ジョージ・ワシントンの墓所に向かわれ、墓前に花環を献じられる。ついでワシントン私邸を御見学になる。四時五分、御泊所にお戻りになる。

五時十五分、再び御泊所を御出発、天皇と共に日本国大使公邸において、レセプションを催される。六時八分御泊所にお戻りになる。七時四十二分、和服を召され再度御泊所を御出発、天皇と共にスミソニアン・インステイチュション・ビルディングにおいて、お返し晩餐会を催される。大統領ジェラルド・ルドルフ・フォード夫妻以下の招待客と御会食の後、同所にて開催の米國御訪問記念御物展 *Art Treasures from the Imperial Collections : In Commemoration of the Visit of Their Majesties the Emperor and Empress of Japan to the United States* を御覧になる。同展は日本政府の主催により、去る九月十八日から十月五日までワシントンにおいて、十月十二日から同二十九日までニューヨークにおい

て、十一月十五日から同二十四日まで東京において開催され、皇后の御絵^{「深みゆく秋」二曲}のほか、^{屏風絵などの日本画}皇室ゆかりの美術工芸品が展示される。展示を御覧になった後、大統領夫妻をお見送りになる。なお、

天皇・皇后より晩餐会の出席者全員に、^{御紋付瑞鳥模様} 鑄銅製ボンボニエール^{鳥模様} を贈賜される。十一時四十九分、御泊所ブレアハウスに還御される。○女官長日誌、女官日誌、内舎人供奉日誌、当直日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、

昭和五十年十月

外交贈答録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、宮内庁庁報、官報、天皇皇后ご訪米記念写真集、天皇皇后両陛下米御訪問記念御物展

四日 土曜日 午前十一時三十分、御泊所ブレアハウスにおいて、大統領ジエラルド・ルドルフ・フォード夫妻のお別れの訪問をお受けになり、御歓談になる。午後零時七分天皇と共に御泊所を御出発、メリーランド州アンドリユース空軍基地に御到着になる。空港行事に臨まれ、同三十八分お召し

機大統領の厚意により、大統領専用機のエア・フォース・ワンを御使用にて御出発、一時四十五分マサチューセッツ州オーチス空軍基地に御到着

になる。それより天皇ウッズホールの海洋学研究所及び海洋生物学研究所を御訪問とお別れになり、お一方にてサンドイツ町のサンドイツ

チ・ガラス博物館にお出かけになり、館長ナンシー・メリルの説明によりミニチュアの花瓶等を御覧になる。ダニエル・ウェブスター・インにて御少憩後、ファルマス町のファルマス・アーティスト・

ギルド館を訪問され、芸術愛好協会による絵画の展示や児童による人形劇を御覧になる。終わってオーチス空軍基地において天皇と落ち合われ、四時五十六分お召し機にて御出発、五時三十九分ニューヨー

ク州のジョン・F・ケネディ国際空港に御到着になる。六時二十一分御泊所ウォルドルフ・タワーズ・ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、当直日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、宮内庁庁報、官報

五日 日曜日 午前九時三十分、天皇と共に御泊所ウォルドルフ・タワーズ・ホテルの御居間において、御滞米中のノルウェー国王オラフ五世と御会見になる。十時一分天皇と共に御出発、まずニューヨーク市内セントラル・パークに立ち寄られ、市立サイモン・バルーク・ジュニア・ハイスクールのコーラスグループの合唱をお聴きになる。ついで生徒等と親睦を深められる。それよりニューヨーク

郊外のウエストチェスター郡タリータウンへ向かわれ、十二時八分副大統領ネルソン・アルドリッチ・ロックフェラー邸を御訪問、副大統領夫妻の歓迎を受けられ、御歓談になる。次にジョン・デイヴィンソン・ロックフェラー三世副大統領の兄の別邸を御訪問、非公式午餐会に御臨席になり、同夫妻等と御会食になる。午後一時五十三分御出発になり、ニューヨーク市に戻られ、二時四十八分シェイ・スタジアムに御到着、アメリカンフットボールの試合ニューヨーク・ジェッツ対ニューヨーク・イングリッド・パトリオッツを後半戦から御観戦になる。三時三十六分御出発、同五十六分御泊所に戻られる。その後、お一方にて元英語教師ヘンリー・N・ラ・クロア夫人を御引見になる。

七時二十六分天皇と共に再び御泊所を御出発、在ニューヨーク日本国総領事公邸を御訪問になり、総領事中島信之・国際連合日本政府代表部特命全権大使斉藤鎮男等による非公式晚餐会に臨まれる。九時二十一分御泊所ウオルドルフ・タワーズ・ホテルに還御される。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、

天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

六日 月曜日 午前九時二十五分、天皇と共に御泊所ウオルドルフ・タワーズ・ホテルを御出発、国際連合本部を御訪問になり、事務総長事務室において事務総長クルト・ヨーゼフ・ワルトハイムと御会談になる。その際、天皇・皇后より事務総長に御署名入りお写真銀縁入り及び御紋付銀張煙草箱を、事務総長夫人に御紋付七宝箱石箱等を御贈進になる。また、事務総長より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后に平和記念メダルが贈られる。終わって安全保障理事会議場、総会議場など本部内を御見学になる。その後、ニューヨーク植物園を御訪問になる。天皇が名誉園長の研究室において御調査の間、園

長ハワード・サミュエル・アーウィンの案内により、お一方にて一階一〇一号室にお出ましになり、D・ストーン夫人による公立学校六年生への食用植物に関する授業パンの生産過程を御覧になる。その後、天皇と共に原生植物園を御見学になる。なお、植物園より挿絵集 *Wild Flowers of The United States* の献上をお受けになる。十一時五十三分御泊所に戻られる。

午後零時五十分天皇と共に御泊所を御出発、ニューヨーク市長公邸グレーシー・マンションを御訪問になり、市長アブラハム・デイヴィッド・ビーム主催の午餐会に御臨席になる。午餐会に当たり、市長より天皇・皇后に献上の品があり、皇后は銀製小箱ティファニー製の献上をお受けになる。二時五十七分御泊所にお戻りになる。

四時五十六分、天皇と共に御泊所を御出発、ジャパン・ハウスへ向かわれ、ジャパン・ソサイエティ歓迎会に御出席になる。歓迎会に当たり、天皇・皇后にエドワード・マーシャル・ベーム作の小鳥とサボテンの花の彩色磁器置物、及びその図録 *Animals in Pottery and Porcelain* が献上される。五時二十五分、御泊所ウオールドルフ・タワーズ・ホテルに還御される。その後、御泊所本館ウオールドルフリアストリア・ホテルにおけるニューヨーク日本商業会議所・日本クラブ・ニューヨーク日系人会主催の歓迎行事に御出席になる。六時に御退場、御座所に戻られる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇后両陛下御訪米記録、外国

御訪問録、天皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

七日 火曜日 午前九時、天皇と共に御泊所ウオールドルフ・タワーズ・ホテルを御出発、ジョン・F・ケネディ国際空港よりお召し機に搭乗され、十一時六分イリノイ州シカゴのオヘア空港空軍基地に御

到着になる。歓迎行事の際、市長夫人より花束が贈呈される。十一時三十七分御泊所ドレイク・ホテルに到着される。

午後零時十五分天皇と共に御泊所を御出発、コンラッド・ヒルトン・ホテルにおける市長リチャード・ジョセフ・デイリー主催の午餐会に御臨席になる。二時十五分御泊所に戻られる。

三時十一分お一方にて御泊所を御出発、シカゴ大学附属ワイラー児童病院を訪問される。同三十七分御着、学長ジョン・トッド・ウィルソンより病院の概要について説明をお受けになり、小児科医長サムエル・スペクターの説明にて院内を御視察、入院児童による模擬診察の様子や幼児の保育状況を御覧になる。ついで輪投げ・独楽・拳玉等の玩具を入院児童に賜う。御少憩の折、一同に次のお言葉を賜う。

このたび陛下のお供をして、ミシガン湖畔のこの美しいシカゴ市を訪れることができましたことを、大変うれしく思います。特に、本日、この著名な病院を参観できましたのは、私にとってまことに有意義なことであつたと思います。

多くの子供達が、このように行き届いた施設の中で、皆さん方関係者の、温かい献身的な努力によって、体力と健康を取り戻し、社会人として健全に育って行けるようになることは、素晴らしいことであり、私は皆さんの尽力に深く敬意を表します。

皆さんが今後とも健康に留意されて、この尊い仕事に一層精進され、明日の世界を担う子供たちの光となれることを希望いたします。

終わって、入院児童の製作品が献上される。四時九分御発、同二十五分シカゴ美術館を訪問される。

昭和五十年十月

理事長リー・B・ブロック、館長E・L・チャルマーズ・ジュニアの案内により、棟方志功等の日本の近代版画やヘレン・バーチ・バートレット記念コレクションのポール・セザンヌなどの絵画を御覧になる。五時十八分御発、同二十五分御泊所ドレイク・ホテルに戻られ、元英語教師イレヌ・ストライカーを御引見になる。

七時十三分、天皇と共に、御泊所において開催の在シカゴ日系人・在留邦人による歓迎行事に御出席になる。会場内を御一巡の後、同三十分退席され、御座所に戻られる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉

日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、外交贈答録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、宮内庁庁報、官報

台風十三号により去る五日東京都八丈島に甚大な被害発生につき、この日、天皇・皇后より東京都にお見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報、東京都庁所蔵資料

八日 水曜日 午前八時十五分天皇と共に御泊所ドレイク・ホテルを御出発、オヘア空港空軍基地に御到着になる。お召し機にて御出発になり、十一時十三分カリフォルニア州ロサンゼルス国際空港に御到着になる。州知事以下によるお出迎えの際、花束が贈呈される。それよりミュージック・センターを訪問され、ロサンゼルス市長主催の午餐会に御出席になる。ついでアナハイム市のデイズニードへ向かわれる。御到着後、キャラクターのミッキー・マウスと握手をされる。ついで職員の子女等をお側に招かれ、米国建国二百年祭記念のアメリカ・オン・パレードを御覧になる。終わって園内各所を御巡覧の後、午後五時三十五分、御泊所ビバリー・ウイルシャー・ホテルに御到着になる。六時四十分より、御泊所新館における在ロサンゼルス日系人、在留邦人歓迎行事に御出席になる。七時御退席になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ

九日 木曜日 午前九時二十五分、天皇と共に御泊所ビバリー・ウイルシャー・ホテルを御出発、ロサンゼルス国際空港に御到着になる。十時十分お召し機にて御出発、同四十二分サンディエゴ国際空港に御到着になる。十一時九分サンディエゴ動物園を御訪問になり、キーウイなどの鳥やオカピを御観察、コアラに触れられ、ハミングバード^{ドリ}に餌をお与えになる。午後零時十五分ラホヤにあるホテルのシー・ロッジに御到着、御昼食をお召し上がりになる。御食後、お一方にて御休息になり、天皇が御訪問中のカリフォルニア大学サンディエゴ校スクリップス海洋学研究所や棧橋を御遠望になり、海岸の風景をスケッチされる。ついでホテル前の海岸を御散策になり、打ち上げられた珍しい海藻を、天皇の御覧に入れるために採取される。三時四十二分天皇と共にシー・ロッジを御出発、サンディエゴ国際空港に御到着になる。四時十一分お召し機にて御出発、五時四十二分サンフランシスコ国際空港に御到着になる。六時十分御泊所セント・フランシス・ホテルに到着される。○女官長日記、女官日誌、当直日誌、内舍人供奉日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、宮内庁序報、

官報

十日 金曜日 午前十時、天皇と共に御泊所セント・フランシス・ホテルを御出発、同二十分ゴールデン・ゲート公園内のストライビング植物園に到着され、在サンフランシスコ日系人・在留邦人歓迎行事に御出席になる。終わって咸臨丸入港百年記念碑に立ち寄られ、石碑を御覧になる。それよりゴールデン・ゲート・ブリッジを渡られ、橋の北端において周囲を御展望になる。十一時五十分御泊所に還御される。午後零時五十五分に御料室を出られ、サンフランシスコ市長及び同市ジャパン・ソ

昭和五十年十月

サエテイ共催の午餐会に御出席になる。二時四十五分御退出、御料室に戻られる。三時二十五分御泊所セント・フランシス・ホテルを御出発、サンフランシスコ国際空港へ向かわれる。四時六分お召し機にて御出発、六時十五分ハワイ州オアフ島のホノルル国際空港に御到着になる。お出迎えの州知事ジョージ・リョウイチ・アリヨシより皇后に花束が贈呈される。七時五分御泊所カハラ・ヒルトン・ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、宮内庁庁報、官報

十一日 土曜日 午前十時四十五分天皇と共に御泊所カハラ・ヒルトン・ホテルを御出発、ホノルル・インターナショナル・センターを訪問され、ホノルル市民による歓迎行事に御出席になる。それより州知事公邸ワシントン・プレースを御訪問、知事ジョージ・リョウイチ・アリヨシ主催の午餐会に臨まれる。午後一時四十五分御出発、二時御泊所に戻られる。

三時十五分再び御出発になり、同三十分ビショップ博物館を御訪問、ハワイ王朝と皇室の関係を示す特別展示品などを御覧になる。四時二十分御出発、在ホノルル日本国総領事公邸へ向かわれ、日系人・在留邦人の歓迎行事に御出席になる。五時五十分御泊所カハラ・ヒルトン・ホテルに戻られる。六時五十分再び御泊所を御出発、ホノルル国際空港よりお召し機にてハワイ島へ向かわれ、八時六分コナ国際空港に御到着になる。お出迎えのハワイ郡長より皇后に花束が贈呈される。同四十九分御泊所マウナ・ケア・ビーチ・ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、宮内庁庁報、官報

十二日 日曜日 この日は御休養日として、御泊所マウナ・ケア・ビーチ・ホテル付近のプーコホ

ラ・ハイアウ国立歴史公園を御散策予定のところ、天皇が御風気のため、お取りやめとなる。午前十時過ぎ、お一方にて日系二世警備員ほかの拝謁をお受けになる。ついで、プーコホラ・ハイアウ国立歴史公園代表者ジュリー・Y・シモダ連邦政府内務省国立公園局長以下の五名来訪につき、国立公園内の植物に関する説明をお聞きになる。その際、天皇への献上品を受けられる。○女官長日記、女官日記、内舍人供奉日誌、当日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、外交贈答録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、宮内庁庁報、官報

十三日 月曜日 午前十一時九分、天皇と共に御泊所マウナ・ケア・ビーチ・ホテルを御出発、コナ国際空港へ向かわれる。午後零時一分お召し機ハワイアにて離陸、オアフ島ホノルル市郊外のヒツカム空軍基地に御到着になり、歓送式に臨まれ、州知事ジョージ・リョウイチ・アリヨシよりランの花束の贈呈をお受けになる。ついで日本航空特別機に乗り換えられ、一時一分御出発、東京へ向かわれる。なお、機内において米国御滞在中に受けた款待に対し、天皇・皇后より米国大統領ジェラルド・ルドルフ・フォードに礼電をお送りになる。また、ハワイ御出発に先立ち、大統領より御帰路平安を祈る旨の親電をお受けになる。○女官長日記、女官日記、内舍人供奉日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、外交雑録、宮内庁庁報、官報

十四日 火曜日 日付変更線を通り、午後四時、東京国際空港に御到着になり、空港行事に臨まれる。同三十七分、天皇と共に皇居に還啓され、関係者多数の奉迎をお受けになり、宮殿に入られる。その後、千鳥・千草の間において、首席随員・随員等と乾杯を行われ、御退室になる。○女官長日記、女

官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、内舍人供奉日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報、官報

昭和五十年十月

御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、テレビ番組「両陛下アメリカご旅行の記録―総集編―」

NHK総合テレビを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十六日 木曜日 米国御訪問より御帰国につき、午前、賢所皇靈殿神殿に謁するの儀が行われ、三殿を御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、天皇后両陛下御訪米記録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に鳳凰の間において御訪米の首席随員福田赳夫始め随員の拝謁を、ついで宮殿御車寄内広間において随行員の拝謁をお受けになり、天皇に続きそれぞれに労いのお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、宮内庁庁報、官報

十七日 金曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、祭典録

十八日 土曜日 午前、花の間において、新任の掌典次長正親町公秀及び前任の宮内庁御用掛藤山楯一の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、天皇后両陛下御訪米記録

夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王と御対面になり、米国御訪問のお話をされ、御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

二十日 月曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、皇太子妃と御対面になる。ついで天皇と共に、女官長始め女官一同の祝賀を、また宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、東宮録、贈賜録、宮内庁庁報

去る十七日より二十二日まで大阪阪急百貨店において財団法人日本ばら会関西支部主催の「秋のばら

展」開催につき、この日、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を出品される。○贈賜録

二十一日 火曜日 午後、天皇后御帰国につき神武天皇山陵に奉告の儀が行われ、侍従卜部亮吾が天皇・皇后の御代拝を仰せ付けられる。○侍従職日誌、臨時祭祀録、天皇后両陛下御訪米記録

二十二日 水曜日 午前九時五十分御出門、天皇と共に国立劇場に行啓され、政府主催の国民参政人十五周年・普通選挙五十周年・婦人参政三十周年記念式典に御臨席になる。十時三十六分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十三日 木曜日 午後、天皇と共に芳菊の間において、今般英国より一時帰国の東久邇信彦^{御孫}の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇后御帰国につき大正天皇山陵に奉告の儀並びに貞明皇后山陵に奉告の儀が行われ、侍従田中直がそれぞれ天皇・皇后の御代拝を仰せ付けられる。○侍従職日誌、臨時祭祀録、天皇后両陛下御訪米記録

翌二十四日より二十九日まで上野京成百貨店において財団法人日本ばら会主催の「秋の日本ばら会展」開催につき、この日、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を出品される。以後、会期中二回にわたり御出品になる。○女官長日記、贈賜録

二十四日 金曜日 神宮御参拝、第三十回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇と共に三重県に行啓される。午前十時二十五分御出門、東京駅を御発車、名古屋駅にてお乗り換え、近鉄賢島駅にて御降車になり、午後三時十分、御泊所志摩観光ホテルに御到着になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、三重県行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌

二十五日 土曜日 午前九時三分御泊所志摩観光ホテルを天皇と共に御出発、米国より御帰国を奉告のため神宮へ向かわれる。先ず、豊受大神宮において、天皇に続き、正殿階下の御座にて御拝礼になる。ついで内宮齋館において御昼食の後、皇大神宮において、天皇に続き、正殿階下の御座にて御拝礼になる。終わって、内宮齋館御座所において神宮祭主鷹司和子より挨拶をお受けになる。なお、御参拝に当たっては、天皇・皇后より皇大神宮及び豊受大神宮にそれぞれ幣帛料・神饌料をお供えになる。次に志摩マリランドを御訪問になる。午後五時十一分御泊所志摩観光ホテルにお戻りになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、三重県行幸啓録、幸啓録、臨時祭祀録、天皇皇后両陛下御訪米記録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、宮内庁庁報

二十六日 日曜日 午前九時三十分御泊所志摩観光ホテルを天皇と共に御出発、水産庁真珠研究所を御視察になる。次に志摩養護老人ホーム花園寮を御慰問になる。それより神宮司庁に行啓され、神宮祭主鷹司和子と御昼食を御会食になる。御食後、三重県営総合競技場陸上競技場に行啓され、第三十回国民体育大会秋季大会開会式に御臨場になる。終わって、鳥羽水族館を御訪問になる。午後五時十分御泊所鳥羽国際ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、三重県行幸啓録、幸啓録、恩賜録、宮内庁庁報、行幸啓誌

二十七日 月曜日 午前九時三十五分御泊所鳥羽国際ホテルを天皇と共に御出発、朝熊山展望所に立ち寄られ、鳥羽湾等を御眺望になる。次に伊勢市営テニスコートに行啓され、国体軟式庭球競技を御覧になる。終わって宇治山田駅を御発車、近鉄津駅にて御降車、三重県庁において御昼食をお召しになる。その後、三重県護国神社に行啓され、天皇と共に拝殿入口において御拝礼になる。次に久居市

の陸上自衛隊久居駐屯地グラウンドを訪問され、国体ラグビーフットボール競技を御覧になる。久居市役所において御少憩の後、久居市体育館に行啓され、国体ボクシング競技を御覧になる。午後四時八分御泊所白雲荘に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、三重県行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

二十八日 火曜日 午前九時二十八分、御泊所白雲荘を天皇と共に御出発になる。榊原温泉口駅を御発車、近鉄四日市駅にて御降車になり、四日市市体育館に行啓され、国体体操競技を御覧になる。次に三重県公害センターを御視察になる。四日市市役所において御昼食の後、近鉄四日市駅を御発車、東京駅にて御降車、三時五十七分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、三重県行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

二十九日 水曜日 御夕食後、天皇と共に吹上御所において、米国への御出発及び御帰国の空港行事に関するNHKテレビのビデオ録画を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

三十日 木曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、秋の園遊会を催される。午後二時二分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時四十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、園遊会録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁序報、官報

三十一日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、ネパール国王弟ギヤネンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び同妃、同国王弟デイレンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び同妃と御会見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、宮内庁序報
午後、天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のエルサルバドル国特命全権大使ワルテル・ベネケ・

昭和五十年十一月

メデイーナを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に石橋の間において、日本記者クラブ会員等の拝謁をお受けになる。日本記者クラブ理事長渡辺誠毅朝日新聞社副社長より代表質問をお受けになり、訪米についてはいずれも懐かしく、様々なものを見ることができて楽しく感じた旨をお答えになる。今回初めて拝謁中の撮影が許され、拝謁の様子がこの日の各テレビ局にて録画放送される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、昭和天皇と私達、読売新聞

天皇と共に吹上御所において、翌十一月に日本輸出入銀行シドニー駐在員としてオーストラリア国に転勤する島津久永、及び同夫人貴子と御夕餐を御会食になる。天皇・皇后より島津夫妻に金員・万那料を、またそれぞれにお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、旧皇族録、贈賜録

十一月

一日 土曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴く新任のイタリア国駐劄特命全権大使藤山 檜一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、去る九月三十日米國バージニア州のパトリック・ヘンリー 国際空港に御到着時の録画ビデオを御覧になる。○女官日誌、侍従日誌

二日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、ホワイトハウスにおける歓迎式典の録画ビデオ

を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

三日 月曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、朝日新聞社主催の全日本健康優良学校児童表彰会において選ばれた健康優良学校代表・健康優良児童等の拝謁をお受けになる。同会会長広岡知男

朝日新聞社社長より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に吹上御所において、米国大統領主催のホワイトハウスにおける晩餐会の録画ビデオを御覧になる。御夕食後、引き続きカリフォルニア州のデイズニールランド御訪問の録画ビデオを御覧

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

四日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴く新任のスウェーデン国駐箚特命全権大使都倉栄二の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のオーストリア国特命全権大使レギナルド・トーマス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

宮内庁庁報

五日 水曜日 午前十時十分御出門、天皇と共に東京プリンスホテルに行啓され、国際婦人年記念日本婦人問題会議開会式に御臨席になる。十一時十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

六日 木曜日 午後、花の間において、新任の宮内庁御用掛井口武夫の拝謁をお受けになる。○女官長

昭和五十年十一月

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のインドネシア国特命全権大使ユスフ・ラムリ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 金曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、東久邇聡子及び今般ブラジル国より一時帰国の

同子息多羅間俊彦の拝謁をお受けになる。天皇・皇后より多羅間にお品を賜う。多羅間は、昭和四年、

稔彦王の第四王子として誕生、二十二年に皇籍を離脱し、その後、多羅間キヌ元在サンパウロ総領事多羅間鉄輔夫人の養子と

なり、ブラジル国に移住した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

午後、天皇と共に連翠北において、ガボン国特命全権大使シドワヌ・ムーニヨン及び同夫人、アラブ

首長国連邦特命全権大使アハメド・サーリム・アル・モカッラブ及び同夫人、マレーシア国特命全権

大使リム・テック・チューンをお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日

誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日、侍従次長徳川義寛を御使として前田青邨の許に差し遣わされる。○女官日誌

サウジアラビア国特命全権大使アウニー・ワフアー・デジャーニー去る五日病氣加療先のヨルダン国

アンマンにて死去につき、天皇・皇后から弔意を同大使夫人に伝えるよう御下命があり、この日、宮

内庁長官より外務大臣にこの旨が通知される。九日には、天皇・皇后より柩前に花環をお供えになる。

これに対し、後日、同大使夫人より天皇・皇后に礼状十一月十一日付、宮内庁長官宛てが寄せられる。○外交慶弔録、外交雑録、

外交贈答録、恩賜録、御写真録

十日 月曜日 午後、正殿梅の間において、今般着任のイラク国特命全権大使カハターン・ルトウ

フィ・アリ及び同夫人、初代セネガル国特命全権大使アサーヌ・バシルー・デイウフ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十一日 火曜日 「皇后さまの絵と書展」名古屋開催につき、この日、愛知県美術館館長鈴木二三

男以下の尽力の向きに御紋付紙巻きたばこ等を賜う。同展は日本赤十字社・朝日新聞社の主催により、去る十月二十五日開会式には故雍仁親王妃勢津子が臨席よりこの月三日まで、愛知県美術館において開催され、日本画五十四

点うち一点は御歌入りの絵巻と御歌の御懐紙五点が一般の観覧に供される。なお、展示会により生じた純益は、全て日

本赤十字社の事業資金として活用される。○贈賜録、皇后さまの絵と書展、愛知芸術文化センター所蔵資料

十六日 日曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、

崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、米国より御帰国につき御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十七日 月曜日 午後、正殿梅の間において、今般着任のビルマ国特命全権大使ウ・タウン・ルイン

及び息女、スウェーデン国特命全権大使ベクト・オーデヴァル及び同夫人を順次御引見になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 水曜日 夕刻、天皇と共に豊明殿において、米国御訪問に尽力の内閣総理大臣始め閣僚、随

員及び随員等をお招きになり、お茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、宮殿行事録、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、御訪米関係、宮内庁庁報

二十日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、外務省賓客として来日中のデンマーク国外

務大臣クヌッド・ボーエ・アンダセン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

昭和五十年十一月

日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、今般着任のインド国特命全権大使エリク・ゴンザルヴェス及び同夫人、英国特命全権大使ケネス・マイケル・ウィルフォード及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 金曜日 午前十時三十二分天皇と共に御出門、終戦三十周年に当たり靖国神社に行啓され、天皇に続き、本殿御拝座において御拝礼になる。御参拝に際し、天皇・皇后より同社に幣帛料・神饌料をお供えになる。それより千鳥ヶ淵戦没者墓苑を御訪問、天皇と共に六角堂内に進まれ、御拝礼になる。御参拝に際し、天皇・皇后より同苑に生花をお供えになる。十一時二十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、神宮及神社諸件、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に春秋の間において、黄綬褒章・紫綬褒章又は藍綬褒章を授与された文部省及び厚生省関係功労者等の拝謁をお受けになる。紫綬褒章受章者前田陽一より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報
天皇と共に宮内庁庁舎三階講堂にお出ましになり、宮内庁職員組合主催による文化祭の美術展を御覧になる。同展には御絵「南伊豆」「ぶどう」「ふうとうかずら」「さゝゆり」「柿実籠（インデアン製作）」を御出品になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、文化祭目録

御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、記録映画「天皇后両陛下御訪米の旅」毎日映画社製作を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

前田青邨より絵巻「お水取り」一卷・解説一部の献上をお受けになる。○女官長日記

二十二日 土曜日 午前、花の間において、宮内庁文化祭に御出品の御絵を拝見のため参内の御学友・御同級生十四名、元女官長保科武子ほか元女官四名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

御夕餐後、天皇と共に吹上御所において、御訪米記録の録音テープ第一巻をお聴きになる。二十四日には引き続き第二巻から第六巻までを、二十五日には第七巻を、二十七日には第八巻・第九巻をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十五日 火曜日 夕刻、天皇と共に春秋の間において、米国御訪問に尽力の各省庁関係員等の拝謁をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。終わって、豊明殿において、拝謁者に茶菓を供される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、天皇皇后両陛下御訪米記録、外国御訪問録、御訪米関係、宮内庁序報

二十六日 水曜日 天皇と共に連翠北において、スリランカ国特命全権大使バーナード・ペレラ・テイラカラトナ及び同夫人、アフガニスタン国特命全権大使アリ・アハマド・ポパル及び同夫人、トルコ国特命全権大使ジェラル・エイジェオール及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十七日 木曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、文部大臣から表彰された教育功労者等の拝謁をお受けになる。教育功労者の東京都立青山高等学校校長成田喜澄より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁

序報

昭和五十年十二月

二十八日 金曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、この誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十九日 土曜日 去る二十六日より発生の日本国有鉄道の全国的規模のストライキはこの日に至つてもなお継続中につき、十二月五日よりの須崎御用邸行幸啓はお取りやめになる。○須崎御用邸行幸啓録
去る二十四日元株式会社川島織物社長川島甚兵衛死去につき、思召しをもって菓子を賜う。同人は、宮殿豊明殿の綴織「豊旗雲」を始めとして吹上御所・須崎御用邸・東宮御所・三笠宮邸・秩父宮邸・高松宮邸の各造営工事に際して裂地を製造したほか、御用命により綴織壁掛、御料車の内装裂地をも製造したことにより、特に思召しをもって賜品が伝達される。○贈賜録

三十日 日曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十二月

一日 月曜日 米国より御帰国につき皇太子・同妃主催の内宴に御臨席のため、午後五時五十四分天皇と共に御出門、東宮御所に行啓される。皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子、鷹司和子と御晩餐を御会食になり、八時九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、天皇皇后両陛下御訪米記録、天皇皇后両陛下アメリカ合衆国御訪問記録、宮内庁序報

米国大統領ジェラルド・ルドルフ・フォード及び同夫人が、中華人民共和国訪問の途次、東京国際空

港に一時立ち寄るに際し、大統領夫人に花束をお贈りになる。○女官長日記、外交贈答録、恩賜録
糸竹会演奏会開催につき、会員等に菓子を賜う。○贈賜録

二日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴く新任のオランダ国駐劄特命全権大使高島益郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、今般離任のカナダ特命全権大使ロス・キャンベル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

正殿梅の間において、今般着任のブラジル国特命全権大使エリオ・デ・ブルゴス・カバル及び同夫人、オランダ国特命全権大使カール・デイトリツヒ・バルクマン及び同夫人・息女を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八日 月曜日 歌道御奨励の思召しをもって、向陽会に金一封を賜う。○恩賜録

十日 水曜日 午後、天皇と共に月の間において、米國御訪問に際して同国官民より献上の品々を御覧になる。十七日も、吹上御所において御一緒に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外交贈答録、東宮録

十一日 木曜日 午後、正殿梅の間において、初代ザンビア国特命全権大使ロンベ・フィリス・チベサクンダ、新任のギリシヤ国特命全権大使ジャン・C・カンビオティス及び同夫人を順次御引見になる。○女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和五十年十二月

十五日 月曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十六日 火曜日 午前、花の間において、京都在住堂上会総代五条為正の拝謁をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

十八日 木曜日 午前、正殿梅の間において、近く任地へ赴く新任の軍縮委員会日本政府代表部特命

全権大使小木曾本雄及び同夫人、アイルランド国駐劔特命全権大使西宮信安及び同夫人、ハンガリー

国駐劔特命全権大使齋木千九郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

花の間において、日本赤十字社社長東竜太郎の進講をお聴きになる。この日、日本赤十字社の事業御

奨励のため、天皇・皇后より金一封を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、社会事業、宮内庁庁報、事業年報

(日本赤十字社)

午後、花の間において、常陸宮家経済顧問中谷一雄始め久邇家・鷹司家・島津家の各経済顧問五名の

拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録

財団法人結核予防会に対し、事業御奨励のため金一封を賜う。○宮内庁庁報

二十日 土曜日 午前、天皇と共に豊明殿脇の奏楽演奏室において、菊栄親睦会会員の皇太子始め皇

族・元皇族等をお招きになり、米国御訪問の際の記録映画を御一緒に御覧になる。終わって、連翠に

おいて午餐を催される。なお、天皇・皇后より菊栄親睦会会員に、米国御訪問記念としてボンボニエー

ルを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、天皇皇后両陛下御訪米記録、天皇皇后両陛

下アメリカ合衆国御訪問記録、菊栄親睦会録、東宮録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、シカゴ市長リチャード・ジョセフ・デイリーより献上のシカゴ交響楽団演奏のレコードゲオルグ・シヨをお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、外国御訪問録

二十三日 火曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官、元女官長始め元女官の祝賀をお受けになる。ついで同所において、皇太子と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、東宮録、贈賜録

天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。御食後、御訪米時にハズンデル・フィルム・コーポレーション社長レオ・A・ハンデルより献上された日系アメリカ人やアメリカ先住民に関する映画二本“The Japanese-American”, “The American Indian: Before the White Man”, “The American Indian: After the White Man Came”を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十五日 木曜日 午前、大正天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、同御神楽の儀につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十九日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代より、ついで女官長及び女官等より歳末の祝詞言上を、続いて皇太子始め皇族、元皇族、御縁故者より歳末の祝詞言上をそれぞれお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内庁庁報

昭和五十一年（西曆一九七六年）

七十三歳

一月

一日 木曜日 午前九時四十五分より宮殿において新年祝賀の儀に臨まれる。天皇と共に、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・宣仁親王・容子内親王・憲仁親王、ついで内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官及び各国外交使節団の長等の祝賀をお受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、徳仁親王・文仁親王・清子内親王、元皇族・御縁故者等、宮内庁長官始め部局長及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

儀式録、典式録、年末年始行事、宮内庁庁報、官報

二日 金曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に、午前三回と午後五回の計八回、長和殿ペランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、年末年始行事、宮殿行事録、宮内庁庁報、

官報

一回目の新年一般参賀お出ましの後、天皇と共に正殿竹の間において、元側近奉仕者・元部局長の祝

賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録

三日 土曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、恒例祭祀録、祭典録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、吹上御所において天皇と共に、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

吹上御所において、昨夜スイス国より帰国の近衛護輝及び同夫人甯子崇仁親王第一王女の挨拶を、天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七日 水曜日 午前十時三十分、天皇と共に正殿松の間において、講書始の儀に臨まれる。東京学芸大学名誉教授倉沢剛より「学制の公布と小学校の発足」、日本学士院会員峯村光郎より「法の生成過程について」、日本学士院会員田宮博より「一般的・基本的な生命現象の研究」と題する各進講をお聴きになる。進講後、正殿竹の間において、進講者及び進講者控の拜謁を天皇と共にお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、年末年始行事、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

新年につき、午後、天皇と共に、鳳凰の間において元女官長保科武子始め元女官等の祝賀を、宮殿御車寄前において元女孀等の祝賀をお受けになる。ついで皇后お一方にて、花の間において服部豊子ウァリアの祝賀を、続いて御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食に

昭和五十一年一月

なる。以後、この年は概ね毎週水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、東宮録

八日 木曜日 午後、花の間において、法華寺門跡の久我高照、三時知恩寺門跡の久我信成の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録

九日 金曜日 午前十時三十分、天皇と共に正殿松の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「坂」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

もちつつじの花咲く坂をくだりつつかなたに琵琶の湖を見放けぬ

儀終了後、天皇と共に正殿竹の間において召人・選者・諸役の拝謁を、ついで宮殿回廊において預選者の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、年末年始行事、

宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十日 土曜日 天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、

この年は月に二、三回、概ね土曜日に吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十二日 月曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、第十九回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催 読売新聞社後援入賞

者代表等の拝謁をお受けになる。読売新聞社代表取締役副社長原四郎より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁

庁報、読売新聞

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のノルウェー国特命全権大使クリスティアン・ベルグ・ニールセン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、天皇と共に正殿竹の間において、日本政府の招待により来日中のソビエト連邦外務大臣アンドレイ・アンドレヴィイチ・グロムイコ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報、読売新聞

十三日 火曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のスペイン国駐劄特命全権大使加川隆明及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報
天皇と共に須崎御用邸に行啓のため、午後一時十五分御出門、四時四十八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

十四日 水曜日 午前、御用邸敷地内のミカン園・展望台道・カニ沢方面における天皇の植物御調査に同行される。以後、御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

二十一日 水曜日 天皇と共に須崎御用邸より還啓のため、午後零時三十五分御出門、四時皇居に到着される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁序報

二十二日 木曜日 天皇と共に連翠において、来日中のニューヨークのジャパン・ソサエティ会長ジョン・デイヴィソン・ロックフェラー三世及び同夫人、同理事長アイザック・シャピロ及び同夫人

をお招きになり、宮中午餐を催される。後日、ロックフェラー三世より天皇・皇后に、宮中午餐に対するお礼としてウイリアムズバーグ銀器オリジナルデザインのコピーポットセットの献上がある。なお、昨五十年十月五日、天皇・皇后は御訪米中にロックフェラー三世の招待をお受けになり、同人別邸における非公式午餐会に御臨席になった。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁報、日本経済新聞、読売新聞

二十六日 月曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のブラジル国駐劄特命全権大使吉田健三及び同夫人、チリ国駐劄特命全権大使山下重明及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に連翠において、ユーゴスラビア国特命全権大使ミロスラヴ・クレアチツチ及び同夫人、ブラジル国特命全権大使エリオ・デ・ブルゴス・カバル及び同夫人・息女、グアテマラ国特命全権大使カルロス・エンリケ・モリーナ・ムニョス及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に芳菊の間において、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王・同妃百合子より寒中の挨拶をお受けになる。以後、この年も皇族・御親族としばしば御対面・御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三十日 金曜日 午前、孝明天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二月

一日 日曜日 東久邇盛厚の祥月命日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官日誌、贈賜録

二日 月曜日 この日、大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

三日 火曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任の米国駐劔特命全權大使東郷文彦及び同夫人、ネパール国駐劔特命全權大使佐々木正賢及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿竹の間において、この度離任のアイerland国特命全權大使クリストファー・ピーター・フォガティー及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に須崎御用邸に行啓のため、午後一時十五分御出門、四時四十八分同邸に御到着になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

四日 水曜日 午前、御用邸敷地内のミカン園・車庫前などにおける天皇の植物御調査に同行される。

以後、御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

十三日 金曜日 天皇と共に須崎御用邸より還啓のため、午後零時三十五分御出門、四時皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

十六日 月曜日 正午過ぎより正殿竹の間において、公賓として来日中のモロッコ国首相アハメツド・オスマン及び同夫人ララ・ヌズハ同国王ハッサン二世の妹を天皇と共に御引見になる。ついで豊明殿において天皇と共に宮中午餐を催される。なお、同首相を通じ同国王ハッサン二世・王妃より天皇・皇后に御贈進品があり、皇后へはモロッコ民族衣裳一揃が贈られ、御引見の前に披露される。御引見時には、御贈進に対する天皇・皇后より国王・王妃への謝意伝達が同首相に託される。また、十八日には滞在中体調を崩したヌズハ夫人へのお見舞いとして、皇后より同夫人に対し果物を贈られる。これに対し、十九日付で同夫人より皇后に礼状が寄せられるとともに、モロッコを紹介するカラー写真帳 *Lumières du Maroc* Éditions Delvoise の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、

外交雑録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のタイ国駐箭特命全権大使人見宏及び同夫人、パキスタン国駐箭特命全権大使根本博及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿竹の間において、この度離任のナイジェリア国特命全権大使イグナティアス・ジュリアス・ダワー・ダーロング及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のマダガスカル国特命全権大使アポリネール・アンドリアツィアファジャット及び同夫人・息女二人、エチオピア国特命全権大使ミリオン・ネクニツクを順次御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 金曜日 来る三月六日にお誕生日を迎えられるに当たり、この日、日本赤十字社病院救助収容患者及び恩賜財団済生会病院救助収容患者合計六千五百四十名に、手拭い一筋ずつを賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

二十一日 土曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十三日 月曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十四日 火曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のオーストラリア国駐箚特命全権大使大河原良雄及び同夫人、チェコスロバキア国駐箚特命全権大使鈴木文彦及び同夫人、ユーゴスラビア国駐箚特命全権大使黒田瑞夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

イスラエル国特命全権大使シャウル・ラマテイ及び同夫人、ウルグアイ国特命全権大使アルベルト・ロドリゲス・ニン及び同夫人、スイス国特命全権大使ピエール・キュエヌー及び同夫人を招かれ、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 水曜日 午後、正殿梅の間において、新任のボリビア国特命全権大使ワルテル・モンテネグロ及び同夫人、コロンビア国特命全権大使ホセ・マリア・ビリャレアル及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

昭和五十一年三月

二十六日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のオーストリア国特命全権大使フランツ・ヴァイディングー及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十七日 金曜日 午後、千草の間において、前米国駐節特命全権大使安川壯及び同夫人の拝謁を天皇と共に受けられ、お茶を賜い御歓談になる。安川は、昨年の御訪米時に同国駐節特命全権大使として尽力した。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、進講録、宮殿行事録、入江相政日記

三月

一日 月曜日 午後、重要無形文化財保持者による邦楽演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。皇太子妃・正仁親王妃華子・梨本伊都子・同正子・宇治量子・久邇桜子が陪席する。楽部に設けられた御休所において先着の皇族方より挨拶をお受けになった後、桃華楽堂内の会場にお進みになる。米川文子の箏・唄による箏曲^{八重衣}、二代目中村雁治郎・二代目中村扇雀等による歌舞伎^{曾根崎心中 同行の場}

を御覧になった後、御休所において箏・唄の米川文子、歌舞伎の中村雁治郎・中村扇雀の拝謁をお受けになる。この度の演奏会に際し、出演の重要無形文化財保持者のうち中村雁治郎に御紋付木盃^大一組等を賜う。また、二度目の出演となる重要無形文化財保持者の米川文子に御紋付瑠璃花瓶^大等を賜い、その他の出演者等にもそれぞれ賜品がある。なお、本演奏会は昨五十年十一月二十七日に行われる予定であったが、日本国有鉄道のストライキの影響で延期されていた。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、邦楽演奏会、恩賜録

五日 金曜日 元宮内府御用掛久松潜一去る二日死去につき、この日、天皇・皇后より祭糝料を賜う。

久松は、昭和二十年四月から八月まで皇后宮職御用掛を務めた。○恩賜録、儀式録、宮内庁序報

六日 土曜日 満七十三歳のお誕生日を迎えられる。

午前、芳菊の間において、宮内庁長官始め各部長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、芳菊の間において元側近奉仕者の祝賀を、通り廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、再び芳菊の間において元女官長・元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を順次お受けになる。

午後、花の間において東久邇文子始め御親族の祝賀を、御車寄前において元女嬬等の祝賀を、再び花の間において元御用掛安東秀子・有島暁子・服部豊子、続いて御学友・御同級生七名の祝賀を順次お受けになる。その後、吹上御所において、徳仁親王・文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。

なお、天皇の御風気御用心のため、皇族・御親族との御晩餐御会食はお取りやめになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁序報

九日 火曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のノルウェー国駐筭特命全権大使兼松武及び同夫人、ベルギー国駐筭特命全権大使西堀正弘及び同夫人、バングラデシュ国駐筭特命全権大使吉岡一郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿

行事録、宮内庁序報

天皇と共に正殿竹の間において、ヨルダン国駐筭特命全權大使土屋南夫より、同国及び同国王フゼイン一世についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録、入江相政日記

十日 水曜日 国賓として来日されたヨルダン国国王フゼイン一世及び王妃アリアの歓迎行事に御臨場のため、午前九時十四分御出門、天皇と共に迎賓館赤坂離宮に行啓される。歓迎行事の後、皇后は王妃と御同乗になり、十時十一分皇居に御到着になる。

ついで天皇と共に正殿竹の間において、国王・王妃と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后にはアル・フゼイン・ビン・アリ勲章頸飾が贈られる。なお、この度の来訪に当たり、天皇・皇后より国王に有田焼花瓶染錦社丹文を、王妃に有田焼紅茶セットを、皇后より王妃に洋服地紅葉山御養蚕所製を御贈進

になり、国王・王妃より天皇・皇后に銀製紅茶セット、ガラス製容器エルサレムの発掘品、ベドウィン族の女性及

び砂漠を描いた油絵Mulama, Durra 作、同国のコインセット、置時計が贈られる。また別途、天皇・皇后より王

女アリア及び王妹バスマに佐賀錦ハンドバッグを、皇后より王妃及び王妹に『桃苑画集』をそれぞれ御贈進になる。国王・王妃が御入京の際には、皇后より王妃に花束を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、接待書類、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

午後、天皇と共に吹上御所において、この度玉川大学農学部を卒業した東久邇真彦の挨拶をお受けになる。天皇・皇后より真彦に、卒業につき万那料及びお品料を、参殿の際に万那料及び洋服地をそれぞれ賜う。また、真彦がこの日より二十九日まで欧州を旅行するに当たり、天皇・皇后より万那料及

びお品料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、贈賜録、旧皇族雑録

午後八時、天皇と共に豊明殿において、ヨルダン国王フセイン一世及び王妃アリーアをお招きになり、宮中晚餐を催される。御食後、春秋の間において御歓談になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、接待書類、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

十一日 木曜日 午後、正殿梅の間において、この度赴任のペルー国駐劄特命全権大使木本三郎及び同夫人、エジプト国駐劄特命全権大使魚本藤吉郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に千草の間において、前ベルギー国駐劄特命全権大使安倍勲及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、進講録、宮殿行事録

十二日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日学習院幼稚園を卒業した清子内親王と御対面になる。また天皇・皇后より同内親王に万那料及びお品を賜う。これとは別に、皇后よりお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、贈賜録

十五日 月曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のインド国駐劄特命全権大使鈴木孝、ベトナム民主共和国駐劄特命全権大使長谷川孝昭及び同夫人、コートジボワール国駐劄特命全権大使安田謙治及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

ヨルダン国王フセイン一世及び王妃アリーア御主催の御晚餐に御出席のため、午後七時五十二分御出門、天皇と共に迎賓館赤坂離宮に行啓される。御会食の後、十時四十三分還啓される。○女官長日記、

昭和五十一年三月

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、接待書類、宮内庁庁報、官報

十六日 火曜日 ヨルダン国王フセイン一世及び王妃アリーの歓送行事に御臨場のため、午前九時五十三分御出門、天皇と共に迎賓館赤坂離宮に行啓される。十時三十分還啓される。後日、国王より天皇・皇后に対し、日本滞在中に受けられた款待に謝意を表する親書五月二十
八日付が寄せられる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、接待書類、外賓接待録、宮内庁庁報、官報

十八日 木曜日 天皇と共に連翠において、タンザニア国特命全権大使ジョージ・ニグラ及び同夫人、フランス国特命全権大使ジャン・ピエール・ブリュネ及び同夫人、レバノン国特命全権大使アリフ・ジェバラ及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 火曜日 天皇と共に須崎御用邸に行啓のため、午後一時十五分御出門、四時四十九分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 天皇と共に須崎御用邸より還啓のため、午後零時三十五分御出門、四時皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報

三十一日 水曜日 午前、芳菊の間において、就職により翌四月一日大阪へ出立する東久邇真彦の拝謁を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

四月

一日 木曜日 午後、昭和五十年年度音楽大学卒業生演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子及び元皇族等に加え、特に思召しにより服部豊子が陪聴する。東京芸術大学卒業生による邦楽、上野学園大学卒業生によるヴァイオリン独奏、東京芸術大学卒業生によるピアノ独奏、国立音楽大学卒業生によるバリトン独唱、武蔵野音楽大学卒業生によるピアノ独奏、桐朋学園大学卒業生による打楽器独奏をお聴きになる。御休憩を挟んだ後、皇太子妃も陪席し、上野学園大学卒業生によるハープシコード独奏、国立音楽大学卒業生によるクラリネット独奏、桐朋学園大学卒業生によるピアノ独奏、武蔵野音楽大学卒業生によるマリンバ独奏、東京芸術大学卒業生によるバリトン独唱をお聴きになる。終わって、楽部御休所脇廊下において各校代表者の拝謁をお受けになり、ついで楽部玄関内において出演者に御会釈を賜う。なお、この度の演奏会に際し、出演者二十名に御紋付銀製スプーンを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、音楽大学演奏会、恩賜録第二十一回ユニセフ協力募金を実施の財団法人日本ユニセフ協会に、事業御奨励のため金一封を賜う。

○恩賜録、宮内庁序報

二日 金曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のマレーシア国駐劄特命全権大使原栄吉及び同夫人、アルジェリア国駐劄特命全権大使宮崎弘道及び同夫人、パプアニューギニア国駐劄特命全権大使山口孝一郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

三日 土曜日 午前、神武天皇祭皇霊殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、

昭和五十一年四月

御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

六日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のソビエト連邦特命全権大使オレグ・アレクサンドロヴィチ・トロヤノフスキー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八日 木曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、国際オリンピック委員会^{I.O.}委員竹田恒徳より、去る二月に開催されたインスブルックオリンピック及び来る七月に開催のモントリオールオリンピックなどに関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、入江相政日記、菊と星と五輪

九日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日学習院初等科に入学した清子内親王と御対面になる。なお、去る六日、天皇・皇后より同内親王にお品料及び万那料を、皇太子・同妃に五種交魚代料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録

十一日 日曜日 昭憲皇太后の祥月命日につき、午前中はお出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十二日 月曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任の国際連合日本政府代表部在勤特命全権大使安倍勲及び同夫人、メキシコ国駐劄特命全権大使和田力及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のパキスタン国特命全権大使サルタン・モハメッド・カーン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録

宮内庁庁報

十三日 火曜日 天皇と共に連翠において、コスタリカ国特命全権大使ヘルマン・ガゴ・ペレス及び同夫人、ボリビア国特命全権大使ワルテル・モンテネグロ及び同夫人、中央アフリカ国特命全権大使アントワーヌ・ムバリ・ダバをお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 金曜日 午前、宮殿北溜において、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総裁表彰の愛育班員及び愛育班育成功労者等二十九名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、宮殿行事録、宮内庁庁報

花の間において、新任の神宮大宮司二条弼基、及び前任の神宮大宮司徳川宗敬の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、神宮及神社諸件、神宮彙報

十八日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、この誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 午後、天皇と共に芳菊の間において、翌二十三日より二十八日までカナダ国^{第二回}バンフ国際身体障害者スキー大会に特別参加のためを訪問する寛仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、宮内庁庁報

二十三日 金曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、公賓として来日中のニュージーランド国首相ロバート・デイヴィッド・マルドゥーン及び同夫人を御引見になる。引き続き天皇と共に豊明殿において、同首相夫妻のため宮中午餐を催される。この度の訪日に当たり、天皇・皇后よりマルドゥーン

ン首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また、同首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には宝石入りブローチ陶製容器入りが献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交

贈答録、宮殿行事録、恩賜録、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 午後、厚生大臣から表彰された身体障害者で自立更生した者及び身体障害者の更生援護功労者等の拝謁を、宮殿北溜において天皇と共に受けになる。更生援護功労者羽柴幸子より挨拶を受けられ、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、

典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 木曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において宮内庁長官始め総代の祝賀を、続いて女官長始め女官の祝賀を、正殿梅の間において皇太子始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀を、再び花の間において元女官長始め元女官等の祝賀をお受けになる。

午後、天皇と共に豊明殿において、天皇誕生日宴会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官その他が出席する。四時、天皇と共に春秋の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、各国外交使節団の長等が出席する。両儀の間に、芳菊の間において、東久邇文子始め御親族の拝謁をお受けになる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いのお品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

典式録、儀式録、宮殿行事録

天皇誕生日一般参賀につき、午前中四回にわたり、天皇及び皇太子・同妃・正仁親王・同妃華子と共に長和殿ペランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

五月

七日 金曜日 午後、正殿梅の間において、新任のカナダ国特命全権大使ブルース・アーヴィング・ランキン及び同夫人、インドネシア国特命全権大使アントニウス・ヨセフ・ウイトノ・サルサント及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、宮内庁庁報、宮殿行事録

八日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

九日 日曜日 母の日につき、皇太子・同妃よりカーネーションの御贈進をお受けになる。○女官長日記

十一日 火曜日 午後、正殿梅の間において、新任のラオス国特命全権大使ラーン・パタマウオン、アイルランド国特命全権大使デーヴィッド・ネリガン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 金曜日 翌十五日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の納骨並びに拝礼式が挙行されるにつき、この日天皇・皇后より同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

十六日 日曜日 午後三時四十八分御出門、天皇と共に蔵前国技館に行啓され、大相撲五月場所八日目を御覧になる。六時九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

昭和五十一年五月

十七日 月曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 火曜日 イラク国特命全権大使カハターン・ルトウファイ・アリ及び同夫人、セネガル国特命全権大使アサーヌ・バシルー・デイウフ及び同夫人、ビルマ国特命全権大使タウン・ルイン及び同夫人を招かれ、連翠において天皇と共に午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 水曜日 午後、皇宮警察創立九十周年記念武道大会を御覧になるため、天皇と共に皇居内の済寧館にお出ましになり、皇宮警察選抜選手及び招待選手による柔道・剣道の各決勝戦、護衛術技基本訓練を御覧になる。ついで弓道場に移られ、皇宮警察選抜選手及び招待選手による弓道の各決勝戦を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、済寧

二十日 木曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、四齡となった蚕に桑を与えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二十一日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る六月八日より二十五日までヨルダン国・ユーゴスラビア国・英国を訪問する皇太子・同妃の首席随員中山賀博<sup>前フランス国駐
節特命全権大使</sup>及び随員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁庁報

正殿梅の間において、新任のスーダン国特命全権大使エル・バギール・アブデル・ムタール及び同夫人、ポーランド国特命全権大使ステファン・ペルコヴィツチ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 土曜日 茨城県において開催される第二十七回全国植樹祭に御臨場、併せて地方事情御視察のため、午前十時十三分御出門、天皇と共に同県に行啓される。東京駅より水戸駅を経て、午後零時十五分、水戸市の茨城県公館に御到着になる。御昼食後、那珂郡那珂町の茨城県林業試験場、続いて山方町役場を御訪問の後、四時二十九分、久慈郡大子町の御泊所余暇活用センターやみぞに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、茨城県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁報、官報、茨城県林業試験場所蔵資料、山方町役場所蔵資料、第二七回全国植樹祭行幸啓誌、山方町誌、町報やまがた、毎日新聞、読売新聞、いはらき

二十三日 日曜日 午前十時三十三分、天皇と共に御泊所余暇活用センターやみぞを御出発、久慈郡大子町高柴台の全国植樹祭会場にお着きになる。お手植地に進まれ、天皇に続き、林業関係者等代表宮田秀二郎・林業後継者代表郡司文雄・茨城県青年団連盟代表高倉ひろ・学校生徒代表三木雅子の介添えにて、ヤマザクラ一本・スギ二本をお手植えになる。里美村立里美中学校^{久慈郡里美村}において御昼食の後、多賀郡十王町の国際電信電話株式会社茨城衛生通信所を御視察になる。終わって午後三時二十一分、高萩市の御泊所高萩大心苑に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、茨城県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁報、官報、KDD茨城衛生通信所蔵資料、株式会社大心苑所蔵資料、第二七回全国植樹祭行幸啓誌、大子町史、山方町誌、浅川ささら天覧の記、高萩炭礦五〇年のあゆみ、広報たかはぎ、毎日新聞、読売新聞、いはらき

二十四日 月曜日 午前十時、天皇と共に御泊所高萩大心苑を御出発になり、高萩市下手綱のお手播き会場に御到着になる。お手播き床に進まれ、林業関係者等代表鈴木藤太の介添えによりイチヨウの種子をお手播きになる。天皇もスギの種子をお手播きになる。次に北茨城市立茜平青少年の家を御視

察になる。御昼食後、同所をお発ちになり、社会福祉法人誠之会特別養護老人ホーム石楠花荘を御訪問になる。この度の御訪問に際し、天皇・皇后より石楠花荘に菓子を賜う。終わって磯原駅・土浦駅を経て、午後四時三十七分、御泊所筑波山京成ホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、茨城県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、第二七回全国植樹祭行幸啓誌、山方町誌、つくば、広報きたいばらき、毎日新聞、いはらき

二十五日 火曜日 悪天候のため、御予定の筑波山の御視察はお取りやめとなる。午前、天皇と共に御泊所筑波山京成ホテルにおいて、茨城大学教授鈴木昌友・茨城県教育委員会教育庁指導課指導主事安藤勝敏より、茨城県の特徴ある植物とその分布、及び筑波山の植物についての説明をお聞きになる。午後一時三十九分天皇と共に御泊所を御出発、下館駅より原宿駅を経て、四時四十分、皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、茨城県下行幸啓録、幸啓録、宮内庁庁報、官報、第二七回全国植樹祭行幸啓誌、山方町誌、昭和天皇の思い出、つくば、いはらき

二十七日 木曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、春の園遊会を催される。午後二時二分天皇と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時五十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸啓録、幸啓録、園遊会録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

二十八日 金曜日 第二十七回結核予防全国大会^{結核予防法施行二十五周年記念}に御臨席のため、午前九時四十分御出門、明治神宮会館へ行啓される。御着後、御休所において財団法人結核予防会総裁故雍仁親王妃勢津子と御対面になり、ついで厚生大臣田中正巳・結核予防会会長島津忠承の拝謁をお受けになる。終わって

式場にお出ましになり、会長挨拶・結核予防功労者等の表彰及び感謝状贈呈・来賓祝辞に続き、次のお言葉を賜う。

本日、この大会に臨み、日ごろ結核予防のために尽力されている皆さんに、親しくお会いできたことを大変うれしく思います。

近年、我が国の結核事情が著しく好転していることは、長年にわたる皆さんの努力のたまものであり、深く満足に思います。

しかし、結核を根絶するためには、まだ幾多の解決すべき問題があります。今後とも、関係者が互いに協力して、結核対策の推進に努め、国民の健康と福祉の増進に寄与するよう心から希望します。

続いて会長のお礼言上をお受けになり、会場をお発ちになり、十時五十二分還啓される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁序報、官報、財団法人結核予防会五十年のあゆみ

二十九日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕に桑をお与えになる。その際、同所主任浅羽登代夫より説明をお受けになる。この際、宮内記者八名が御給桑の様子を拝見する。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

三十一日 月曜日 常磐会総会に御出席のため、午後一時二十三分御出門、椿山荘に行啓される。御休所において正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・崇仁親王妃百合子と御対面になる。ついで会場にお出ましになり、「花すみれ」合唱のなかを舞台上に上がられる。徳江陽子による幻想即興曲などショパンの作品四曲のピアノ演奏をお聴きになる。終わって、懇親会に臨まれる。

昭和五十一年六月

御歓談中には会場を廻られつつ、出演者・新入会員等に御会釈を賜う。四時十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

六月

二日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。上簇前の蚕等を御覧になり、桑を与えられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、卜部亮吾侍従日記

来る八日より二十五日まで皇太子・同妃がヨルダン国・ユーゴスラビア国・英国を訪問するに当たり、天皇と共に吹上御所において、御晩餐を催される。皇太子・同妃始め皇族・元皇族が出席する。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、宮内庁庁報

三日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のナイジェリア国特命全権大使ピーター・ルイス・ウドー及び同夫人、ソビエト連邦特命全権大使ドミートリー・ステパノヴィッチ・ポリヤンスキー及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四日 金曜日 昭和五十一年度全国赤十字大会に御臨席のため、午前十時三十九分御出門、明治神宮会館に行啓される。御到着後、御休所において日本赤十字社名誉副総裁皇太子妃・正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面になる。ついで日本赤十字社社長東竜太郎・同副社長植村甲午郎・同小池欣一・同名誉社長島津忠承の拝謁をお受けになる。それより会場にお出ましになり、社長挨拶に続き、金色有功章・銀色有功章・特別社員章及び章記を各章代表に授与される。続いて社長表彰の後、次のお言葉を賜う。

本日、全国赤十字大会に出席して、日ごろ赤十字の事業に尽力されている皆さんに、親しくお会いできたことを大変うれしく思います。

日本赤十字社が、創立以来九十九年の長い間、国内のみならず国際的にも、幾多の有益な事業を実施し、大きな成果を挙げてきたことを深く満足に思います。

人道と博愛を基調とする赤十字の任務は、今後ますます重要性を加えることと思しますので、関係者の皆さんは、互いに力を合わせて、その活動を推進し、使命の達成に努めるよう心から希望します。

その後、社長の奉答、受章者総代の謝辞をお受けになる。厚生大臣祝辞^代、赤十字奉仕団員及び青少年赤十字代表の各体験発表、合唱と続き、閉会の辞をもって式典は終了する。午後零時七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）

七日 月曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、翌八日よりヨルダン国・ユーゴスラビア国・英国訪問に出発する皇太子・同妃と御対面になる。なお、この度の訪問に際し、天皇・皇后より御贈進品として、ヨルダン国王に九谷焼飾皿^{極彩色更紗市松}、同王妃に七宝宝石箱^{正倉院宝物文}を、ユーゴスラビア国

大統領に写真機^{広角・望遠、レンズ付き}、同夫人に有田焼コーヒー碗を、天皇御名代の皇太子に伝達させられる。○女

官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外交雑録、東宮録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報

楽部において開催の糸竹会^{学習院大学三曲研究部}例会に御臨席になる。鏡の間において、太食調首取、合歡塩・抜頭

残楽^{三返}・長慶子・御歌の演奏をお聴きになる。終わって御休所において甘露寺受長始め出席者十八名の拝

昭和五十一年六月

謁をお受けになり、ついで講師の安倍季巖・豊雄秋・東儀信太郎の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、糸竹会

八日 火曜日 皇太子・同妃がヨルダン国・ユーゴスラビア国・英国訪問に出発するに当たり、午前、

侍従長入江相政を東京国際空港に差し遣わされる。侍従長より皇太子・同妃に、天皇・皇后のお言葉が伝えられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外交雑録、空港行事録、恩賜録

十日 木曜日 午後、紅葉山御養蚕所において、繭掻きをされる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

十一日 金曜日 天皇と共に連翠において、スウェーデン国特命全権大使ベント・オーデヴァル及び同夫人、インド国特命全権大使エリク・ゴンザルヴェス及び同夫人、英国特命全権大使ケネス・マケル・ウィルフオード及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 土曜日 安田鞞彦展東京国立近代美術館・日本経済新聞社主催を御鑑賞のため、午前九時二十九分御出門、東京国立近代美術館に行啓される。御到着後、同館館長安達健二の御先導にて玄関に進まれ、玄関外において文

化庁長官安嶋弥・日本経済新聞社会長円城寺次郎等の、玄関内において鷹司和子・安田家親族等のお出迎えをお受けになる。ついで同館総括主任研究官吉田耕三の説明にて館内を御巡覧になり、「王昭君」等の絵画を始め書・写生作品を御鑑賞になる。十時十一分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報、読売新聞

十六日 水曜日 午後、正殿竹の間において、公賓として来日中のオーストラリア国首相ジョン・マルコム・フレーザー及び同夫人を天皇と共に御引見になる。ついで同夫妻のため豊明殿において天皇

と共に宮中午餐を催される。この度の来訪に当たり、天皇・皇后よりフレーザー首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。またフレーザー首相夫妻より天皇・皇后に献上品があり、皇后にはオーストラリア・オパールの首飾・耳飾・胸飾が献上される。後日、フレーザー首相より天皇・皇后に対し下賜品に対するお礼の書簡^{七月二日付}が寄せられる。また宮中午餐の折、フレーザー首相から天皇・皇后にツバキの苗木を献上する旨の申し出があり、七月三十日、同国大使館を通じて献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

十七日 木曜日 デンマーク国王族クヌード^{同国女王の叔父} 去る十四日薨去につき、天皇・皇后より同国女王

マルグレーテ二世に弔電をお送りになる。これに対し七月三日、同国女王より答電が寄せられる。また、同じくクヌード妃カロリーネ・マティルデに弔電をお送りになる。これに対し、同妃より礼電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十八日 金曜日 午前十時五分御出門、天皇と共に多摩陵^{大正天皇} 及び多摩東陵^{貞明皇后} に行啓される。天皇

に続き、両陵に御参拝になる。ついで多摩動物公園を御視察になり、午後三時九分還啓される。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報、官報、多摩動物公園五十年史、どうぶつと動物園

スウェーデン国王カール十六世グスタフが翌十九日にシルヴィア・ゾンマーラートと結婚式を挙げるに当たり、この日、天皇・皇后より同国王に祝電をお送りになる。これに対し二十二日、同国王及び王妃より答電が寄せられる。また、これより先、結婚のお祝いとして、天皇・皇后より国王に九谷

昭和五十一年七月

焼飾皿 極彩色秋の七草
文、皿立て付き を御贈進になる。○外交慶弔録、外交贈答録、宮内庁庁報、官報

二十二日 火曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時四十九分御出門、午後零時三十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

夕刻、御内庭及びその周辺における天皇の植物御調査に同行される。以後、御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十九日 火曜日 天皇と共に那須御用邸より還啓のため、午前八時四十三分御出門、十一時二十七分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、去る二十五日にヨルダン国・ユーゴスラビア国・英国訪問より帰国した皇太子・同妃と御対面になり、帰国の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

七月

一日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二日 金曜日 午前、天皇と共に花蔭亭脇において、紅葉山御養蚕所主任浅羽登代夫及び助手四名に

御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に鳳凰の間において、皇太子・同妃のヨルダン国・ユーゴスラビア国・英国訪問の首席随員
中山賀博以下随員の拝謁をお受けになる。続いて宮殿御車寄内において随行員に御会釈を賜う。○女官
長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のチリ国特命全權大使カルロス・ベサ・リオン及
び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁
報

四日 日曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、オーストラリア国より一時帰国した島津久永及
び同夫人貴子の挨拶をお受けになる。ついで御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍
従職日誌、内舎人日誌

五日 月曜日 来る八月三十日の六条天皇八百年式年祭に先立ち、午前、天皇と共に正殿竹の間にお
いて、書陵部編修調査官橋本義彦より「六条天皇の御事蹟について」と題する進講をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録
来る十七日よりカナダ国モントリオール市で開催される第二十一回オリンピック競技大会に日本代表
選手団が参加するに当たり、天皇・皇后より財団法人日本体育協会に御奨励金を賜う。○恩賜録、宮内庁
庁報

六日 火曜日 午前、花の間において、新宮内庁御用掛齊藤文次郎の拝謁をお受けになる。○女官長日
記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

昭和五十一年七月

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のバングラデシユ国特命全権大使アブドウル・ムンタクイム・チョードリを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

宮内庁序報

七日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のハンガリー国特命全権大使エル

ニユー・ホルヴァート及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

天皇と共に吹上御所において、去る六月二十五日にヨルダン国始め三箇国訪問から帰国した皇太子・

同妃のため、御晩餐を催される。皇太子・同妃始め皇族・元皇族が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、宮内庁序報

八日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のサウジアラビア国特命全権大使ザイン・エイ・ダッ

パীগ、ベトナム国特命全権大使グエン・ザップを順次御引見になる。なお、昨年四月ベトナム共和

国の降伏によりベトナム戦争は終結し、去る二日に南北ベトナムは統一され国名がベトナム社会主義

共和国に改称された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、例規録、宮殿行事録、宮内庁

序報、官報

九日 金曜日 午前、正殿竹の間において、この度離任のガーナ国特命全権大使クレメント・オトウ・

クデート・アマテ及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

十日 土曜日 ドイツ連邦共和国前大統領グスタフ・ヴァルター・ハイネマン去る七日死去につ

き、天皇・皇后から弔意を同夫人ヒルダに伝えるよう御下命があり、この日、宮内庁長官より外務大臣にこの旨が通知される。なお、同夫人は昭和四十六年御訪欧の時、病気の夫に代わり午餐等で応接した。○外交慶弔録

十二日 月曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のギリシヤ国駐箚特命全権大使徳久茂及び同夫人、マダガスカル国駐箚特命全権大使中村輝彦及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿竹の間において、この度離任のニュージーランド国特命全権大使トーマス・セドリック・ラーキン及び同夫人を天皇と共に御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

鳳凰の間において、新たに宮内庁御用掛を委嘱された渡辺允外務省条約局法規課長並びに宮内庁御用掛の委嘱を解かれた熊谷直博在大韓民国日本国大使館参事官の拝謁を天皇と共にお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録、官報

十三日 火曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時四十四分御出門、午後零時三十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

午後、御内庭において、天皇の植物御調査に同行される。以後、御用邸御滞在中、しばしば天皇の植物御調査に同行される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

昭和五十一年七月

十七日 土曜日 去る十一日からの大雨により甚大な被害を受けた静岡県に、天皇・皇后よりお見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報

二十三日 金曜日 東久邇成子の祥月命日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、那須御用邸行幸啓録

二十八日 水曜日 那須御用邸より一時御帰京のため、午前八時四十三分天皇と共に御出門、十一時三十四分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、来る八月二日より十三日までメキシコ国を訪問する崇仁親王・同妃百合子の挨拶をお受けになる。また、翌二十九日午前、天皇と共に鳳凰の間において、その随員安井芳郎^{式部副長}の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、宮内庁庁報

二十九日 木曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、公賓として来日したフランス国首相ジャック・シラク及び同夫人を御引見になる。ついで天皇と共に豊明殿において、同首相夫妻のため宮中午餐を催される。この度の来訪に当たり、天皇・皇后よりシラク首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また、シラク首相夫妻より天皇・皇后に献上品があり、皇后には^{ルネ・ジェニ}の献上がある。○女官長

日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報、外国からのごあいさつ夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御対面になり、御夕食を御会食になる。その際、来る八月七日よりベルギー国及びスペイン国を旅行する徳仁親

王より挨拶をお受けになる。また、御会食の前に、天皇と共に随員曾我剛東宮侍従の拝謁をお受けになる。

八月五日には、天皇・皇后より同親王にお品料及び万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、東宮録、宮内庁庁報

三十日 金曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

八月

二日 月曜日 午前、花の間において、新任の御料牧場長豊田晋の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

三日 火曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時四十四分御出門、午後零時五十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

四日 水曜日 午前、天皇の植物御調査に同行される。御出発の際、天皇と共に御用邸御車寄前において、栃木県関係者等に御会釈を賜う。岩舟町長○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

六日 金曜日 広島原爆の日につき、午前中はお出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓録、卜部亮吾侍従日記

昭和五十一年八月

九日 月曜日 長崎原爆の日につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓録

十一日 水曜日 北白川房子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、旧皇族雑録

十三日 金曜日 那須御用邸より一時御帰京のため、午前八時四十三分天皇と共に御出門、十一時三十四分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十四日 土曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、就職後初めて上京した東久邇真彦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に吹上御所において、昨十三日メキシコ国訪問より帰国した崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十五日 日曜日 政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席のため、午前十一時五十分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓される。午後零時二十六分還啓される。なお、天皇・皇后より同追悼式を行う厚生省に生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、恩賜録、宮内庁庁報、官報、読売新聞

十六日 月曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のチュニジア国駐劔特命全権大使田村豊及び同夫人、パナマ国駐劔特命全権大使山口広次及び同夫人、ザイール国駐劔特命全権大使手島冷志及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録

宮内庁序報

天皇と共に鳳凰の間において、崇仁親王・同妃百合子メキシコ国訪問の随員安井芳郎式部副長の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

十七日 火曜日 天皇と共に那須御用邸に行啓のため、午前九時四十九分御出門、午後零時三十七分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁序報

十九日 木曜日 午前、梨本伊都子故守正王妃死去の報をお聞きになり、予定されていた午前の御散策をお取りやめになる。この日、天皇・皇后より弔問使として侍従田中直を同人邸に差し遣わされる。また二十一日、天皇・皇后の賜物使・柩前使として侍従卜部亮吾を豊島岡参集所豊島岡墓地内に差し遣わされ、天皇・皇后より梨本徳彦伊都子の養子に祭資を賜う。また天皇・皇后より柩前に盛花を、霊前に榊・菓子を賜う。

二十二日の葬儀には、皇后の御使として侍従小林忍を豊島岡参集所に差し遣わされ、拝礼させられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、那須御用邸行幸啓録、重要雑録、墓誌銘録

二十日 金曜日 午前、天皇と共に嚶鳴亭にお出ましになり、栃木県知事船田譲より県勢の概況と県政当面の課題についてお聞きになり、引き続き天皇及び正仁親王・同妃華子と共にキジ五十羽を放たれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

二十二日 日曜日 故梨本伊都子の葬儀当日につき、終日お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

昭和五十一年八月

二十三日 月曜日 午前九時三十分、天皇と共に御出門になり、栃木県立美術館に行啓される。次に、御料牧場を御訪問になる。午後三時四十分、那須御用邸にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、下野新聞、栃木新聞

夕刻、天皇と共に附属邸前庭において宮内記者会会員十四名とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、御用邸で絵をお描きになる方法について、また音楽についての質問をお受けになる。絵に関しては、下絵を描いた後にすぐ墨で描くこと、山などに行つた際には鉛筆で画帳にスケッチをすることをお答えになり、音楽に関しては、ピアノは戦争前まで弾いていたが今は弾いていないことを、お笑いになりながらお答えになる。○侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、天皇記者会見、那須御用邸管理事務所日誌、昭和天皇と私達

二十六日 木曜日 天皇と共に那須御用邸より還啓のため、午前八時四十三分御出門、十一時二十七分皇居に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十八日 土曜日 西サモア国家元首タヌマフィリ二世来日に当たり、同元首より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には木彫の壁掛額、及びサモアを紹介する書籍が贈られる。○女官長日記、女官日誌、外交贈答録

三十日 月曜日 午前、六条天皇八百年式年祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

九月

八日 水曜日 タイ国王族ワン・ワイタヤコン・クロムムン・ナラディップ・ポングプラバン^{元副首相} 去る

五日薨去につき、天皇・皇后より同国王ラーマ九世^{プミポン・アドゥンヤデート} に弔電をお送りになる。これに対し二十三日に答電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

九日 木曜日 久邇侂子^{御母}二十年式年祭につき、午後三時二十一分御出門、豊島岡墓地へ行啓される。

御着後、久邇邦昭^{御甥}・同夫人正子、及び久邇家御縁故のお出迎えをお受けになる。雨のため参集所よりの御遙拝に変更となり、御拝座より侂子の墓所を御遙拝になる。墓前において齋主^{掌典}による玉串奏奠が終了した旨の報告をお受けになり、続いて邦彦王墓を御遙拝になる。終わって邦昭・正子よりお礼言上をお受けになり、一同に御会釈を賜う。三時四十七分還啓される。

式年祭に当たり、午前、女官長を久邇邸に遣わされ、霊舎の拝礼を仰せ付けられる。また、天皇・皇后より霊舎に菓子・榊を、墓所に榊をお供えになる。皇后より侂子の写真に切り花・果物を、同墓所に果物をお供えになる。邦彦王・久邇朝融・知子女王の墓所にも果物をお供えになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、旧皇族録、重要雑録、宮内庁庁報

十日 金曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のバチカン国駐劄特命全権大使菅沼潔及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、例規録、

宮内庁庁報

天皇と共に芳菊の間において、昨九日誕生日を迎えた故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官長日

昭和五十一年九月

記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十二日 日曜日 鷹司綏子鷹司和子の義母 昨十一日死去につき、天皇・皇后より霊前に切り花・果物を賜う。

翌十三日の葬儀には、天皇・皇后より霊前に生花・菓子をお供えになる。また天皇・皇后より鷹司尚

武和子の養子に祭資を賜う。○女官長日記、侍従職日誌、重要雑録、贈賜録

十四日 火曜日 午前、正殿竹の間において、ブラジル国駐劄特命全權大使吉田健三より同国についての進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

十六日 木曜日 国賓として来日中のブラジル国大統領エルネスト・ガイゼル及び同夫人の歓迎行事に御臨場のため、午前九時二十分御出門、天皇と共に迎賓館赤坂離宮に行啓される。十時一分、大統領夫人と御同乗にて還啓される。

引き続き天皇と共に正殿竹の間において、大統領夫妻と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、皇后には南十字星勲章頸飾が贈られる。この度の来訪に際し、天皇・皇后より大統領に九谷焼飾皿金襴五彩色小紋、皿立て付きを、同夫人に七宝宝石箱ぶどう文を、皇后より同夫人に生地紅葉山御養蚕所製の金地梅花模様、外箱付きを御贈進になる。

また、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、天皇・皇后には水晶とトルマリンの原石及び青色アクアマリンの原石、大統領紋章入りメダルが、皇后には金台オパール入りネックレス・指輪・耳飾が贈られる。なお、大統領夫妻に同行した息女には、天皇・皇后より佐賀錦ハンドバッグ小花模様をお贈りになる。これとは別に、大統領夫妻の入京に際し、皇后より大統領夫人に花束の御贈進がある。午後八時、天皇と共に豊明殿において、大統領夫妻のため宮中晚餐を催される。御晚餐の前に、大統

領夫人より皇后に花束の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、接待書類、恩賜録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十七日 金曜日 故梨本伊都子三十日祭につき、宮殿へのお出ましをお控えになる。同祭終了につき、午後、吹上御所において、梨本徳彦及び同夫人よりお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録

十八日 土曜日 ブラジル国大統領エルネスト・ガイゼル及び同夫人主催の御晩餐に御臨席のため、午後七時二十三分御出門、天皇と共に迎賓館赤坂離宮に行啓される。九時五十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、接待書類、外賓参内録、宮内庁庁報、官報

二十日 月曜日 ブラジル国大統領エルネスト・ガイゼル及び同夫人の歓送行事に御臨席のため、午後四時五十七分御出門、天皇と共に迎賓館赤坂離宮に行啓される。五時三十九分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、接待書類、外賓参内録、外賓接待録、宮内庁庁報、官報

この度の台風十七号により甚大な被害を受けた岐阜県・高知県・愛知県・兵庫県・岡山県・徳島県・香川県・鹿児島県に、天皇・皇后よりお見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報、官報

二十二日 水曜日 天皇と共に連翠において、ギリシャ国特命全権大使ジャン・C・カンピオティス及び同夫人、マダガスカル国特命全権大使アポリネール・アンドリアツィアアジャト及び同夫人・息女二名、エチオピア国特命全権大使ミリオン・ネクニツクをお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 木曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

昭和五十一年十月

職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

二十四日 金曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、国際オリンピック委員会委員竹田恒徳の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

二十七日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のドイツ連邦共和国特命全権大使ヴィルヘルム・ゲオルク・グレーヴェ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十八日 火曜日 午前、正殿梅の間において、新任のニカラグア国特命全権大使フリオ・ウ・グティエレス・リベラ及び同夫人、パキスタン国特命全権大使ジャムシエッド・K・A・マーカー及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日、昭和五十一年度国民たすけあい共同募金運動を御奨励のため、天皇・皇后より社会福祉法人中央共同募金会に金一封を賜う。○社会事業、宮内庁庁報

三十日 木曜日 午後、天皇と共に連翠において、昭和四十六年のヨーロッパ諸国御訪問及び昨年の米國御訪問の節の随員・随行員等をお招きになり、お茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

十月

一日 金曜日 午前、花の間において、新宮内庁御用掛松井以都子及び前宮内庁御用掛大野操子ほか一名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、贈賜録

午後、宮殿北溜において、厚生大臣表彰の第二十八回保健文化賞受賞者等の拝謁を天皇と共に受けになる。厚生政務次官中山正暉より挨拶を受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

五日 火曜日 午後、天皇と共に春秋の間において、民間放送二十五周年記念全国大会に参加する社団法人日本民間放送連盟会長等及び会員各社社長等の拝謁を受けになる。同連盟会長小林与三次^{日本テレ}

^ビ放送網株式会社取締役社長より挨拶を受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のデンマーク国特命全権大使テイーエ・ダルゴー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に春秋の間において、藍綬褒章を授与された最高裁判所関係功労者等の拝謁を受けになる。高松家庭地方裁判所調停委員橋川克明より挨拶を受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、李方子^{梨本伊都子の息女}の拝謁を受けになり、故梨本伊都子の忌明けの挨拶を受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録

十二日 火曜日 午前、正殿梅の間において、新任のエルサルバドル国特命全権大使グレゴリオ・コントレラス・モラレス及び同夫人、ガーナ国特命全権大使ヴィクター・ユセム・ウッド及び同夫人を

昭和五十一年十月

順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 木曜日 天皇と共に連翠において、オランダ国特命全権大使カール・デイトリツヒ・バルクマン及び同夫人、ザンビア国特命全権大使ロンベ・フィリス・チベサクンダ、コロンビア国特命全権大使ホセ・マリア・ビリヤレアル及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日より福岡県久留米市の岩田屋デパートにおいて財団法人日本ばら会九州支部主催「秋の日本ばら会展」開催につき、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花十五本^{レデイ・エック}を御出品になる。十八日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録

十五日 金曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のイスラエル国駐箚特命全権大使片上一郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正殿梅の間において、新任のアルゼンチン国特命全権大使カルロス・ハイメ・フラギオ及び同夫人、ニュージーランド国特命全権大使ロデリック・マカリストター・ミラー及び同夫人を順次御引見になる。○女官日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に春秋の間において、社団法人日本新聞協会創立三十周年及び日本プレスセンタービル完成^{七月三十一日}を記念して開催される新聞大会に参加の同協会会長等及び会員各社社長等の拝謁をお受けになる。同会会長広岡知男^{朝日新聞社代表取締役社長}より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、読売新聞

十七日 日曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所前庭において、神宮を御遙拝になる。ついで賢所において、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 午後、天皇と共に石橋の間において、第二十一回オリンピックピクモントリオール大会の日本選手団入賞者^{六位以上}並びに役員等の拝謁をお受けになる。選手団長財団法人日本体育協会会長河野

謙^三参議院議長より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。ついで春秋の間において、お茶の席を

設けられる。その際、河野団長より各役員及び入賞選手の紹介をお受けになり、役員・選手とお話になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、サンケイ

十九日 火曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この度英国より転任帰国の東久邇信彦、及び同夫人吉子・同子息征彦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、旧

皇族雑録

二十日 水曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、同妃と御対面になる。終わって、天皇と共に同所において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、典式録

午後、正殿梅の間において、新任のハンガリー国特命全権大使ペーテル・コーシュ及び同夫人、ノルウェー国特命全権大使ビョーン・ブラックスタッド及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 木曜日 財団法人日本いけばな芸術協会創立十周年を記念した同会主催「日本いけばな芸

術展」を御覧になるため、午前九時二十七分御出門、日本橋高島屋に行啓される。御到着後、正面玄関内において生け花出品者等のお出迎えをお受けになった後、八階に移られ、エレベーター前において日本いけばな協会会長細川護貞・同会名誉総裁宣仁親王妃喜久子等の、会場入口において先着の皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子のお出迎えをお受けになる。また、会場内イケバナインターナショナル出品者作品横において、出品各国の特命全権大使夫人等及び出品者約六十名のお出迎えがある。池坊専永・小原豊雲・勅使河原蒼風の説明にて会場内を御巡覧になった後、十時二十一分還啓される。同日午後、吹上御所において宣仁親王妃と御対面になり、この度の行啓につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、公賓として来日中のカナダ国首相ピエール・エリオット・トルドー及び同夫人を御引見になる。ついで天皇と共に豊明殿において、同首相夫妻のため宮中午餐を催される。この度の来訪に当たり、天皇・皇后よりトルドー首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また、同首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后にはガラス製ブローチダイヤ入りが献上される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、典式録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 第三十一回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情御視察のため、この日より二十五日まで天皇と共に佐賀県に行啓される。午前十時十六分御出門、東京国際空港より福岡空港に向かわれ、博多駅・佐賀駅を経て佐賀県庁に御到着になる。同所に展示された有明海水産物を御覧になった後、佐賀県立博物館を御見学になる。午後三時五十一分、御泊所ホテルニューオータニ佐賀に御到着になる。なお、佐賀県立博物館において画家高取稚成の作品を御覧になった際の、御結

婚前より同氏に絵画指導を受けたため懐かしく思う旨の皇后の御感想が、後日、侍従を通じて発表される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、行幸啓誌、

香淳皇后の御絵と画伯たち、佐賀新聞、西日本新聞

二十三日 土曜日 午前十時五分天皇と共に御泊所ホテルニューオータニ佐賀を御出発、社会福祉法人聖母の騎士会特別養護老人ホームロザリオの園を御慰問になる。この度の御慰問に際し、天皇・皇后より入園者に対し菓子を賜う。次に佐賀駅より有田駅を経て、佐賀県窯業試験場に御到着になる。

御視察中、昭和五十年御訪米時にフオード大統領への御贈進品として選定された色鍋島草花文花瓶を御覧になる。また、皇后は絵付けが大変緻密な作業であり修得に長年を要することにつき、御関心を示される。ついで有田焼卸団地協同組合を御訪問になる。終わって有田駅より佐賀駅を経て、午後四時五分御泊所にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、佐賀県窯業技術センター所蔵資料、広報ありた、佐賀新聞、西日本新聞

二十四日 日曜日 午前十時二十四分天皇と共に御泊所ホテルニューオータニ佐賀を御出発になり、佐賀県農業試験場に御到着になる。一旦御泊所にお戻りになり御昼食の後、佐賀県総合運動場陸上競技場に向かわれ、第三十一回国民体育大会秋季大会開会式に御臨席になる。午後四時五分御泊所にお戻りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報、佐賀新聞、西日本新聞

二十五日 月曜日 午前九時四十分天皇と共に御泊所ホテルニューオータニ佐賀を御出発、佐賀県総合運動場庭球場において、国体テニス競技^{成年男子一回戦ダブルス}を御覧になる。御覧になった際に、年配者も多く出場していることにつき、好意的な感想を述べられる。ついで佐賀県立佐賀商業高等学校体育館にお

昭和五十一年十月

いて国体柔道競技^{少年男子一回戦}を御覧になる。神埼町役場において御昼食の後、佐賀県立神埼高等学校運動場において国体ハンドボール競技^{成年男子一回戦}を御覧になる。終わって神埼駅・博多駅を経て福岡空港より東京国際空港に向かわれ、午後四時十二分皇居に還啓される。なお、皇后の国民体育大会への御臨場は、この年が最後となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内序序報、官報、佐賀新聞

二十六日 火曜日 夕刻、天皇と共に正殿梅の間において、内閣総理大臣夫人の招待にて来日中のエジプト国大統領アンワル・サダート夫人ジハーンと御会見になる。この度の来訪に当たり、天皇・皇后より大統領夫人に有田焼飾鉢^{八角花鳥文、皿立て付き、十三代酒井田柿右衛門作}を御贈進になる。また、大統領夫人より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には彫銀シロップ飲料用カップ^{蓋・受皿付き、十九世紀後期エー・マタット作}が贈られる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交雑録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内序序報

二十七日 水曜日 午後、正殿梅の間において、ダニエル・ウォーカー米国イリノイ州知事夫人を御引見になる。御引見に際し、同夫人よりリンカーン座像の献上がある。同夫人は昨年の御訪米時、空港において天皇・皇后のお出迎えに当たり、また、皇后のシカゴ大学附属ワイラー児童病院及びシカゴ美術館御訪問に同行した。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内序序報
吹上御所において宣仁親王妃喜久子と御対面になり、去る二十一日の日本いけばな芸術展行啓についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

二十九日 金曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、秋の園遊会を催される。午後二時二分天皇

と共に御出門、赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時五十四分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、園遊会録、宮内庁庁報、官報

十一月

二日 火曜日 天皇と共に吹上御所において、去る八月二日から十三日までメキシコ国を旅行した崇仁親王・同妃百合子をお招きになり、御晚餐を催される。同親王・同妃、及び皇太子始め皇族八方が出席する。御食後、崇仁親王の説明によりメキシコ国旅行のスライドを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、宮内庁庁報

三日 水曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、朝日新聞社主催の全日本健康優良学校児童表彰会で表彰された特選健康優良学校代表等の拝謁をお受けになる。同表彰会会長岡知男朝日新聞社社長より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のアフガニスタン国特命全権大使アリ・アハマド・ポパル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 土曜日 午前、天皇と共に林鳥亭の庭において、宮内記者会会員とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、天皇の在位五十年間で印象に残ったことについて、また「内助の功」についての質問をお受けになる。天皇の在位期間で印象に残ったことに関しては、特にない旨を、

昭和五十一年十一月

「内助の功」に関しては、天皇の御健康のことだけには留意されてきた旨を、それぞれほえまねながらお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、昭和五十一年御在位五十年奉祝、天皇記者会見、東京新聞、読売新聞、北海道新聞

九日 火曜日 今般発生の大火により酒田市が甚大な被害を受けた山形県に、天皇・皇后よりお見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報、広報ほうさい

十日 水曜日 内閣主催の天皇陛下御在位五十年記念式典に御臨席のため、午前十時二十五分御出門、天皇と共に日本武道館に行啓される。式典に臨まれ、十一時三十六分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、臨時儀式録、昭和五十一年御在位五十年奉祝、宮内庁庁報、官報、天皇陛下御在位五十年記念式典記録、総理府史

天皇の御在位五十年につき、午後、天皇と共に、鳳凰の間において宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者の祝賀をお受けになる。続いて正殿松の間において、皇太子始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、宮殿北溜において宮内庁職員・皇宮警察本部職員・元宮内職員の祝賀を、正殿竹の間において元侍従長始め元側近奉仕者・元部局長等及び松栄会会員の祝賀をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時儀式録、昭和五十一年御在位五十年奉祝、宮内庁庁報

十一日 木曜日 天皇の御在位五十年につき、午前、天皇と共に豊明殿において、十時三十分より内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等を招待し宮中茶会を催される。午後同じく同所において、三時三十分より国会議員・都道府県知事・都道府県議会議長等を招待し宮中茶会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時儀式録、宮内庁庁報

十二日 金曜日 天皇の御在位五十年につき、午前十時三十分より天皇と共に豊明殿において、最高裁判所判事・高等裁判所長官・会計検査院長・人事院総裁・検事総長及び各界の代表者等が出席の宮中茶会に臨まれる。同じく、午後四時より春秋の間において、各国の外交使節団の長等が出席の宮中茶会に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、臨時儀式録、宮内庁庁報

十五日 月曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、公賓として来日中のスリランカ国首相シリマヴォ・バンドラナイケを御引見になる。ついで天皇と共に豊明殿において、宮中午餐を催される。

この度の来訪に当たり、天皇・皇后より同首相に御紋付銀製花瓶を賜う。また、同首相より天皇・皇后に祭装束象の置物木彫銀象眼
宝石入りの献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮

殿行事録、外交贈答録、外賓参内録、宮内庁庁報

十六日 火曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のザイル国特命全権大使ムラ
ンバ・ニユンイ・ワ・カデイマ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内
舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 水曜日 午前、正殿梅の間において、この度赴任のカタール国駐節特命全権大使多田利雄及
び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、
宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のチェコスロバキア国特命全権大使ルードルフ・コジユ
シニック及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、
宮殿行事録、宮内庁庁報

十八日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のベネズエラ国特命全権大使ティト・アポンテ・ロペス及び同夫人・息女、チリ国特命全権大使ハコボ・ノイマン・エティエンヌ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この度オーストラリア国シドニーへ赴任の久邇邦昭の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、旧皇族録

二十二日 月曜日 午後、天皇と共に春秋の間において、紫綬褒章、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された厚生省関係功労者及び文部省関係功労者等の拝謁をお受けになる。紫綬褒章受章者中川秀恭国際基
督教大
学より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 木曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、文部大臣表彰の教育功労者等の拝謁をお受けになる。広島県立広島観音高等学校校長空本敏三より挨拶をお受けになり、天皇に続きお言葉を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 土曜日 午後、重要無形文化財保持者による邦楽演奏会に御臨席のため、桃華楽堂にお出ましになる。故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子・容子内親王・久邇桜子・正田富美子が陪聴する。楽部に設けられた御休所において先着の皇族方より挨拶をお受けになった後、会場にお進みになる。狂言の素袍落茂山千
作ほか、舞踊の連獅子十七世中村
勘三郎ほかを御覧になった後、御休所において狂言の茂山千作、舞踊の十七世中村勘三郎の拝謁をお受けになる。ついで楽部御発の際、出演者に御会釈を賜う。この度

の演奏会に際し、重要無形文化財保持者の茂山千作・十七世中村勘三郎に御紋付木盃^大一組等を賜い、その他の出演者等にもそれぞれ賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、邦楽演奏会

この日、ネパール国王弟ギャネンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び同妃が米国訪問の途次東京に立ち寄るに当たり、王妃妃に花束をお贈りになる。○外交贈答録

二十八日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十九日 月曜日 午前、天皇と共に皇居内の皇宮警察学校にお出ましになり、天皇陛下御在位五十年慶祝及び皇宮警察創立九十周年記念文化展を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸啓録、濟寧

三十日 火曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

十二月

一日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、元式部官長島重信より、宮内庁楽部の欧州演奏旅行についての進講をお聴きになる。楽部演奏団は、島元式部官長を団長として去る九月二十五日出発し、スウェーデン国・ドイツ連邦共和国・スイス国・ベルギー国・フランス国・英国・オランダ国・イタリア国において雅楽の演奏を行い、十一月一日帰国した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舎人日誌、進講録、楽事録

昭和五十一年十二月

この日、正仁親王・同妃華子が宮内庁三番町分室昨五十年五月十六日より御仮寓所から新宮の常陸宮邸渋谷区東四丁目三番二十五号に移転するに当たり、天皇・皇后より同親王・同妃にお品及び三種交魚代料・清酒等を賜う。○女官長日記、皇親

録、贈賜録、宮内庁庁報、官報、皇宮警察史

この日、マサチューセッツ州サンドイッチ・ガラス博物館関係者より、昨年の御訪米時における同館御訪問を記念したアンティーク・ガラス皿の献上がある。○女官長日記、外交贈答録

二日 木曜日 天皇と共に連翠において、オーストリア国特命全権大使フランツ・ヴァイディングー及び同夫人・息女、カナダ国特命全権大使ブルース・アーヴィング・ランキン及び同夫人、インドネシア国特命全権大使アントニウス・ヨセフ・ウイトノ・サルサント及び同夫人をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 金曜日 天皇と共に連翠において、菊栄親睦会会員の皇太子・同妃始め皇族・元皇族等と午餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、菊栄親睦会録、東宮録、宮殿行事録

四日 土曜日 雍仁親王例祭につき、午後、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

七日 火曜日 久邇朝融御兄の祥月命日につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、旧皇族録

この日結婚のスウェーデン国王族ベテイル国王の叔父に、天皇・皇后より同国駐劄特命全権大使を通じお祝

品として有田焼花瓶紅地金襴手
紫陽花文を御贈進になる。これに対し翌日、ベテイル及び同妃リリアン・クレイグ

より礼電が寄せられる。○外交贈答録、外交慶弔録

この日、シカゴ大学総長より、昨年の御訪米時における同大学附属ワイラー児童病院御訪問を記念し、同大学の建築物に関する写真集の献上がある。○外交贈答録

九日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任の中華人民共和国特命全権大使陳楚及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日、歌道御奨励のため、向陽会に金一封を賜う。○恩賜録

十日 金曜日 天皇と共に宮内庁庁舎三階講堂にお出ましになり、宮内庁職員組合による文化祭美術展を御巡覧になる。同展に、サルナシの実の絵「山径」、三種の貝を描いた「熱帯の海」、及び「温室の果」「蘭」と題する御絵を御出品になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、文化祭目録、文化

十三日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のブラグアイ国特命全権大使、デシデリオ・メラニオ・エンシソ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のイタリア国特命全権大使カルロ・ペッローネ・カパーノを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 水曜日 夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

恒例祭祀録、典式録、祭典録、宮内庁庁報

十六日 木曜日 午前、花の間において、京都在住堂上会総代藤谷為隆の拝謁をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

十七日 金曜日 午前、花の間において、日本赤十字社社長東竜太郎の進講をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二十日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のバングラデシユ国特命全権大使ムスタファ・カ

マル及び同夫人、デンマーク国特命全権大使ペール・S・グロード及び同夫人を順次御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 火曜日 事業御奨励のため、財団法人結核予防会に金一封を賜い、また、天皇・皇后より

日本赤十字社に金一封を賜う。○社会事業、事業年報（日本赤十字社、財団法人結核予防会五十年の歩み

二十二日 水曜日 米国シカゴ市長リチャード・ジョセフ・デイリー去る二十日死去につき、この日、

宮内庁長官より同市長夫人に、天皇・皇后の弔意を伝える弔電が送られる。同市長は、昨昭和五十年

の御訪米の際に、接待に当たった。○外交慶弔録

二十三日 木曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総

代、元皇后宮女官・元女官・元皇子傳育官の祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、

皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、宮内庁庁報

二十五日 土曜日 大正天皇五十年式年祭山陵の儀につき、午前九時二十九分御出門、天皇と共に多

摩陵に行啓される。天皇に続き同陵を御拝礼になり、午後零時三十七分還啓される。夕刻、大正天皇五十年式年祭御神楽の儀に臨まれる。なお、この日午前、大正天皇五十年式年祭皇靈殿の儀が行われ、天皇の御名代として皇太子が、皇后の御名代として皇太子妃がそれぞれ拝礼する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、臨時祭祀録、祭典録、重要雜録、宮内庁庁報

この日、大正天皇五十年式年祭法要実施につき、泉涌寺・妙法院に香華料を賜う。○女官長日記

二十七日 月曜日 午前十一時五十四分天皇と共に御出門、東宮御所において、天皇の御在位五十年奉祝の内宴に臨まれる。皇太子・同妃始め皇族・御親族と午餐を御会食になつた後、狂言・能を御覧になり、ついでお茶の席に臨まれ、午後四時還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内庁庁報

二十九日 水曜日 歳末につき、午前、天皇と共に、鳳凰の間において宮内庁長官始め総代、女官長始め女官の祝詞言上を、続いて皇太子始め皇族、元皇族、御縁故者の祝詞言上をお受けになる。ついで芳菊の間において、徳仁親王・文仁親王・清子内親王の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内庁庁報

昭和五十二年（西曆一九七七年）

七十四歳

一月

一日 土曜日 午前九時四十五分より、天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・宣仁親王・容子内親王・憲仁親王、続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等、各国外交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、徳仁親王・文仁親王・清子内親王、元皇族・御縁故者等、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。また、この年、新年祝賀の儀が、皇族等の祝賀を除いて初めて報道関係者に公開される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、年末年始行事、宮殿行事録、宮内庁序報、官報

二日 日曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に、午前三回・午後五回の計八回、長和殿ペランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、年末年始行事、宮殿行事録、宮内庁序報、官報

官報

一回目の新年一般参賀お出ましの後、天皇と共に正殿竹の間において、元側近奉仕者・元部局長の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録

三日 月曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、儀式録、祭典録、年末年始行事、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録

五日 水曜日 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕食を御会食になる。御夕食後、徳仁親王が昨五十一年十二月の和歌山県旅行中に海岸を撮影したスライドを、同親王の説明により、天皇及び皇太子一家と共に御覧になる。以後、この年は概ね毎週水曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一家と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

タイ国皇太子ワチラロンコン去る三日結婚につき、この日、天皇・皇后よりお祝いとして同国駐節大使を通じて同皇太子・同妃に有田焼紅茶セット金襴手
鳳凰文を御贈進になり、また同皇太子・同妃に祝意を

伝達される。○外交贈答録、恩賜録

七日 金曜日 新年につき、午後、天皇と共に鳳凰の間において、元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、ついで宮殿御車寄内において元女孀等の祝賀をお受けになる。その後、皇后お一方にて、花の間において元御用掛有島暁子・服部豊子ウアイオ
リニストの祝賀を、続いて御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

デンマーク国王族故アクセル妃マルグレータ去る四日薨去につき、天皇・皇后が同国女王マルグレーテ二世に弔電をお送りになる。これに対し二月十一日、答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十日 月曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、第二十回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催 読売新聞社後援入賞者

代表・入賞校校長等の拝謁をお受けになる。読売新聞社代表取締役社長務台光雄の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿

行事録、宮内庁庁報、読売新聞

正殿梅の間において、近く赴任のインドネシア国駐箚特命全権大使吉良秀通及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 水曜日 午前十時三十分、天皇と共に正殿松の間において講書始の儀に臨まれる。京都大学名誉教授桑原武夫より「フランス学における共同研究」、一橋大学名誉教授大川一司より「経済発展と日本の歴史的経験」、日本学士院会員東京大学名誉教授武藤清より「超高層ビルの耐震構造と生産技術」と題する進講をお聴きになる。進講後、天皇と共に正殿竹の間において、進講者及び進講者控の拝謁をお受けになる。なお、皇后が講書始の儀にお出ましになるのは、この年が最後となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、年末年始行事、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十三日 木曜日 午後、花の間において、中宮寺門跡の日野西光尊・林丘寺門跡の成瀬恵新の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十四日 金曜日 午前十時三十分、天皇と共に正殿松の間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「海」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

鹿兒島の海こえゆけば船のさき天つひかりに波はかがやく

儀終了後、天皇と共に、正殿竹の間において召人・選者・諸役の拝謁を、ついで宮殿回廊において預選者の拝謁をお受けになる。なお、皇后の御歌が披講される際に御起立にならず、参列者一同の起立が不揃いになる。皇后が歌会始の儀にお出ましになるのは、この年が最後となる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、典式録、儀式録、年末年始行事、宮殿行事録、宮内庁序報、官報、入江相政日記、昭和天皇最後の侍従日記

十七日 月曜日 天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は、月に二回から四回程度、吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記

二十日 木曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

二十一日 金曜日 天皇と共に、午後一時十六分御出門になり、四時四十八分須崎御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、内舎人供奉日記、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁序報
二十四日 月曜日 午前、天皇と共に御内庭口から展望台を経てカニ沢・三井浜まで散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、二十七日を除いて毎日天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、内舎人供奉日記、須崎御用邸行幸啓録

二十七日 木曜日 邦彦王^{御父}の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記

昭和五十二年二月

誌、侍従職日誌、須崎御用邸行幸啓録

二十八日 金曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、三時五十九分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、

宮内庁庁報

三十日 日曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る二十二日結婚した壬生基博東久邇成子の子息・同

夫人幸子の拝謁をお受けになる。その際、天皇・皇后がそれぞれにお品を、また夫妻に万那料・菓子

を賜う。さらに結婚に当たり、天皇・皇后が東久邇稔彦・同夫人聡子に鮮鯛代料並びに菓子を、壬生

基泰基博の養父

に鮮鯛代料並びに菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、旧皇

族雑録

夕刻、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王妃百合子と御対面になり、寒中の挨拶をお受けになった後、御夕餐を御会食になる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二月

一日 火曜日 東久邇盛厚の祥月命日につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日

記、女官日誌、侍従日誌

二日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任の米国特命全権大使ジェイムズ・デイ・ホッドソン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

三日 木曜日 天皇と共に連翠において、ラオス国特命全権大使ラーン・パタマウオン、アイルランド国特命全権大使デーヴィッド・ネリガン及び同夫人、ポーランド国特命全権大使ステファン・ペルコヴィツチ及び同夫人をお招きになり午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

五日 土曜日 翌六日英国女王エリザベス二世の即位二十五周年記念日につき、この日、天皇・皇后が同女王に祝電をお送りになる。これに対し十日、答電がある。○外交慶弔録、宮内庁序報、官報

七日 月曜日 正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、外務省賓客のイラン国皇族シャハナーズ・パハラヴィー同国皇帝の皇女及び同夫君ホスロー・ジャハンバニと御会見になる。引き続き天皇と共に連翠に

おいて、同夫妻のために宮中午餐を催される。この来訪に際し、同夫妻を通じ同国皇帝モハンマド・レザー・パハラヴィーより天皇・皇后にイラン製純絹絨毯の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁序報

十日 木曜日 ヨルダン国王妃アリーア昨九日航空機事故により崩御につき、この日、天皇・皇后が同国王フセイン一世に弔電をお送りになる。これに対し二十二日、同国王より答電がある。また、この日同国において行われる葬儀に際し、同国駐劄大使を通じて柩前に天皇・皇后が花環をお供えになる。十二日には、天皇・皇后が弔問使として侍従卜部亮吾を在東京同国大使館に差し遣わされる。

昭和五十二年二月

○侍従日誌、侍従職日誌、外交慶弔録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

十四日 月曜日 来る六日に満七十四歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院の救助収容患者に合わせて手拭い六千六百七十本を賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

十八日 金曜日 午後、花の間において、新任の皇宮警察本部長武田安雄及び前任の皇宮警察本部長広山紫朗の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二十一日 月曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 火曜日 天皇と共に、午後四時二十二分御出門になり、昨五十一年新築された常陸宮邸

渋谷区東
四丁目 に行啓される。御到着後、天皇及び先着の皇太子・同妃と共に、正仁親王・同妃華子の案内で邸内を御視察になる。終わって、参邸の故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子も交え、御夕餐を御会食になり、八時三十一分還啓される。同宮邸行啓につき、天皇・皇后

が正仁親王・同妃に菓子及び万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十三日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のペルー国特命全権大使ホル

ヘ・ベランド・ウガルテツチェ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、内廷皇族誕生日綴、宮内庁庁報

二十五日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のオーストラリア国特命全権大使キース・チャールズ・オーエン・シヤン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三月

一日 火曜日 午前、花の間において、新任の宮内庁御用掛福田博外務省アメリカ局北米第二課長及び前宮内庁御用掛小和田恒内閣総理大臣秘書官の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録

二日 水曜日 天皇と共に連翠において、ナイジェリア国特命全権大使ピーター・ルイス・ウドー及び同夫人、ソビエト連邦特命全権大使ドミートリー・ステパノヴィッチ・ポリヤンスキー及び同夫人、パキスタン国特命全権大使ジャムシエツド・K・A・マーカー及び同夫人をお招きになり午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のメキシコ国特命全権大使マヌエル・アルバレス・ルーナ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 日曜日 満七十四歳のお誕生日を迎えられる。
午前、芳菊の間において、宮内庁長官始め各部署局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者、続いて内閣総理大臣・衆議院

議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀をお受けになる。その後、花の間脇において女婦・雑仕の祝賀を、芳菊の間において元側近奉仕者、続いて元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、御車寄内において元女婦等の祝賀を、花の間において元御用掛安東秀子・有島暁子・服部豊子、続いて御学友・御同級生七名の祝賀を、北溜において宮内庁職員・皇宮警察本部職員
の祝賀を順次お受けになる。

午後、吹上御所において、東久邇文子・同優子の祝賀を、ついで天皇と共に徳仁親王・文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・容子内親王、鷹司和子と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、内廷皇族誕生日綴、宮殿行事録、宮内庁庁報

八日 火曜日 祐子内親王の祥月命日につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十日 木曜日 天皇と共に、午後一時十六分御出門になり、四時四十八分須崎御用邸に行啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

十一日 金曜日 午後、天皇と共に三井浜にお出ましになり、磯及び植物を御調査になる。御用邸御滞在中、南伊豆地方を御視察になった十五日を除き、好天の日は天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

十五日 火曜日 天皇と共に、午前十時須崎御用邸を御出門になり、南伊豆地方を御視察になる。賀

茂郡南伊豆町中木地区に御到着になり、伊豆半島沖地震昭和四十九年五月九日に発生からの災害復興状況を御徒歩にて

御覧になる。同町子浦のフロール子浦において御昼餐後、西伊豆町の堂ヶ島洋らんセンター約八千種を栽培する日本初

の本格的洋ラン植物園を御覧になる。終わって再び南伊豆町に戻られ、同町役場において昨五十一年七月の集中豪雨

による水害状況等を御聴取になる。午後四時四十二分御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録

十八日 金曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、三時五十九分皇居に還

啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮

内庁序報

二十一日 月曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

元女官長保科武子去る十八日死去につき、この日、天皇・皇后が祭糝料を賜う。また別に、天皇・皇

后が霊前に菓子・切り花を賜う。保科は、昭和九年皇后宮職御用掛を仰せ付けられ、同十三年皇后宮

女官長となる。昭和二十年より侍従職女官長、同二十二年より女官長となって以降、同四十二年まで

在職した。○女官長日記、恩賜録、贈賜録、宮内庁序報

二十二日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のフィリピン国駐筭特命全権大使御巫清尚

及び同夫人、イラク国駐筭特命全権大使伊達邦美及び同夫人、リベリア国駐筭特命全権大使橋本寅夫

及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、

昭和五十二年四月

宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のトリニダード・トバゴ国特命全権大使ソロモン・サトクマル・ラツチマン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十四日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のイタリア国特命全権大使ヴェンチエンツォ・トルネッタ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 金曜日 午後、正殿梅の間において、新任のパラグアイ国特命全権大使マルコス・マルティネス・メンディエタ及び同夫人、チエコスロバキア国特命全権大使カレル・ホーシユカ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三十日 水曜日 午後、正殿梅の間において、新任のチャド国特命全権大使アドウム・アガナイエ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

四月

一日 金曜日 午前、花の間において、元侍従石田淳ほかの拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、恩賜録

第二十二回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、金一封を賜う。○発表綴、

宮内庁庁報

三日 日曜日 午前、神武天皇祭皇靈殿の儀につき、御拝礼になる。夕刻、皇靈殿御神楽の儀につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

四日 月曜日 東宮侍従長戸田康英去る二日死去につき、この日、天皇・皇后が賜物使として侍従山本岩雄を同人邸に差し遣わされ、祭料を賜う。また別に、天皇・皇后が霊前に菓子・切り花を賜う。

○侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

五日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、鹿島平和賞受賞のため来日中のイタリア国上院議長アミントレ・ファンファーニ及び同夫人を御引見になる。その際、昨四日夫人より皇后に献上された宝石箱銀製小物入れに対する謝意をお伝えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報

六日 水曜日 午前、花の間において、新任の侍従角田素文の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

天皇と共に連翠において、スーダン国特命全権大使エル・バギール・アブデル・ムタール及び同夫人、エルサルバドル国特命全権大使グレゴリオ・コントレラス・モラレス及び同夫人をお招きになり午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 木曜日 午後、桃華楽堂にお出ましになり、昭和五十一年度音楽大学卒業生演奏会に御臨席になる。演奏会には、皇太子妃・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子及び御縁故者五名が出席する。

楽部玄関に御着後、御休所において皇太子妃・故雍仁親王妃・崇仁親王妃と御対面になる。ついでホールに進まれ御着席になる。演奏会では、東京芸術大学卒業生による邦楽^能、上野学園大学卒業生によるピアノ独奏、桐朋学園大学卒業生によるフルート独奏、武蔵野音楽大学卒業生によるバリトン独唱、国立音楽大学卒業生によるヴァイオリン独奏、東京芸術大学卒業生によるホルン独奏をお聴きになる。御少憩の後、武蔵野音楽大学卒業生によるピアノ独奏、国立音楽大学卒業生によるソプラノ独唱、東京芸術大学卒業生によるヴァイオリン独奏、上野学園大学卒業生による二重唱、桐朋学園大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。終わって御休所脇廊下において、各大学の学長・担当教員等の拝謁をお受けになる。廊下においてお見送りをお受けになる際、奉送の演奏者に御会釈を賜い、楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。なお、この日の出演者二十二名に御紋付銀製スプーンを賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恩賜録、発表綴、音楽大学卒業生演奏会

元内大臣木戸幸一昨六日死去につき、この日、天皇・皇后が賜物使・柩前使として侍従田中直を葬儀が行われる港区の青松寺に差し遣わされ、祭葬料を賜い、柩前に拝礼させられる。また別に、天皇・皇后が霊前に菓子・切り花を賜う。

木戸は、昭和十五年内大臣に就任し、二十年の内大臣府廃止までその職にあつた。極東国際軍事裁判において終身禁固刑の判決を受けたが、三十年に仮釈放された。以後、折に触れ、天機奉伺に参内し、また葉山御用邸に参邸した。○女官長日記、侍従日誌、恩賜録、贈賜録

八日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のタイ国特命全権大使ソムポン・スチャリトクン及び同夫人・息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

典式録、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十一日 月曜日 昭憲皇太后の祥月命日につき、午前中、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌

十二日 火曜日 午後、花の間において、新任の東宮侍従長黒木従達の拝謁をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る一日付で離任した元侍従石田淳の拝謁をお受けになり、同人及び上直の侍従・侍医・女官二名と御夕餐を共にされる。拝謁の際、天皇・皇后が石田にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

十三日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のレバノン国特命全権大使アリア・ジェバラ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮

殿行事録、宮内庁庁報

十四日 木曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、寛仁親王と御対面になる。同親王は翌十五日

より第三回カナダ国際身体障害者スキー大会に名誉会長として参加するためカナダへ出発する。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、賢所諸件

十五日 金曜日 午後、正殿梅の間において、新任のドミニカ共和国特命全権大使ラモン・A・カステイリヨ、ドイツ連邦共和国特命全権大使ギュンター・デール及び同夫人を順次御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十六日 土曜日 天皇と共に、和歌山県において開催される第二十八回全国植樹祭に御臨場、併せて

地方事情を御視察のため、同県に行啓される。午前八時三十七分御出門になり、東京駅より名古屋駅・新宮駅を経て、午後三時四十五分新宮木材協同組合木材会館熊野木まつり会場に御到着になる。御休所において

和歌山県知事飯谷志良による県勢概要の説明をお聞きになった後、全国植樹祭記念行事として開催中の熊野木まつりの屋外展示会場を御視察になる。終わって那智駅を経て、五時八分那智勝浦町の御泊所越之湯に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、和歌山県行幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報

十七日 日曜日 天皇と共に、午前九時四十九分御泊所越之湯を御出発になり、那智高原の全国植樹祭会場にお着きになる。お野立所に御着席になり、表彰・天皇のお言葉・第二十八回全国植樹祭大会会長保利茂の答辞の後、お手植え地へ進まれる。天皇に続き、那智勝浦町長山県格・林業後継者代表峰豊美・東牟婁郡青年団体連絡協議会浜口いくみ・みどりの少年団代表坂地裕子の介添えをお受けになり、ヒノキの苗木三本をお手植えになる。天皇はスギの苗木三本をお手植えになる。終わって那智勝浦町役場において御昼餐の後、串本町に向かわれる。途中、車中より奇岩群として知られる橋杭岩を御覧になる。ついで株式会社串本海中公園センターマリன்பビリオンを御視察になり、串本駅より白浜駅を経て、午後四時三十六分、白浜町の御泊所白良荘グランドホテルに御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、和歌山県行幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報

十八日 月曜日 天皇と共に、午前九時三分御泊所白良荘グランドホテルを御出発になり、上富田町の社会福祉法人神愛会特別養護老人ホーム愛の園を御視察になる。ついで和歌山県林業センターお手播き会場

並びに林業
展示会場
に御到着になり、お手播き床に進まれ、上富田町長寺前好巳の介添えをお受けになりヒノキの

種子をお手播きになる。天皇もスギの種子をお手播きになる。ついで野外の製炭小屋において備長炭の製造作業を、林業センターの展示室において林業の展示等を御視察になる。終わって紀伊田辺駅より南海電鉄極楽橋駅を経て、午後二時五十九分伊都郡高野町の高野山駅に御到着になる。それより鳥羽天皇皇后藤原得子^{美福}が葬^{美福}られて^{門院}いる高野山陵に向かわれ、天皇に続き同陵に御参拝になる。ついで

奥之院前に移動され、そこからは奥之院参道をお歩きになり、天皇皇族髮齒爪塔^{靈元天皇始め天皇・皇族二十}

^{四方の髮・齒・爪などを埋納}

に御参拝になる。続いて灯籠堂を御視察になり、さらに摩尼山麓の植物を御観察になる。その後、三百年続く伝統作業である三本杉のブリ縄作業<sup>杉の種子を
取る作業</sup>を御覧になり、五時一分御泊所金剛峯寺に御到着

になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、和歌山県行幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報

十九日 火曜日 天皇と共に、午前十時八分御泊所金剛峯寺を御出発になり、南海電鉄高野山駅より東京駅を経て、午後四時五十五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日

誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、和歌山県行幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報

二十一日 木曜日 午前、宮殿北溜において、第九回愛育班員全国大会<sup>社会福祉法人恩賜財
団母子愛育会主催</sup>に際し総裁又は

会長から表彰された愛育班員及び愛育班育成功労者等二十三名の拝謁をお受けになる。代表の黒田和

子<sup>岡山県愛育委
員連合会長</sup>より挨拶をお受けになり、次のお言葉を賜う。

皆さんには、このたびは表彰されておめでとう。

これからも母子福祉のために一層励んでください。

からだに気をつけるように。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、発表綴、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のポルトガル国特命全権大使ペドロ・マルティン・ダ・クーニャ・ヴェイガ・マデイラ・デ・アンドラーデ及び同夫人、オーストラリア国特命全権大使ジョン・ローレンス・メナデュー及び同夫人・息女を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 午後、宮殿北溜において、財団法人結核予防会総裁より表彰された結核予防事業功労者五十六名の拝謁をお受けになる。代表の勝田市長川又敏雄より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、発表綴、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、在フィリピン日本国大使館参事官谷口誠より、同国の歴史・政治・経済情勢及び同国大統領夫妻の業績等についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 月曜日 午後四時、天皇と共に正殿竹の間において、国賓フィリピン国大統領フェルディナンド・エドラリン・マルコス及び同夫人イメルダと御会見になる。ついで同所において、同国大統領息女アイミー、アイリーン以下の随員を御引見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より大統領に銀製花瓶^{波模}を、同夫人に有田焼紅茶セット^{金襴手 鳳凰文}を、同息女アイミーに佐賀錦ハンドバッグ^{菊の大輪模様}を、同息女アイリーンに金台真珠ブローチを御贈進になる。また、大統領夫妻より天皇・皇后にフィリピン産貝殻製灰皿^{金、サンゴ、ルビー等の宝石で装飾されたもの}が贈られる。なお、大統領夫妻が入京した際に、皇后より大統領夫人に

花束を御贈進になる。翌日には大統領夫人より皇后に生花が贈られる。

八時、天皇と共に豊明殿において、大統領夫妻のために宮中晩餐を催される。御食後、春秋の間において御歓談になる。なお、皇后が宮中晩餐にお出ましになるのは、これが最後となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、接待書類、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、外国からのごあいさつ

二十六日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のスリランカ国駐劄特命全権大使越智啓介及び同夫人、ガーナ国駐劄特命全権大使橋敬一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のペルー国特命全権大使セサル・エスペホ・ロメロ及び同夫人、チュニジア国特命全権大使ハビブ・ベン・ヤヒア及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 水曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の拝謁をお受けになる。自立更生者岡島恵より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において宮内庁長官始め総代の祝賀、続いて女官長始め女官の祝賀を、正殿梅の間において皇太子始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、花の間前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、花の間において元皇后宮女官・元女官・元

皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。さらに天皇と共に鳳凰の間において、東久邇文子始め御親族の祝賀をお受けになる。

午後、天皇と共に豊明殿において、天皇誕生日宴会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官その他が出席する。四時、天皇と共に春秋の間において、天皇誕生日茶会の儀に臨まれる。皇太子始め皇族が陪席し、各国外交使節団の長等が出席する。なお、皇后が天皇誕生日宴会の儀及び茶会の儀に臨まれるのは、この年が最後となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、内廷皇族誕生日綴、宮内庁庁報、官報

天皇誕生日一般参賀につき、午前中四回にわたり、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に集まった一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃とお祝いの御夕餐を御会食になる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五月

二日 月曜日 午後、吹上御所において、この日昭和五十二年春季叙勲により勲二等旭日重光章を受章した侍従次長徳川義寛にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、発表綴

八日 日曜日 母の日につき、皇太子妃よりカーネーションが贈られる。○女官長日記

十三日 金曜日 翌十四日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式及び納骨が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

十五日 日曜日 天皇と共に、午後三時四十八分御出門になり、蔵前国技館に行啓される。大相撲の五月場所八日目を御覧になり、六時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、発表綴、宮内庁庁報、官報

十六日 月曜日 去る四月十六日より開催中の浜田庄司展東京国立近代美術館・日本経済新聞社主催を御覧になるため、午後一

時五十九分御出門になり、東京国立近代美術館に行啓される。御到着後、浜田庄司ほかのお出迎えをお受けになり、同館館長安達健二の先導にて、先着の鷹司和子と共に館内の陶芸作品を御巡覧になる。

二時四十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、発表綴、宮内庁庁報

十七日 火曜日 午前、貞明皇后例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。なお、皇后が宮中三殿の殿上において御拝礼になるのは、これが最後となる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式

録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、オランダ国王王嗣ベアトリックス及び同夫君クラウスと御会見になる。引き続き天皇と共に連翠において、王嗣・同夫君のために宮中午餐を催される。この来訪に際し、王嗣及び同夫君より天皇・皇后に手製クリスタル・ガラス花瓶及び王嗣一家夫妻及び子息の写真王嗣夫妻署名、銀縁額入りの御贈進がある。これに対し、天皇・皇后より王嗣及び同夫君に九谷焼手

昭和五十二年五月

鉢極彩色菊絵模様、
第四代上出喜山作及び凶録『宮殿』普及、
版天皇御一家の御団欒のお写真天皇御署名、
台紙付きを御贈進になる。なお、

王嗣夫妻が昨十七日入京した際に、皇后より王嗣に花束を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、接待書類、外交贈答録、外交雑録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 木曜日 午前、天皇と共に連翠において、第十五回日米知事会議に出席のため来日した米国知事団のサウスダコタ州知事リチャード・F・カナイプ及び同夫人ナンシー、ミシガン州知事ウイリアム・G・ミリケン及び同夫人ヘレン、ハワイ州知事ジョージ・リヨウイチ・アリヨシ昭和五十年御訪米の
際、ハワイ州におい

て戻カ及び同夫人ジーン、ニューメキシコ州知事ジェリー・アポダカ及び同夫人クララ、随員のアメリカ全国知事会事務局長ステイブ・B・フアーバー及び同夫人バーバラを御引見になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、三齡の蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

天皇と共に連翠において、サウジアラビア国特命全権大使ザイン・アル・アビディーン・ダツバーク、ニカラグア国特命全権大使フリオ・U・グテイエレス・リベラ及び同夫人、ガーナ国特命全権大使ビクター・エセム・ウッド及び同夫人をお招きになり午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御苑内の林鳥亭にお出ましになり、天皇御在位五十年奉祝の菊栄親睦会大会に御臨席になる。幹事崇仁親王の案内により亭内奥の床の間前に進まれ、一同より

お祝いをお受けになる。ついで宣仁親王妃喜久子の案内により模擬店を廻られ、手品などの余興を御覧になる。二時四十分吹上御所に還御される。なお、この日の大会では御在位五十年奉祝に併せて朝香鳩彦・東久邇稔彦の九十歳、東久邇聡子^欠席の八十歳、賀陽恒憲の七十七歳の祝いも行われる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、行幸啓録、贈賜録、菊栄親睦会録、宮内庁庁報

二十三日 月曜日 英国女王エリザベス二世の御即位二十五周年記念に際し、天皇・皇后より同女王に九谷焼喰籠<sup>金欄手更紗
小紋文様</sup>を御贈進になり、また同国駐劄特命全権大使を通じて祝意を伝達される。これに

対し、後日女王秘書官から同大使に宛てて、女王から天皇・皇后への謝意伝達を依頼する礼状^{六月二日付}が寄せられる。○外交贈答録、恩賜録

二十四日 火曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、春の園遊会を催される。午後二時一分御出門になり、天皇と共に赤坂御苑に行啓される。御退場後、東宮御所にお立ち寄りになり、三時五十四分還啓される。皇后の園遊会へのお出ましは、これが最後となる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職

日記、内舍人日記、園遊会録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

二十五日 水曜日 日本助産婦会創立五十周年記念式典に御臨席のため、午前九時四十九分御出門になり、九段会館に行啓される。御着後、御休所において日本助産婦会会長横山フクの拝謁をお受けになり、式場に臨まれる。会長式辞、厚生大臣表彰、日本助産婦会会長表彰、衆議院議長代理三宅正一<sup>同院副
議長</sup>の祝辞に続き、次のお言葉を賜う。

日本助産婦会創立五十周年記念式典に臨み、親しく皆さんとお会いすることができて、うれし

昭和五十二年五月

く思います。

助産婦の皆さんが、長い間それぞれの地域において、母子保健などに大きな成果を挙げてきたことを深く満足に思います。

この業務は、母と子の生命を守り、その保健衛生を指導する重要な使命を持つものでありますから、今後も健康に気をつけ、互いに協力して、社会のために一層努力するよう希望します。

横山会長のお礼言上をお受けになった後、式場を退出され、十時三十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、発表綴、宮内庁庁報、官報

二十六日 木曜日 天皇と共に、午後一時二十三分御出門になり、日本赤十字社創立百周年記念全国大会に御臨席になるため、NHKホールに行啓される。御到着後、御休所^{ホール}において皇太子・同

妃、正仁親王妃華子、崇仁親王妃百合子と御対面になり、ついで内閣総理大臣福田赳夫・厚生大臣渡辺美智雄・日本赤十字社社長東竜太郎、赤十字国際委員会委員長アレクサンドル・エイ、赤十字社連盟理事長ホセ・バロツソの拝謁をお受けになる。式場に臨まれ、東社長の式辞、天皇のお言葉に続いて、第二十六回フローレンス・ナイチンゲール記章受章者の元鹿児島市立病院総婦長長塩シヅ社会福祉法人たちばな

会重症心身障害児才、
レンチ学園総婦長、静岡赤十字病院看護部長甲賀はな、元東京大学医学部教授湯楨ます、芳賀赤十字病院看護部長渡辺文子の四名に章記及び記章を授与される。続いて元日本赤十字社戦時救護員一同代表、日本赤十字社有功章並びに特別社員章受章者総代等に記章及び章記を授与される。厚生大臣表彰及び社長表彰、内閣総理大臣の祝辞等の後に御退場になり、二時五十六分還啓される。同大会開催に際し、

日本赤十字社関係物故者慰霊祭が行われるにつき、日本赤十字社に生花を賜う。なお、皇后が日本赤十字大会及びフローレンス・ナイチンゲール記章授与式にお出ましになるのは、この年が最後となる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宣召録、發表綴、恩賜録、宮内庁序報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社社史稿

二十七日 金曜日 午後、花の間においてエスター・ビドル・ローズ^{元進講奉仕者}を御引見になる。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二十八日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕室において五齡の蚕に桑をお与えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三十日 月曜日 常磐会総会に御臨席のため、午後一時二十一分御出門になり、椿山荘に行啓される。

御休所^{国際ホールテールラウンジ}において、故雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・李方子と御対面になる。ついで総会場^鐘にお出ましになり、会員一同の「金剛石」合唱の中を舞台上がられる。ペギー葉山に

よる歌「切手のないおくりもの」等をお聴きになり、ついで懇親会に臨まれ、あけぼの会のお席において故雍仁親王妃等と御歓談になる。終わって先生・新入会員に御会釈を賜い、三時十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、發表綴、宮内庁序報

花の間において、この度オーストラリア国に出発する久邇正子の拝謁をお受けになり、暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三十一日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のニュージールランド国駐箚特命全権大使影井梅夫及び同夫人、モンゴル国駐箚特命全権大使秋山光路及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長

昭和五十二年六月

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拜謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、外務省賓客シンガポール国首相リー・クアン・ユー及び同夫人を御引見になる。引き続き天皇と共に連翠北において、首相夫妻のために宮中午餐を催される。この来訪に際し、天皇・皇后が首相夫妻に御紋付七宝花瓶^{鶴首}を賜う。また同首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には中国書<sup>山川多壯麗
人物尽風流</sup>の掛軸が献上される。なお、皇后が宮中午餐にお出ましになるのは、これが最後となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六月

二日 木曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、五齡の蚕を御覧になり、桑をお与えになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

四日 土曜日 御夕餐後、天皇と共に宮殿にお出ましになり、ホタルを御観賞になる。千鳥の間ベランダや南庭において約一時間にわたり御覧になる。翌日の御夕餐後にも、天皇と共に、観瀑亭滝口付近においてヘイケボタルを、ついで外庭東門においてゲンジボタルを御観賞になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 月曜日 午後、宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会に御臨席になる。楽部玄関に御着後、糸竹会副会長の先導により御休所にお入りになり、ついで鏡の間に進まれ御着席になる。例会では、

平調音取、林歌、越殿楽^{残楽}、陪臚、鷓鴣、御歌の演奏をお聴きになる。演奏終了後、御休所において、

糸竹会会員十八名及び首席楽長豊雄秋^{糸竹会}・楽長東儀信太郎^同の拝謁をお受けになる。その後、楽部

玄関を御発、吹上御所に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、糸竹会

八日 水曜日 天皇と共に、午前十時四分御出門になり、多摩陵^{大正天皇陵}及び多摩東陵^{貞明皇后陵}に行啓され

る。天皇の御拝礼が終わった後、続いて皇后が多摩陵、ついで多摩東陵を御拝礼になる。御休所において御昼餐後、隣接する浅川実験林に移動され、第一樹木園の針葉樹、第二樹木園の広葉樹や桜展示林を御視察になる。終わって午後三時八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人

日誌、臨時祭祀録、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、天皇・皇后両陛下浅川実験林行幸啓記録、入江相政日記

九日 木曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のイラン国特命全権大使アブドル・

ホセイイン・ハムザービイを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮
殿行事録、宮内庁庁報

十日 金曜日 御体調不良のため、終日、御静養になる。この日予定されていたアルゼンチン国特命全権大使等との午餐へのお出ましをお取りやめになり、翌十一日の紅葉山御養蚕所へのお出ましもお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、発表綴、謁見録、宮殿行事録、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、真崎秀樹英文日記

十四日 火曜日 天皇と共に、午前九時四十九分御出門になり、須崎御用邸に行啓される。原宿駅より御乗車、途中、伊豆高原駅にて御降車になり、午後零時五十一分熱川バナナ・ワニ園にお立ち寄り

昭和五十二年六月

になる。天皇が植物園内の各温室・ワニ園を御覧になる間、皇后は御休所植物園二階の園長室において御休息になる。同所をお発ちになり、伊豆高原駅より伊豆急下田駅を経て、四時二十分須崎御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、発表綴、宮内庁庁報

十七日 金曜日 来る二十三日に沖縄県立平和祈念公園において沖縄全戦没者追悼式を主催する沖縄県に、この日、天皇・皇后が生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

十九日 日曜日 午前、天皇と共に御車寄からイノデ沢まで散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

二十三日 木曜日 元侍従次長甘露寺受長去る二十日死去につき、この日、天皇・皇后が賜物使・樞前使として侍従田中直を同人邸に差し遣わされ、祭糝料・生花を賜い、玉串を奉奠させられる。また別に、天皇・皇后が霊前に切り花・菓子・果物を賜う。甘露寺は天皇の学習院初等学科時代より終戦直後まで東宮侍従・侍従・侍従次長として仕え、昭和二十一年八月より同三十四年五月まで掌典長を務めた。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

二十四日 金曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、四時一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、発表綴、宮内庁庁報

二十五日 土曜日 午前、花の間において、新任の掌典長東園基文・宮内庁御用掛斉藤鎮男元特命全権大使、フオーリ

ン・プレス・セ
ンター理事長 及び前掌典長永積寅彦の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二十七日 月曜日 午後、花の間において、新任の皇室経済主管福留守・審議官藤巻清太郎始め六名、

前任の皇室経済主管石川一郎始め二名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、典式録

二十八日 火曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のコロンビア国駐節特命全権大使高良民夫

及び同夫人、グアテマラ国駐節特命全権大使原富士男及び同夫人、ブルガリア国駐節特命全権大使山

戸徹及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿

行事録、宮内庁庁報

朝融王妃知子女王三十年式年祭につき、豊島岡墓地における墓所祭の御代拝を女官原田リツに仰せ付
けられる。また、天皇・皇后が、霊舎に菓子をお供えになり、また別に、皇后が霊舎に
切り花をお供えになる。さらに、お尋ねとして久邇朝建知子女王の子息、久邇邦昭・同夫人正子がオーストラリア国滞在中のため朝建が式年祭を執行に菓子を賜

う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

七月

一日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のブラジル国特命全権大使エリオ・
デ・ブルゴス・カバル及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

正午頃、芳菊の間において、昨六月三十日退職の元侍従職御用掛武者小路不二子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、贈賜録

二日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、発表綴、卜部亮吾侍従日記

四日 月曜日 午前、天皇と共に花蔭亭脇において、紅葉山御養蚕所主任浅羽登代夫及び助手四名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、桃華楽堂にお出ましになり、楽部職員による洋楽演奏会に御臨席になる。演奏会には、皇太子妃・崇仁親王妃百合子が出席する。楽部玄関に御着後、御休所にお入りになり、その後ホールに進まれ御着席になる。演奏会では、ベートーヴェン作曲交響曲第六番「田園」などをお聴きになる。演奏終了後、御休所において首席楽長豊雄秋・楽長東儀信太郎・指揮者甲斐正雄の拝謁をお受けになる。

その後、同所において一同のお見送りを受けて楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、発表綴

六日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のイスラエル国特命全権大使シャウル・ラマテイ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、

宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のタイ国特命全権大使パヨン・チューティクン及び同夫人、メキシコ国特命全権大使ハヴィエル・イグナシオ・オレア・ムニョス及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のザンビア国特命全権大使ロンベ・フィリス・チベサクンダを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁行事録、宮内庁序報

十一日 月曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任の大韓民国駐箚特命全権大使須之部量三及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮内庁行事録、宮内庁序報

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のフランス国特命全権大使ジャン・ピエール・ブリュネ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁行事録、宮内庁序報

午後、正殿梅の間において、新任のアフガニスタン国特命全権大使モハマード・ハッサン・シャルク及び同夫人、米国特命全権大使マイケル・ジョセフ・マンズフィールド及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁行事録、宮内庁序報

十二日 火曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る六月二十日に退職した元掌典長永積寅彦の拝謁をお受けになり、同人及び女官長、上直の侍従・侍医長・女官と御夕餐を御会食になる。その後、天皇と共に、永積及び御夕餐を共にした侍従等を伴い、宮殿南庭と観瀑亭前大滝口付近においてホタルを御覧になる。なお、拝謁の際、天皇・皇后が永積にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十三日 水曜日 午前、正殿梅の間において、近く赴任のセネガル国駐箚特命全権大使内田園生及び

昭和五十二年七月

同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

十四日 木曜日 天皇と共に、午前九時四十九分御出門になり、午後零時三十七分那須御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、発表綴、那須

御用邸管理事務所日誌、宮内庁序報、栃木県庁所蔵資料、入江相政日記

午後、天皇と共に御内庭を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、十五日・十六日にも天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須行幸啓録、栃木

県庁所蔵資料

十六日 土曜日 午前、御散策にお出ましになる際に、天皇と共に御車寄脇において、鰻の献上及び御機嫌奉伺のため参邸した那須町長笹沼賢弥・同町議会議長柄沢福栄始め三名に御会釈を賜う。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、那須行幸啓録、栃木県庁所蔵資料

ヨルダン国王族アールア同国王
第一王女去る十一日結婚につき、この日、天皇・皇后が同国王フセイーン一世

に祝電をお送りになる。これに対し二十五日、答電がある。さらに八月四日、同国駐劄特命全権大使を通じて天皇・皇后より同王女に九谷焼飾皿極彩色草花
に小紋文様を御贈進になり、また国王に同王女への祝意を伝

達される。これに対し後日、同王女より天皇・皇后に礼状九月九日付が送られる。○女官長日記、外交贈答録、外

交慶弔録、恩賜録、宮内庁序報、官報

十七日 日曜日 朝に腰を痛められ、天皇と共にお出ましになる予定であった植物の御調査をお取り

やめになり、終日、御用邸において安静にお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、栃木県庁所蔵資料、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

二十五日 月曜日 午前、宮内庁より皇后の御容体について、去る十七日の朝、お目覚めの後に体をひねられた際にぎっくり腰になられたこと、心配はないが完治していないため、当初天皇と共に皇居に還啓される予定であった二十六日には天皇お一方のみが還幸され、皇后はしばらく那須御用邸において御静養になることが発表される。なお、天皇は、二十六日に還幸された後、八月二日に再び那須御用邸に行幸される。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、那須行幸啓録、発表綴、皇太后陛下御健康、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

八月

五日 金曜日 夕刻、御用邸において正仁親王・同妃華子と御対面になり、お見舞いをお受けになる。

○女官長日記、女官日誌

九日 火曜日 午後、宮内庁より皇后の御様子について、快方に向かわれているがまだ完全ではなく、歩行の御練習もこれから始められるため、天皇が皇居に還幸される十二日には皇后は還啓されず、引き続き那須御用邸において御静養になること、十五日の全国戦没者追悼式には御臨席にならないこと、二十五日には天皇と共に還啓される予定であることが発表される。○幸啓録、発表綴、卜部亮吾侍従日記

十一日 木曜日 北白川房子三年式年祭につき、天皇・皇后が霊舎祭及び豊島岡墓地における墓所祭の御代拝を女官原田リツに仰せ付けられる。また、天皇・皇后が、霊舎に菓子をお供え

昭和五十二年八月

になり、さらに、お尋ねとして北白川道久房子の孫に菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

贈賜録

十五日 月曜日 全国戦没者追悼式のテレビ中継放送を御覧になり、黙禱される。同追悼式が行われるに当たり、去る十三日、天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。なお、同追悼式に御臨席になるため、天皇は、お一方で去る十二日に皇居に還幸され、十六日に再び那須御用邸に行幸される。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、恩賜録、発表綴、宮内庁序報、官報、入江相政日記

去る五日の集中豪雨により甚大な被害を受けた青森県に、天皇・皇后が災害お見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁序報

二十一日 日曜日 この日の午後より、御床払いになる。○内舎人日誌、内舎人供奉日誌

二十二日 月曜日 夕刻、天皇と共に御用邸において、昨七月の腰痛発症後初めて、正仁親王・同妃華子と御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録

二十三日 火曜日 午前、天皇が嚶鳴亭において宮内記者会会員十四名とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、皇后の腰痛発症に関する事、天皇が那須の草花をお摘みになつて皇后の枕元にお飾りになつたことなどについての質問をお受けになる。皇后の腰痛発症に関しては、記者から天皇お一方のみでの御散策等がお寂しいかと尋ねられるが、家庭内のことであるため公にしない旨を笑いを交えられながらお答えになり、皇后の枕元にお飾りになつた草花に関しては、お摘みになつた花の種類をお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須行幸啓録、那須御用邸管

理事務所日誌、天皇記者会見、栃木県庁所蔵資料、昭和天皇と私達

二十五日 木曜日 天皇と共に、午前八時四十三分那須御用邸を御出門になり、十一時三十一分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須行幸啓録、發表綴、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

去る七日に発生した有珠山の噴火により甚大な被害を受けた北海道に、天皇・皇后が災害お見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報

二十八日 日曜日 午前、昨七月の腰痛発症後初めて、天皇と共に吹上御苑にお出ましになり、吹上御所の周辺から花蔭亭まで御散策になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

九月

一日 木曜日 午前、天皇が吹上御所において、皇后の今後の行事御出席に関する基本方針について、宮内庁長官宇佐美毅より報告をお受けになる。国民体育大会への行啓はお取りやめになること、外国からの賓客の接遇に際しては午餐・晚餐には御出席にならず御会見・御引見にとどめること、園遊会へのお出ましもお取りやめになること、拝謁・御会釈は概ね従前どおり行うことが報告される。○侍従

日誌、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

二日 金曜日 総本山御寺泉涌寺において静寛院宮^{親子内親}、尊儀百年祭法要執行につき、天皇・皇后が菓子をお供えになる。○贈賜録

三日 土曜日 ネパール国王族バスンドラ・ビル・ビクラム・シャー^{国王の叔父} 去る八月三十一日薨去につき、天皇・皇后が同国王ビレンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブに弔電をお送りになる。こ

れに対し十四日、答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

昨日より非公式に来日しているケニア大統領夫人レンギナ・ケニヤッタに、この日、花束を御贈進になる。これに対し後日、同夫人より礼状^{十月六日付}が寄せられる。○外交贈答録

五日 月曜日 午後、宮内庁病院に入院中の東久邇聡子をお見舞いになり、お尋ねとして果物を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

六日 火曜日 モロッコ国王妹ララ・ヌズハ^{同国首相アハメツド・オスマン夫人}去る二日薨去につき、天皇・皇后が同国王

ハッサン二世に弔電をお送りになる。これに対し二十三日、天皇に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、

官報

八日 木曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、公賓タイ国首相ターニン・クライウィチエン

及び同夫人カレンを御引見になる。この来訪に際し、天皇・皇后が首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。

また、首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には同国特産絹生地・タイ民俗舞踊仮面^{女性用飾り台}

付が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、

宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

九日 金曜日 久邇^御俣子の祥月命日につき、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録

午後、宮内庁より、来る三十日から十月三日まで予定されていた青森県への行啓^{第三十二回国民体育大会秋季大会への御臨場}をお

取りやめになることが発表される。また夕刻、侍医長西野重孝より皇后の御容体について、腰痛は腰

椎障害によるものであること、具体的には第一腰椎が潰れて変形しており高齢者に生じやすい症状であること、予想より早く回復されているが完全治癒はないこと、日常の御生活はほぼ普通どおりであるが夕刻に痛みが生じる場合があること、年内はコルセットの着用が必要であることが発表される。

○幸啓録、地方行幸啓、青森県下行幸録

十三日 火曜日 皇后の腰痛御静養につき、天皇・皇后が格別勤労の侍従長・侍医長・女官長始め側近奉仕者等にお品を賜う。○女官長日記、贈賜録、卜部亮吾侍従日記

十六日 金曜日 山階鳥類研究所長山階芳麿が国際鳥類保護協会よりデラクール賞を受賞^{八月十九日受領}し、

来る二十日に霞会館にて受賞祝賀宴を開催するに当たり、この日天皇・皇后が山階にシャンパンを賜う。○女官長日記、贈賜録、山階芳麿の生涯

十七日 土曜日 台風九号により甚大な被害を受けた鹿児島県に、天皇・皇后が災害お見舞金を賜う。

○災害お見舞い、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午後零時十分、天皇と共に正殿竹の間において、公賓マレーシア国首相フセイン・オン及び同夫人スハイラを御引見になる。この来訪に際し、天皇・皇后が首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また、首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には洋服地^{絹生地}が献上される。○女官長

日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、典式録、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 火曜日 午後、花の間において、新任の東宮大夫安嶋弥及び前任の東宮大夫鈴木菊男の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舎人日記、典式録、恩賜録

二十二日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のクウェート国特命全権大使

タラアット・ヤコブ・アル・グセインを御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十三日 金曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

二十五日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、翌日より十月七日までオーストラリア国を旅行する鷹司和子と御対面になり、出発の挨拶をお受けになる。また翌日夕刻には、天皇と共に吹上御所において、和子と共に同国を旅行する池田隆政・同夫人厚子と御対面になり、同じく出発の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、旧皇族雑録

二十六日 月曜日 午前、正殿梅の間において、リベリア国大統領夫人ヴィクトリア・A・トルバーと御会見になる。この来訪に際し、皇后より夫人に七宝宝石箱角型正倉院紋を御贈進になり、夫人より皇后に象牙及び金細工の首飾・腕輪・耳飾・指輪化粧箱入りが贈られる。後日、大統領夫人より款待を謝する旨

の親書十月十日付が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、外交雑録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十七日 火曜日 午後、天皇と共に連翠において、昭和四十六年御訪欧及び同五十年御訪米の節の元首席随員福田赳夫始め随員・随行員をお招きになり、お茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

二十八日 水曜日 来る十月一日より十二月三十一日まで昭和五十二年度国民たすけあい共同募金運

動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。○社会事業、宮内庁庁報

二十九日 木曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣より表彰された第二十九回保健文化賞受賞者等十八名の拝謁をお受けになる。厚生大臣渡辺美智雄の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十月

二日 日曜日 午後、吹上御所において、天皇が御臨場の第三十二回国民体育大会秋季大会開会式去る九月

三十日より十月三日まで開催地青森県に行幸のテレビ中継放送を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、青

森県下行幸録、宮内庁庁報、官報

五日 水曜日 午前、天皇と共に松風の間に於いて、松栄会会員二十二名の拝謁をお受けになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録

六日 木曜日 休暇帰国中のローマ法王庁大使イッポリト・ロトーリ大司教 去る四日死去につき、バチカ

ン国にて行われる葬儀に際し、天皇・皇后が柩前に花環をお供えになる。なお後日、同大使遺族よりバチカン国駐劄大使を通じて天皇・皇后に対する謝意が寄せられる。○外交慶弔録、外交贈答録、恩賜録

七日 金曜日 午後、天皇と共に春秋の間において、藍綬褒章を授与された最高裁判所関係功労者等の拝謁をお受けになる。東京家庭裁判所調停委員西方潔の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉

昭和五十二年十月

を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録

十日 月曜日 天皇と共に吹上御所において、去る七日オーストラリア国より帰国の鷹司和子と御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十二日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のオランダ国駐節特命全権大使内田宏及び同夫人の拝謁をお受けになる。なお昨十一日、特命全権大使の拝謁次第が改正され、従来、大公使が正殿松の間において天皇に拝謁し、引き続き夫人同伴にて正殿梅の間において皇后に拝謁することになってしたが、これ以降、大公使が正殿松の間において天皇に拝謁し、続いて夫人同伴にて正殿竹の間において天皇・皇后に拝謁することとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、例規録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

十三日 木曜日 午前、正殿梅の間において、新任のエクアドル国特命全権大使アルベルト・バリール・レデスマ及び同夫人、中華人民共和国特命全権大使符浩及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十四日 金曜日 午前、正殿梅の間において、新任のイラン国特命全権大使ナーセル・マジド及び同夫人、ブラジル国特命全権大使ロナルド・コスタ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十七日 月曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 火曜日 天皇と共に、午前九時四十七分御出門になり、午後零時三十七分那須御用邸に行啓

される。同邸に暖房設備が整えられたことにより、大正十五年の同邸建造以来、初めて十月に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓記録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

十九日 水曜日 午前、天皇と共にジープにて朝日岳下にお出ましになり、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓記録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料、入江相政日記

舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓記録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料、入江相政日記

二十四日 月曜日 貞愛親王妃利子女王五十年式年祭及び令子女王^{博義王第二王女}四十年式年祭につき、御用

邸にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

二十五日 火曜日 天皇と共に、午前八時四十三分那須御用邸を御出門になり、十一時二十九分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓記録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十六日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のエクアドル国駐筭特命全権大使末岡日出徳及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

日本青年館本館再建に当たり、天皇・皇后が事業御奨励のため財団法人日本青年館に金一封を賜う。

○恩賜録、宮内庁庁報

二十八日 金曜日 午後、天皇と共に赤坂御苑において、秋の園遊会を催される。皇后は御欠席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、園遊会録、宮内庁庁報、官報

昭和五十二年十一月

翌二十九日から三十一日まで山口県下関市の大丸デパートにおいて開催される財団法人日本ばら会九州支部主催の「秋のばら展」に、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を御出品になる。○女官長日記、贈賜録、発表綴

二十九日 土曜日 日本芸術院会員前田青邨去る二十七日死去につき、霊前にバラの切り花を賜う。

また十一月九日の築地本願寺における葬儀日本美術院主催に際して切り花・菓子を賜う。死去に伴い、昭和三十

年代より長く青邨に師事された皇后は、宮内記者会の求めに応じられ、大変親身になって厳しく指導を受けたため、絵というものがいくらかわかるようになったことを感謝するとともに、師を失って残念に思う旨の感想を、侍従を通してお伝えになる。○女官長日記、贈賜録、発表綴

三十一日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のイスラエル国特命全権大使ツイヴィ・ケダル及び同夫人、フランス国特命全権大使ルイ・ドージュ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

『明治天皇紀』公刊事業終了につき、天皇・皇后より元書陵部長井下田孝一・同並木四郎・書陵部長野本松彦等に賜物がある。『明治天皇紀』公刊事業は、明治百年記念事業の一つとして閣議決定を経て、昭和四十二年四月より宮内庁において開始され、この年三月の索引刊行をもって完結した。○重要雑録、恩賜録、明治天皇紀

十一月

三日 木曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、朝日新聞社主催の全日本健康優良学校児童表彰

会から表彰された健康優良児童及び健康優良学校の代表等の拝謁をお受けになる。同表彰会会長広岡知男朝日新聞社長の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

誌、内舎人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

七日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のリビア国駐劄特命全權大使西沢憲一郎及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

去る十月二十八日の園遊会に皇后が御欠席になられたことにつき、コートジボワール国特命全權大使ピエール・ネルソン・コフイ駐日外交団長及び同夫人が盛花とお見舞状を献上する。○女官長日記、園遊会録、外交

贈答録

十四日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のベルギー国特命全權大使ラウル・ドゥールマン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

この日、元式部副長黒田実死去につき、天皇・皇后が祭染料を賜う。また別に、霊前に切り花・菓子
を賜う。○恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

十八日 金曜日 午後、天皇と共に春秋の間において、紫綬褒章、藍綬褒章又は黄綬褒章を授与された文部省関係功労者等の拝謁をお受けになる。紫綬褒章受章者芦田淳名古屋大学名誉教授の挨拶をお受けになり、
天皇に続いてお言葉を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 土曜日 午前、天皇と共に林鳥亭にお出ましになり、皇太子・同妃主権による池田隆政・同夫人厚子の銀婚をお祝いする会に臨まれる。天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、池田夫妻、鷹司和子とのお写真の撮影に応じられた後、御昼餐を御会食になる。なお、去る十月十日に結婚満二十五年を迎えた池田夫妻に、この日、天皇・皇后が鮮鯛代料及びお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録、旧皇族録

二十五日 金曜日 午前、天皇と共に宮内庁庁舎講堂にお出ましになり、宮内庁職員組合文化祭の美術展を御覧になる。同展には日本画の御作品「小春日」「つゆのころ」を御出品になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、発表綴、文化祭目録

午後、天皇と共に宮殿北溜において、文部大臣より表彰された教育功労者等の拝謁をお受けになる。

東京都立両国高等学校校長森武夫の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十八日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のクウェート国駐筭特命全権大使高松雪雄及び同夫人、デンマーク国駐筭特命全権大使橋正忠及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

天皇と共に春秋の間において、黄綬褒章又は藍綬褒章を授与された厚生省関係功労者等の拝謁をお受けになる。藍綬褒章受章者吉野章社団法人愛媛県医師会長の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、拜謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三十日 水曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、内廷皇族誕生日綴

十二月

二日 金曜日 午前、正殿梅の間において、新任のクウェート国特命全権大使アハマド・ゲイス・アブドゥラー及び同夫人、パプアニューギニア国特命全権大使アンソニー・ハロー・フアラポを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 火曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のポリビア国特命全権大使ワルテル・モンテネグロ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 水曜日 去る四日、キューバ国特命全権大使マリオ・ガルシア・インチャウスティギ及び同夫人が航空機墜落事故により死去し、この日、天皇・皇后が弔問使として侍従角田素文を同国大使館に差し遣わされる。また、十九日に港区の青山葬儀所において行われる葬儀^{外務省主催}には、天皇・皇后が花環をお供えになる。○侍従日誌、侍従職日誌、外交慶弔録、外交贈答録、恩賜録

八日 木曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、公賓パプアニューギニア国首相マイケル・T・ソマレ及び同夫人ヴェロニカを御引見になる。この来訪に際し、天皇・皇后が首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また、首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后にはハンドバッグ^{ワニ皮}が献上され

る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 金曜日 天皇と共に、午後一時十三分御出門になり、四時四十八分須崎御用邸に行啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、発表綴、宮内庁庁報

十一日 日曜日 午前、天皇と共に三井浜にお出ましになり、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に御用邸敷地内及びその周辺を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

十四日 水曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、三時五十九分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

内庁庁報

十五日 木曜日 夕刻、賢所御神楽につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十六日 金曜日 午前、花の間において、忌明けにつきお礼のため参内した前田故前田青の拝謁を

お受けになり、お言葉を賜う。その際、お品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十日 火曜日 午前、花の間において、京都在住堂上会総代冷泉為安の拝謁をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

日本赤十字社に天皇・皇后が、財団法人結核予防会に皇后が、事業御奨励のためそれぞれ金一封を賜う。○社会事業、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）、財団法人結核予防会五十年のあゆみ

元皇子傳育官桑折英三郎昨十九日死去につき、この日、天皇・皇后が祭糝料を賜い、また靈前に菓子・切り花を賜う。桑折は、昭和十五年皇子傳育官に任じられ、同二十一年廃官と同時に皇子傳育掛となった。○恩賜録、贈賜録、宮内庁序報

二十一日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のタンザニア国特命全權大使 ジョージ・ニグラ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十三日 金曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官、元皇后宮女官・元女官・元皇子傳育官の祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、内廷皇族誕生日綴、贈賜録、宮内庁序報

この日、古技保存及び歌道御奨励のため、向陽会に金一封を下賜される。○恩賜録

二十五日 日曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

二十九日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官より歳末の祝詞言上をお受けになる。ついで皇太子始め皇族、元皇族、御縁故者より歳末の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、東宮録、宮内庁序報

昭和五十三年（西曆一九七八年）

七十五歳

一月

一日 日曜日 午前九時四十五分より、天皇お一方にて宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子始め皇族の祝賀をお受けになる。皇后は、腰痛のため皇族の祝賀にはお出ましにならないこととされる。十一時より皇后もお出ましになり、天皇と共に内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等、各国外交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。各国外交使節団の長等の祝賀は、皇后の御負担を軽減するために簡略化され、時間が短縮される。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、皇后お一方にて皇太子・同妃始め皇族、宮内庁長官始め総代の祝賀を、また、天皇と共に徳仁親王・文仁親王・清子内親王、東久邇真彦・同文子・同優子・壬生基博の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、昭和天皇最後の侍従日記

新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、引き続きコルセットを着用されていること、時々腰の痛みがあるようにお見受けされること、ノルウェー国皇太子夫妻来日に際しての宮中晩餐^{来る二月九日開催}には御出席にならないことなどが発表される。○年末年始行事、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済

新聞、毎日新聞、読売新聞

二日 月曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王と共に、午前三回・午後五回の計八回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、年末年始行事、宮殿行事録、宮内庁序報、官報

三日 火曜日 午前、元始祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、

祭典録、宮内庁序報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録

四日 水曜日 賀陽恒憲昨三日死去につき、天皇・皇后が霊前に盛花をお供えになる。八日には、天皇・皇后が弔問使として侍従山本岩雄を、賜物使・柩前使として侍従卜部亮吾を豊島岡墓地に差し遣わされ、賀陽邦寿^{恒憲の子息}に祭資を賜い、霊前に白羽二重・柿・菓子を賜う。また別に、皇后が果物をお供えになる。九日には、葬場使として天皇が侍従安楽定信を、皇后が侍従小林忍を豊島岡墓地に差し遣わされる。

賀陽恒憲は、明治三十三年、邦憲王の第一王子として生まれる。母は、侯爵醍醐忠順の第一女子好子である。陸軍戸山学校長・陸軍大学校長等を歴任し、昭和二十年掌典長・御歌所長となる。二十二年皇族の身分を離れ、賀陽姓を名乗る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、墓誌銘録

七日 土曜日 新年につき、午後、天皇と共に鳳凰の間において元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、ついで宮殿御車寄内において元女孀等の祝賀をお受けになる。その後皇后お一方の

昭和五十三年一月

みにて、花の間において元侍従職御用掛有島暁子の祝賀を、ついで御同級生の祝賀をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

九日 月曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、第二十一回日本学生科学賞全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援の入

賞者代表・入賞校校長等の拝謁をお受けになる。読売新聞社代表取締役社長務台光雄より挨拶をお受

けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式

録、宮殿行事録、宮内庁庁報、読売新聞

天皇と共に菊の間において、東宮大夫安嶋弥の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十日 火曜日 午前、講書始の儀が行われる。皇后は、腰痛のため御欠席になる。○侍従日誌、儀式録、

年末年始行事

十一日 水曜日 英照皇太后の祥月命日につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、

この年は概ね九月までは水曜日に、十月以降は火曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一

家と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録

十二日 木曜日 午前、歌会始の儀が行われる。皇后は、腰痛への御用心のため御欠席になる。この

年のお題は「母」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

今もなほ母のいまさばいかばかりよるこびまさむうまごらをみて

○女官日誌、侍従日誌、儀式録、年末年始行事、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十四日 土曜日 午後零時二十四分、伊豆大島近海を震源地とするマグニチュード七・〇の地震が発生する。この地震により須崎御用邸の一部が損壊したため、二月に予定していた同邸への行幸啓はお取りやめになる。なお、十九日、地震により甚大な被害を受けた静岡県に、天皇・皇后が災害お見舞金を賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、災害お見舞い、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日誌

十七日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のドイツ連邦共和国駐劄特命全権大使吉野文六及び同夫人、スイス国駐劄特命全権大使岡田晃及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のオランダ国特命全権大使カール・デイトリッヒ・バルクマン及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は、月に二、三回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十六日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、寒中の御機嫌伺いをお受けになった後、御夕餐を御会食になる。以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

昭和五十三年二月

二十七日 金曜日 邦彦王御父の祥月命日につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌

三十日 月曜日 午前、孝明天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、内舎人日誌、

典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 火曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三時知恩寺・長福寺・善光寺・靈鑑寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

二月

一日 水曜日 東久邇盛厚の祥月命日につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌

四日 土曜日 御風気につき、午前中、吹上御所にて安静にお過ごしになる。○女官日誌

九日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、ノルウェー国皇太子ハラルド及び同妃ソニアと御会見になる。この来訪に際し、同国皇太子より天皇・皇后に銀製鉢の御贈進がある。これに対し、

天皇・皇后より同国皇太子に金蒔絵手箱菊模を、皇太子妃に佐賀錦ハンドバッグ菊の大輪模及び書籍『日本の

美術』全二巻を御贈進になる。なお、昨八日に皇太子夫妻が入京した際に、皇后より皇太子妃に花束を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、接待書類、典式録、外交贈答録、宮殿行事録、宮

内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において、来る二十六日に結婚する東久邇真彦の拝謁をお受けになる。この度の

結婚に際し、天皇・皇后が真彦に洋服地及び金員・万那料を、東久邇稔彦真彦の祖父に清酒及び鮮鯛代料を

賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のアフガニスタン国駐劄特命全權大使前田利一及び同夫人、シンガポール国駐劄特命全權大使菊地清明及び同夫人、モロッコ国駐劄特命全權大使本野盛幸及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 水曜日 来る六日に満七十五歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院の救助收容患者に合わせて手拭い七千本を賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

十八日 土曜日 午後、吹上御所において元女官小川梅子より御機嫌奉伺をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌

二十日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のエチオピア国特命全權大使アフェウォルク・アトラバチュール及び同夫人、ローマ法王庁大使マリオ・ピオ・ガスパリを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 火曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 水曜日 午前、花の間において、日本赤十字社社長東竜太郎の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和五十三年三月

二十三日 木曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、内廷皇族誕生日綴

三月

四日 土曜日 午後、天皇と共に、宮内庁病院に入院中の東久邇聡子をお見舞いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 日曜日 東久邇聡子この日死去につき、十一日まで七日間服喪される。天皇・皇后が弔問使として侍従小林忍を豊島岡墓地に差し遣わされ、天皇・皇后が盛花を、皇后が果物をお供えになる。

東久邇聡子は、明治二十九年五月十一日、明治天皇の第九皇女として生まれ、泰宮と称する。母は、典侍園祥子伯爵園基祥の息女である。大正四年五月十八日稔彦王東久邇宮と結婚し、昭和十八年十月十三日には第一王子盛

厚王が天皇・皇后の第一皇女成子内親王と結婚した。また、日本赤十字社篤志看護婦人会名誉会員・東京慈恵会名誉会員・大日本婦人会総裁などを務めた。昭和二十二年には稔彦王と共に皇籍を離脱し、東久邇姓を名乗った。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、皇親録、賢所諸件、重要雑録、恩賜録、贈賜録、墓誌銘録、宮内庁序報

六日 月曜日 満七十五歳のお誕生日を迎えられる。

東久邇聡子昨五日死去につき御服喪中のため、お誕生日の祝賀はお取りやめとなり、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、宮殿行事録、卜部亮

吾侍従日記

午後、天皇・皇后が賜物使・柩前使として侍従山本岩雄を豊島岡墓地に差し遣わされ、東久邇聡子の霊前に白羽二重・榊・菓子をも、東久邇信彦^{聡子の孫}に祭糝料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録

お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰痛への御用心のため三十分間以上の行事や御散策はおやめになっていること、スケッチは可能でも絵を描くのは難しい状態であることなどが発表される。○内廷皇族誕生日綴、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

七日 火曜日 この日、東久邇聡子の葬儀につき、葬場使として天皇が勅使として侍従田中直を、皇后が皇后宮使として侍従安楽定信を青山葬儀所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録

八日 水曜日 この日、祐子内親王五十年式年祭が行われる。御服喪中のため、侍従による天皇の御代拝及び女官による皇后の御代拝、天皇・皇后からのお供え、並びに午後に予定されていた豊島岡墓地への行幸啓はお取りやめになる。終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、臨時祭祀録、皇親録、重要雑録、宮内庁庁報

十日 金曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のアルジェリア国駐箚特命全権大使太田正己及び同夫人、ザイール国駐箚特命全権大使山下和夫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十一日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、ブルガリア国駐箚特命全権大使山戸徹より同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事

録

十三日 月曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、国賓ブルガリア国国家評議会議長トードル・ジフコフと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より同議長に七宝花瓶^{燒地}を御贈進になる。また同議長より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には民俗服一式が贈られる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、接待書類、外賓参内録、外交贈答録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十四日 火曜日 午後、正殿梅の間において、新任のアイスランド国特命全権大使ペトゥール・トルステインソン及び同夫人、ベルギー国特命全権大使エルマン・ドウエナン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十八日 土曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日学習院初等科を卒業した文仁親王と御対面になる。その際、天皇・皇后より同親王に万那料及びお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

十九日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、侍従ト部亮吾の拝謁をお受けになり、同人のノルウェー国・フランス国等への出張報告をお聞きになる。午後には、ト部が出張の際に撮影したスライドを天皇と共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、ト部亮吾侍従日記

二十日 月曜日 この度憲仁親王が学習院大学を卒業するに当たり、天皇・皇后が同親王に万那料及びお品料を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十一日 火曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長

日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

靖国神社宮司筑波藤麿昨二十日死去につき、この日、天皇・皇后が霊前に切り花・菓子を賜う。

筑波藤麿は、明治三十八年、菊麿王の第三王子として生まれる。母は、公爵島津忠義の第三女子常子皇后の御母
覬子の姉である。昭和三年情願により臣籍に降下して筑波の家名を下賜され、侯爵を授けられる。二十

一年より靖国神社宮司を務め、宮司在職中に死去した。○女官長日記、侍従日誌、恩賜録、贈賜録、靖国

元日本赤十字社社長川西実三去る三日死去につき、霊前に菓子を賜う。○贈賜録

二十二日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、マレーシア国王ヤヒヤ・プトラ及び王妃トウシク・ザイナブと御会見になる。この来訪に際し、国王・王妃より天皇・皇后に御贈進の品が

あり、皇后には錫製盛花器が贈られる。これに対し、天皇・皇后より国王・王妃に有田焼花瓶淵地紋金
彩長瓜形

を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行

事録、宮内庁序報

天皇と共に、午後二時二十二分御出門になり、豊島岡墓地に行啓される。去る八日に五十年式年祭を終えた祐子内親王墓を御拝礼になる。続いて雍仁親王墓を御拝礼になった後、同妃勢津子より挨拶をお受けになる。ついで東久邇成子・東久邇聡子の墓を御拝礼になる。御拝礼後、東久邇稔彦より挨拶をお受けになる。なお御拝礼に際し、天皇・皇后より祐子内親王墓所に榊・菓子・果物を、雍仁親王墓所・東久邇聡子墓所・東久邇成子墓所にそれぞれ菓子をお供えになる。この度の行幸啓は、祐子内親王五十年式年祭に当たり予定されていたものが、東久邇聡子の死去に伴い延期されたものである。三時十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、臨時祭祀録、行幸啓録、幸啓録、

宮内庁序報

昭和五十三年四月

二十三日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る二十九日より四月十日まで米国を訪問

する正仁親王・同妃華子の首席随従員齊藤鎮男宮内庁御用掛の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日学習院高等科を卒業した徳仁親王と御対面になり、卒業

証書を御覧になる。また、天皇・皇后より同親王に万那料及び書籍を御贈進になる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

二十七日 月曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、来る二十九日より四月十日まで米国を訪問

する正仁親王・同妃華子より出発の挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌、宮内庁庁報

四月

三日 月曜日 神武天皇祭につき、午前、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舍

人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

四日 火曜日 午前、花の間において、新日本赤十字社社長林敬三及び前日本赤十字社社長東竜太郎

の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、官報

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のルーマニア国特命全權大使ニコラエ・フィナンツ―及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁

報

五日 水曜日 午後、桃華楽堂にお出ましになり、昭和五十二年音楽大学卒業生演奏会に御臨席になる。演奏会には、皇太子妃・清子内親王・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子・容子内親王及び御縁故者四名が出席する。楽部玄関に御着の際、皇族方のお出迎えをお受けになる。その後ホールに進まれ御着席になる。演奏会では、東京芸術大学卒業生による邦楽^曲、桐朋学園大学卒業生によるチェロ独奏、国立音楽大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。御少憩の後、上野学園大学卒業生によるフルート独奏、東京芸術大学卒業生によるソプラノ独唱、武蔵野音楽大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。終わって御休所脇廊下において、各大学の代表・担当教員等の拝謁をお受けになる。皇族方・演奏者等のお見送りをお受けになり楽部玄関御発、吹上御所に還御される。なお、この日の出演者九名に御紋付銀製スプーンを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、音楽大学卒業生演奏会、発表綴、恩賜録

六日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、国賓バングラデシュ国大統領ゼアウル・ラーマン及び同夫人と御会見になる。この来訪に際し、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはサリー及びワニ皮ハンドバッグ^{虎の皮装飾付き}が贈られる。これに対し、天皇・皇后より大統領に九谷焼花瓶^{極彩色更紗小紋文様、第三代上出喜山作}を、大統領夫人に佐賀錦ハンドバッグ^{宝飾付き}を御贈進になる。なお、昨五日に大

統領夫妻が入京した際に、皇后より大統領夫人に花束を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、接待書類、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

七日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、先般結婚した東久邇真彦・同夫人賀鶴子の拝謁

昭和五十三年四月

をお受けになる。その際、天皇・皇后が真彦・賀鶴子それぞれにお品・菓子及び万那料を賜い、また別に夫妻にお祝いの品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

八日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る三月七日に結婚した竹田恒治・同夫人幾美子の拝謁をお受けになる。その際、天皇・皇后が幾美子に洋服地等を賜い、また恒治・幾美子それぞれに万那料・菓子を賜い、別に夫妻にお祝いの品を賜う。またこの度の結婚に当たり、天皇・皇后が竹田恒徳^{恒治}の父に清酒及び鮮鯛代料を、恒治に洋服地等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

この度、徳仁親王が学習院高等科を卒業し学習院大学に進学するに当たり、天皇・皇后が皇太子・同妃に五種交魚代料を、徳仁親王に万那料・お品料をそれぞれ賜う。また文仁親王が学習院初等科を卒業し学習院中等科に進学につき、天皇・皇后より皇太子・同妃に五種交魚代料を、文仁親王に万那料・お品料をそれぞれ賜う。○女官長日記、贈賜録

十一日 火曜日 昭憲皇太后の祥月命日につき、午前中、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌

午前、天皇が吹上御所において、侍従長入江相政の拝謁をお受けになる。その際、皇后の御公務の軽減に関する御意向をお示しになる。以後、天皇はこの件の公表の仕方について、たびたびお話しになる。○侍従日誌、入江相政日記

夕刻、天皇と共に吹上御所において、昨日米国訪問から帰国した正仁親王・同妃華子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

十三日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、正仁親王・同妃華子の米国訪問における首席随従員齊藤鎮男の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十五日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、ドイツ連邦共和国駐劔特命全權大使吉野文六より同国に関する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録

十七日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、国賓ドイツ連邦共和国大統領ヴァルター・シェール及び同夫人ミルドレッドと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より大統領に九谷焼飾皿金襴手色入小紋文様、第四代上出喜山作を、大統領夫人に七宝宝石箱正角形緑共彩、正倉院裂文を、大統領夫妻に『御物聚成 絵画Ⅰ』・『御

物聚成 書跡Ⅰ』いづれも朝日新聞社刊を御贈進になる。なお、昨十六日大統領夫妻が入京した際に、皇后より大統領夫人に花束をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、接待書類、外賓参内録、外

交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十八日 火曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、内廷皇族誕生日綴、宮内庁庁報

十九日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のバングラデシユ国駐劔特命全權大使伊藤博教及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 金曜日 午後、宮殿北溜において、財団法人結核予防会総裁表彰の結核予防事業功労者五十九名の拝謁をお受けになる。代表の彦根市長井伊直愛より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○

昭和五十三年四月

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、発表綴、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、去る十日に米国より帰国の正仁親王・同妃華子をお招きになり、天皇及び皇太子・同妃、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・容子内親王、鷹司和子と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

二十七日 木曜日 午前、宮殿北溜において、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総裁又は会長表彰の愛育班員及び愛育班育成成功労者等二十八名の拝謁をお受けになる。代表の秋田県知事小畑勇二郎より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、拝謁録、発表綴、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 土曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、再び花の間において元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。なお、この年以降、宴会の儀及び茶会の儀は天皇お一方による催しとなる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、内廷皇族誕生日綴、宮内庁庁報

天皇誕生日一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に、午前中四回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃華子とお祝いの御夕食を御会食になる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、内廷皇族誕生日綴

三十日 日曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、翌五月よりカナダ国のクイーンズ大学に特別学生として留学する憲仁親王と御対面になる。留学に際し、天皇・皇后が同親王に金員・お品料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

五月

一日 月曜日 第二十三回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、金一封を賜う。○發表綴、宮内庁庁報

二日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のスウェーデン国駐箚特命全権大使滝川正久及び同夫人、ノルウェー国駐箚特命全権大使吉岡章及び同夫人、メキシコ国駐箚特命全権大使松永信雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のフィリピン国特命全権大使カルロス・J・バルデス及び同夫人・息女、ウガンダ国特命全権大使サムソニ・トゥウイン・ビゴンベ及び同夫人を順次御引見になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

六日 土曜日 天皇と共に花蔭亭にお出ましになり、皇太子・同妃主催の天皇喜寿奉祝の会に御臨席になり、皇太子始め皇族・元皇族等と御昼餐を御会食になる。余興として、鷹司和子・池田厚子と共にスコットランド民謡「故郷の空」をお歌いになる。なお、天皇・皇后が奉祝会招待者にそれぞれボンボニエールを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、發表綴、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

八日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、発表綴

十二日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所御寢室において、御風氣の天皇に代わり宮殿において勲三等以下受章者の拝謁を受けた皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

十五日 月曜日 午前、天皇と共に吹上御所御寢室において皇太子と御対面になり、この日午後パール国国王・王妃の訪日に伴う諸行事を御風氣の天皇に代わって行うに当たり、打合せを行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

午後、正殿竹の間において、国賓ネパール国国王ビレンドラ・ビル・ビクラム・シャー・デーブ及び王妃アイシュワリヤと御会見になる。天皇は御風氣のため御臨席にならず、皇太子・同妃が同席する。

その際、相互儀礼叙勲があり、国王より皇后にネパール・プラタパ・バスカラ勲章が贈られる。この来訪に際し、国王・王妃より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には手織羊毛カーペットが贈られる。これに対し、天皇・皇后より国王に大手箱螺鈿花文を、王妃に有田焼紅茶セット鳳凰金彩繪及び佐賀錦ハンド

バッグを、随員の王妹シヨバ・シャヒに佐賀錦ハンドバッグを、国王・王妃に書籍『雅楽』をそれぞれ御贈進になる。また別に、皇后より王妃に絹の服地紅葉山御養蚕所製をお贈りになる。なお、国王・王妃が入京した際に、皇后より王妃に花束を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

接待書類、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十六日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、同所主任浅羽登代夫の説明により、三齡

の蚕・天蚕等の成育状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十七日 水曜日 午前、貞明皇后例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、

内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十九日 金曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更

生者及び更生援護功労者等の拝謁をお受けになる。更生援護功労者水川清一より挨拶をお受けになり、

天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、

宮内庁庁報

二十日 土曜日 高知県において開催される第二十九回全国植樹祭に御臨場、及び地方事情の御視察

のため、この日より二十四日まで天皇が同県に行幸される。皇后は、腰痛への御用心のため行啓をお

取りやめになる。○地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞

午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕を御覧になり、桑をお与えになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌

翌二十一日より二十四日まで渋谷の東急百貨店本店において開催される財団法人日本ばら会主催の

「春の日本ばら会展」に、吹上御所前庭で御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十二日にも御出

品になる。○女官長日記、贈賜録、発表綴

二十四日 水曜日 翌二十五日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行わ

れるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

二十六日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のハンガリー国駐劄特命全權大

昭和五十三年六月

使杉原真一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、花の間において、新任の宮内庁長官富田朝彦・宮内庁次長山本悟、及び前任の宮内庁長官宇佐美毅の拝謁をお受けになる。なお退職の宇佐美に天皇・皇后がお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録

二十九日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、五齡の蚕を御覧になり、桑をお与えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に春秋の間において、昭和五十三年春の褒章受章者のうち文部省・厚生省・裁判所関係の受章者等の拝謁をお受けになる。藍綬褒章受章者吉川虎男より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三十日 火曜日 午後、天皇が赤坂御苑において、春の園遊会を催される。皇后は御欠席になる。なお、これより以後、園遊会は天皇お一方にて催されることとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、園遊会録、宮内庁庁報、官報

六月

一日 木曜日 午前、花の間において、新任の掌典次長香川朝男及び前任の掌典次長正親町公秀の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録

御夕餐後、天皇及び正仁親王・同妃華子と共に、宮殿南庭において蛩を御観賞になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

元内閣総理大臣片山哲去る五月三十日死去につき、この日、天皇・皇后が賜物使・枢前使として侍従小林忍を同人邸に差し遣わされ、祭装料及び生花を賜う。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、宮内庁

序報

二日 金曜日 午前、明治神宮会館において開催のアンリー・デュナン生誕百五十周年記念全国赤字大会に、御名代として皇太子妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

本日、アンリー・デュナン生誕一五〇周年を迎え、ここにその記念全国赤字大会が開かれましたことを、誠にうれしく思います。

赤字の人道的事業は、広く世界の人々の平和と福祉のために、大きな力となっておりますが、日本赤字社が国際赤字の一員として立派にその使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと深く満足に思います。

赤字の使命は、これからますます重要さを加えることと思えますが、皆さんの一層の努力によつてさらに業績をあげられるよう心から希望します。

午後、吹上御所において皇太子妃と御対面になり、復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、重要雑録、発表綴、宮内庁序報、官報、事業年報（日本赤字社）

天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のインド国特命全権大使エリク・ゴンザルヴェス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

三日 土曜日 ベルギー国王弟アルベールが大韓民国訪問の途次、乗り継ぎのため新東京国際空港成田空港

に立ち寄るに当たり、天皇・皇后が御使として式部副長和智一夫を同空港に差し遣わされ、お言葉を伝えさせられる。これに対する王弟よりのお礼の言葉を、和智の復命を通じて侍従よりお聞きになる。

○侍従日誌、外交雑録、外賓参内録

六日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のザンビア国駐箚特命全権大使西宮

一及び同夫人、ベネズエラ国駐箚特命全権大使野村豊及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

天皇と共に鳳凰の間において、来る十二日から二十七日までパラグアイ国及びブラジル国を訪問する

皇太子・同妃の首席随員高島益郎^{外務審議官}及び随員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁序報

七日 水曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のイラク国特命全権大使カハター

ン・ルトウファイ・アリ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

天皇と共に吹上御所において、来る十二日より二十七日までパラグアイ国及びブラジル国を訪問する

皇太子・同妃のために内宴を催され、正仁親王・同妃華子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃

百合子・寛仁親王・宣仁親王・容子内親王、鷹司和子と御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、宮内庁序報

九日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のコスタリカ国特命全権大使ヘル

マン・ガゴ・ペレス及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁

見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

去る五月三十日、日本赤十字社社長林敬三より、創立百周年事業の一つとして新築された同社本社社屋ビルの貴賓室に、名誉総裁である皇后の御作品を掲額したい旨の願い出があり、この日、「仔兔」

昭和四十二年御作を下賜される。○贈賜録、錦芳集

十二日 月曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、この日パラグアイ国及びブラジル国訪問に出発する皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、空港行事録

東久邇聡子百日祭につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、贈賜録
十三日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭搔きをされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十四日 水曜日 午後、正殿梅の間において、新任のタンザニア国特命全権大使ハッサン・デイリア及び同夫人、オランダ国特命全権大使ヨハン・カウフマン及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十五日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のブルガリア国特命全権大使ルーメン・スラヴエイコフ・セルベージフ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に吹上御所において、先月退職の前宮内庁長官宇佐美毅の拝謁をお受けになる。その際、天皇・皇后がそれぞれお品をお手ずから賜う。また別に、天皇・皇后が金員を賜う。ついで同入及び女官長・侍従次長、上直の侍従・侍医・女官と御夕食を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

昭和五十三年六月

日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、恩賜録、贈賜録

ヨルダン国王フセイン一世とヌール・ナジーブ・ハラビーの結婚に際し、天皇・皇后が同国王に祝電をお送りになる。これに対し二十日に答電がある。七月十九日には、同国駐箭特命全権大使を通じて天皇・皇后より同国王に有田焼飾壺澗手菊 牡丹文を御贈進になり、併せて祝意を伝達させられる。これに対

する同国王よりの謝意が、後日同大使を通じて天皇・皇后に伝達される。また同国王妃より天皇・皇后宛てのお礼の書簡七月一日付が寄せられる。○外交慶弔録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

十六日 金曜日 去る十二日の午後五時十四分頃、宮城県沖を震源とするマグニチュード七・五の地震宮城県沖地震が発生する。この地震に際し特に甚大な被害を受けた宮城県に、天皇・皇后が災害お見舞金を

賜う。○侍従日誌、侍従職日誌、災害お見舞い、宮内庁庁報

十七日 土曜日 午前、花の間において、日本赤十字社社長林敬三の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二十日 火曜日 天皇と共に、午前九時四十七分御出門になり、午後零時三十七分那須御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、宮内庁

庁報

午後、天皇と共に御内庭を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、天皇と共にはしばしば御用邸敷地内及びその周辺を散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十一日 水曜日 午後、天皇と共に謁見所において、近く赴任のシリア国駐劄特命全權大使小高正直及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、拝謁録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報

二十九日 木曜日 天皇と共に、午前八時四十三分御出門になり、十一時二十九分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において、去る二十七日にパラグアイ国及びブラジル国訪問より帰国した皇太子・同妃の首席随員高島益郎及び随員の拝謁をお受けになる。ついで御車寄内広間において随行員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に吹上御所において、パラグアイ国及びブラジル国訪問より帰国の皇太子・同妃と御夕餐を御会食になる。その際、ブラジル国等の土産品が披露される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、卜部亮吾侍従日記

三十日 金曜日 これより先、この年四月にトンガ国王タウファアハウ・トゥポウ四世の招待にて同国を訪問した田宮二郎伊を通じ、同国王より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后には香料入りココナツ椰子油が贈られる。これに対し、天皇が本日付でお礼の答簡をお送りになる。○外交贈答録

七月

一日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、発表綴

去る六月二十五日から二十八日までの大雨により甚大な被害を受けた新潟県に、天皇・皇后が災害お見舞金を賜う。○災害お見舞い、宮内庁庁報

三日 月曜日 午前、天皇と共に花蔭亭脇において、紅葉山御養蚕所主任浅羽登代夫及び助手四名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のスペイン国駐劔特命全権大使横田弘及び同夫人、タンザニア国駐劔特命全権大使津田天瑞及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、桃華楽堂にお出ましになり、楽部職員による洋楽演奏会に御臨席になる。演奏会には、正仁親王妃華子・故雍仁親王妃勢津子・崇仁親王妃百合子、及び東久邇文子が出席する。楽部玄関に御着後、式部副長の先導により御休所にお入りになり、御休所前でお出迎えをした皇太子妃始め皇族等と御対面になる。ついでホールに進まれ御着席になる。演奏会では、モーツァルト作曲交響曲第三十五番などをお聴きになる。演奏終了後、御休所において、指揮者甲斐正雄・首席楽長豊雄秋・楽長東儀信太郎の拝謁をお受けになる。その後皇族等・出演者一同のお見送りを受けて楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、発表綴

四日 火曜日 午後、天皇と共に薔薇の間において、正倉院事務所長後藤四郎の説明により正倉院宝物模造品二点及び写真数点を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、この度離任のモンゴル国特命全権大使ソノムドルジン・ダンバダルジャー及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

去る六月二十七日にパラグアイ国及びブラジル国訪問より帰国した皇太子・同妃のため、天皇と共に吹上御所において内宴を催され、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・宣仁親王・容子内親王、鷹司和子・島津貴子と御晚餐を御会食になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、宮内庁庁報

六日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のインド国駐劔特命全権大使金沢正雄及び同夫人、ソビエト連邦駐劔特命全権大使魚本藤吉郎及び同夫人、ボリビア国駐劔特命全権大使林屋永吉及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のキューバ国特命全権大使ホセ・アルマンド・ゲーラ・メンチエロ及び同夫人、ザンビア国特命全権大使モーリス・カトワ・チーフ・マパンザ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 金曜日 午後、楽部にお出ましになり、松崎一水ほかによる一絃琴の演奏をお聴きになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十日 月曜日 京都市の総本山御寺泉涌寺において東福門院^{後水尾天皇の皇}三百年式年法要を執行するに^{后、徳川和子}つき、天皇・皇后が菓子をお供えになる。○贈賜録

十一日 火曜日 天皇と共に、午前九時四十二分御出門になり、午後零時三十七分那須御用邸に行啓される。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、宮内庁

昭和五十三年七月

序報

十二日 水曜日 午前、天皇が侍従長入江相政より、今後の皇后の御公務への関わり方に関する宮内庁長官等との協議の概要をお聞きになり、皇后の国民体育大会への行啓をお取りやめになること、植樹祭への行啓は継続すること、皇后の各国離任大使夫妻の御引見をお取りやめになることなどについて、お許しになる。○侍従日誌、例規録、入江相政日記

午後、天皇と共に御内庭を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に御用邸敷地内及びその周辺を散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十日 木曜日 午前、天皇と共に謁見所において、近く赴任のエジプト国駐箚特命全權大使黒田瑞夫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、拝謁録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁序報

二十三日 日曜日 東久邇成子の祥月命日につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録

二十六日 水曜日 敬仁親王百年式年祭につき、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、入江相政日記

二十八日 金曜日 天皇と共に、午前八時四十三分御出門になり、十一時三十五分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、宮内庁序報

三十日 日曜日 午前、明治天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、

典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

侍従卜部亮吾の案内により、改装工事の完了した吹上御所の侍従室・侍医室・潔斎所等を天皇と共に御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、卜部亮吾侍従日記

三十一日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のカナダ国駐箚特命全権大使須磨末千秋及び同夫人、アラブ首長国連邦駐箚特命全権大使村田良平及び同夫人の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

天皇が正殿竹の間において、この度離任のガボン国特命全権大使シドワヌ・ムーニョン及び同夫人を御引見になる。従来、離任大使夫妻の御引見は皇后と共に行われていたが、皇后の御負担軽減のため、この度より天皇お一方にて行われることとされる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮内庁序報、卜部亮吾侍従日記

八月

一日 火曜日 天皇と共に、午前九時四十七分御出門になり、午後零時三十七分那須御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、宮内庁序報

午後、天皇と共に御内庭を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に御用邸敷地内及びその周辺を散策され、植物を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

昭和五十三年八月

昭和五十三年八月

六日 日曜日 広島原爆の日につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

八日 火曜日 午前、昨七日より参邸の鷹司和子を伴って植物御調査にお出ましの際、天皇と共に通
用玄関前において、栃木県町村会長沢村一郎等に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須御用

邸行幸啓録

九日 水曜日 長崎原爆の日につき、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十日 木曜日 午前、鷹司和子を伴って植物御調査にお出ましの際、天皇と共に御車寄において、那
須町小中学校長会会員に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事

務所日誌

十一日 金曜日 天皇と共に、午前八時四十三分御出門になり、十一時二十九分皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

十四日 月曜日 午前、花の間において、新たに宮内庁御用掛を委嘱された村田光平外務省大臣官房、調査部分析課長、及

び同職の委嘱を解かれた山口洋一在インドネシア日本国大使館参事官の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録

夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日東京カテドラル聖マリア大聖堂において行われたローマ
法王パウルス六世去る七日逝去の追悼式に天皇の御名代として差し遣わされた皇太子と御対面になる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外交慶弔録、幸啓録、重要雑録、東宮録、宮内庁庁報、官報

十五日 火曜日 天皇と共に政府主催の全国戦没者追悼式に御臨席のため、午前十一時四十九分御出

門になり、日本武道館に行啓される。御着後、式場に臨まれ、正午の時報に合わせて天皇と共に一分間黙禱される。午後零時二十四分還啓される。なお、昨十四日、同追悼式が行われるに当たり、天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、恩賜録、

宮内庁序報、官報

十六日 水曜日 天皇と共に、午前九時四十二分御出門になり、午後零時三十七分那須御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、宮内庁序報

二十三日 水曜日 午前、天皇と共に御車寄において、前橋宮林局長金田辰夫始め五名、栃木県町村議会議長会長星三郎始め十三名、日光東照宮宮司額賀大興始め日光東照宮・日光二荒山神社・日光山輪王寺の代表者計十名に御会釈を賜う。それより天皇と共に嚶鳴亭に向かわれ、同所において、栃木県知事船田譲より同県の社会福祉施策の現況についてお聞きになる。ついで天皇と共に同亭前においてキジを放鳥される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

二十九日 火曜日 午前、九月一日開通する那須甲子有料道路の御視察を兼ねて、天皇と共にジープにて植物御調査のためにお出ましになる。那須甲子道路の見晴台・福島県境にある黒川橋・余笹新道入口などを移動されつつ御調査になり、八幡経由にて御帰邸になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌

九月

一日 金曜日 関東大震災の日につき、お出ましをお控えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

八日 金曜日 天皇と共に、午前八時四十三分御出門になり、十一時三十五分皇居に還啓される。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

九日 土曜日 久邇侁子^御母の祥月命日につき、午前中、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌

十三日 水曜日 戦傷病者特別援護法制定十五周年及び財団法人日本傷痍軍人会創立二十五周年記念

式典に御臨席のため、天皇と共に、午前十時二十三分御出門になり、日本武道館に行啓される。十時

五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報

十八日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のペルー国駐劬特命全権大使長崎

弘及び同夫人、ネパール国駐劬特命全権大使土屋南夫及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 水曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、李方子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十一日 木曜日 正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、公賓ベルギー国首相レオ・ティンデ

マンス及び同夫人ローザを御引見になる。この来訪に際し、天皇・皇后が首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また首相夫妻より天皇・皇后にガラス製花瓶が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十三日 土曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十七日 水曜日 午後、天皇と共に連翠において、昭和四十六年の御訪欧及び同五十年の御訪米の節の首席随員福田赳夫以下随員・随行員をお招きになり、お茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

二十八日 木曜日 元皇子傳育官名取はな昨二十七日死去につき、この日、天皇・皇后が祭糝料を賜い、また霊前に切り花・菓子を賜う。名取は、昭和十年に皇子御養育掛を仰せ付けられ、以後、内親王傳育掛・皇子傳育官等を歴任した。○女官長日記、恩賜録、贈賜録、宮内庁庁報

来る十月一日より十二月三十一日まで昭和五十三年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。○社会事業、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣より表彰された第三十回保健文化賞受賞者等二十名の拝謁をお受けになる。厚生事務次官翁久次郎の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十月

六日 金曜日 天皇と共に、午前十時二分御出門になり、多摩陵^{大正天皇}並びに多摩東陵^{貞明皇后}に行啓される。天皇の御拝礼が終わった後、続いて皇后が多摩陵、ついで多摩東陵を御拝礼になる。天皇と共に、御休所において御昼餐の後、午後二時七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、幸啓録、行幸啓録、臨時祭祀録、宮内庁庁報、卜部亮吾侍従日記

七日 土曜日 午後、吹上正門前において紅葉山会会員に御会釈を賜い、お言葉を賜う。なお、紅葉山会は、紅葉山御養蚕所に奉仕した者が、皇后の蚕糸業御奨励の思召しを体し斯業の発展に寄与すると共に会員相互の親睦を図ることを目的として組織した会であり、昭和二十七年に結成された。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、紅葉山御養蚕所八十年記念誌

九日 月曜日 正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、英国王妹マーガレットと御会見になる。

この来訪に際し、天皇・皇后より王妹に七宝宝石箱^{銀台緑地十、二樓鏡文}及び御会見時に撮影のお写真を御贈進になる。また、去る七日王妹が入京した際に、皇后より王妹に花束を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 木曜日 午前、天皇と共に松風の間において、松栄会会員二十三名の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録

正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、公賓ドイツ連邦共和国首相ヘルムート・シュミット及び同夫人ハネローレを御引見になる。この来訪に際し、首相夫妻より天皇・皇后に、陶製置物の人形^{ニンブル}が献上される。また、天皇・皇后より首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

十三日 金曜日 第三十三回国民体育大会秋季大会に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、天皇が長野県に行幸される。皇后は御体調を考慮し行啓されないこととなる。○侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日

誌、幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報

十五日 日曜日 正午過ぎより吹上御所において、天皇が御臨席中の第三十三回国民体育大会秋季大会開会式のテレビ中継放送を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、宮内庁庁報、官報

十七日 火曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 学習院創立百周年記念式に御臨席のため、天皇と共に、午前十時三十一分御出門になり、学校法人学習院に行啓される。十一時四十二分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、宮内庁庁報、官報、学習院百年史

二十日 金曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

二十三日 月曜日 正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、公賓中華人民共和国國務院副総理鄧小平及び同夫人卓琳を御引見になる。この来訪に際し、天皇・皇后が副総理夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また中華人民共和国政府から天皇・皇后に蘇州の刺繍衝立等が献上される。二十五日、この度の接遇に対して、鄧副総理は外務省儀典長に天皇・皇后へのお礼の伝言を依頼する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報、外国からのごあいさつ

二十六日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のインド国特命全権大使アヴァール・シン及び同夫人、コスタリカ国特命全権大使ハイメ・ポテイ・ブレネス及び同夫人を順次御引見になる。なお、

昭和五十三年十月

十一月十三日にコスタリカ国大使夫妻より皇后に飾り立てお盆皿飾り立て台付きが献上される。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、外交贈答録、恩賜録、贈賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 金曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、メキシコ国駐劔特命全権大使松永信雄より同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録

この日、翌二十八日より三十日まで熊本市の鶴屋デパートにおいて開催される財団法人日本ばら会主催の「秋のばら展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。○女官長日記、贈賜録、

発表綴

二十九日 日曜日 この日バザーを開催する常磐会に切り花を賜う。○女官長日記、贈賜録

三十日 月曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、国賓メキシコ国大統領ホセ・ロペス・ポルティエーリヨ及び同夫人カルメン・ローマーノと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より大統領

夫妻に綴錦屏風貴徳を、大統領の子息に写真機ニコン社製を、大統領の息女二人にそれぞれ佐賀錦ハンドバッ

グを御贈進になる。これに対し、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはシヨール・

首飾りが贈られる。また別に、皇后より大統領夫人に絹地金地に梅花模様、紅葉山御養蚕所産繭により織立のものを御贈進になる。なお、

大統領夫妻が入京した際に、皇后より大統領夫人に花束を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、接待書類、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

十一月

三日 金曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、朝日新聞社主催の全日本健康優良学校児童表彰会で表彰された特選健康優良学校の代表及び特選健康優良児童等の拝謁をお受けになる。同表彰会会長渡辺誠毅朝日新聞社長より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

九日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のドミニカ共和国駐箚特命全権大使前田正裕及び同夫人、ラオス国駐箚特命全権大使武田実及び同夫人、ヨルダン国駐箚特命全権大使岡田富美也及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十日 金曜日 午前、天皇と共に宮内庁庁舎講堂にお出ましになり、宮内庁職員組合文化祭の美術展を御覧になる。同展には日本画の御作品「林中晩夏―つくばね草」「須崎にて―はやとつり」「夏日清閑―ラジオラス」を御出品になる。また、三十日から十二月二日には京都事務所にて関西文化祭の美術展が開催され、「夏日清閑」を御出品になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、発表綴

午後、花の間において、宮内庁職員組合による美術展を拝観した前田故前田青邨夫人の拝謁をお受けになる。続いて同所において、元女官・御学友・御同級生等の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十五日 水曜日 午後、正殿梅の間において、新任のリベリア国特命全権大使C・アンスマナ・ク

パー及び同夫人、アフガニスタン国特命全権大使アブドウル・ハミッド・ムフタット及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

十七日 金曜日 正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、公賓ポーランド国首相ピオトル・ヤロシェヴィツチ及び同夫人アリツィアを御引見になる。この来訪に際し、天皇・皇后が首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、皇后には手織壁掛が献上される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁序報

二十日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のナイジェリア国特命全権大使バララベ・アブバカール・タファワ・バレワ及び同夫人、ガボン国特命全権大使アンドレ・マンゴンゴ・ンザンビ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁

序報

二十一日 火曜日 午後、天皇と共に春秋の間において、昭和五十三年秋の褒章受章者のうち、文部省・厚生省・最高裁判所関係の受章者等の拝謁をお受けになる。藍綬褒章受章者相沢甲正より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、

宮殿行事録、宮内庁序報

二十七日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のイラン国駐劄特命全権大使和田力及び同夫人、アイルランド国駐劄特命全権大使石川良孝及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

午後、天皇と共に宮殿北溜において、文部大臣から表彰された昭和五十三年度教育者表彰被表彰者等

の拝謁をお受けになる。代表の吉田誠より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拜謁録、典式録、宮殿行事録

池田宣政夫人富貴子死去につき、天皇・皇后が霊前に切り花を賜う。また、十二月四日には、天皇・皇后が喪主の池田隆政富貴子の息に祭資を賜う。五日の葬儀に際しては、霊前に榊・菓子をお供えになる。

○贈賜録

二十八日 火曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

二十九日 水曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十八分須崎御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

十二月

一日 金曜日 来る九日よりタイ国バンコク市において開催される第八回アジア競技大会に日本代表選手団が参加するに当たり、天皇・皇后が御奨励のため財団法人日本体育協会に金一封を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

三日 日曜日 午前、天皇と共にみかん園にお出ましになり、ミカンをお採りになり、また展望台まで散策され、植物を御調査になる。五日にも天皇と共に御用邸周辺を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

四日 月曜日 午前、天皇が御用邸供溜において宮内記者会会員十四名とお会いになり、各記者から

の質問にお答えになる。その際に、皇后の腰の痛みについての質問などをお受けになり、腰の具合は大変に良くなつたと皇后が天皇にお話しになつてゐること、来年の全国植樹祭には一緒に出席できれば非常に良いと思つてゐることなどをお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、天皇記者会見、昭和天皇と私達

五日 火曜日 天皇と共に、午後零時三十五分御出門になり、四時皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

七日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、ガボン国大統領エル・アジ・オマール・ボンゴ及び同夫人中華人民共和国訪問の帰途来日と御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より大統領夫妻に九谷焼飾皿

金襴手更紗小紋菊絵文様を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮殿行事録、宮内庁庁報

八日 金曜日 午後、花の間において、東伏見慈洽及び同夫人保子、並びに結婚後初参内の東伏見睿俣及び同夫人玲子の拝謁をお受けになる。この参内に際し、天皇・皇后が東伏見睿俣夫妻それぞれにお品及び万那料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

十一日 月曜日 午後、宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会に御臨席になる。楽部玄関に御着後、糸竹会会長三条実春の先導により御休所にお入りになり、ついで鏡の間に進まれ御着席になる。例会では、盤渉調音取、輪台、越天楽残楽三返、蘇莫者破、千秋楽、御歌の演奏をお聴きになる。演奏終了後、御休所脇廊下において糸竹会会員十五名及び首席楽長豊雄秋糸竹会講師・楽長東儀信太郎同の拝謁をお

受けになる。その後、糸竹会会員等のお見送りを受け楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、糸竹会

十二日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この日参与となった前宮内庁長官宇佐美毅の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞

午後、天皇と共に吹上御所において、去る十一月三十日に誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、内廷皇族誕生日綴、宮内庁庁報

十三日 水曜日 タイ国王太子ワチラロンコーンの第一王女去る七日誕生につき、この日、天皇・皇后が同国王ラーマ九世^{プミポン・アドゥンヤデート}に祝電をお送りになる。これに対し翌年二月二十四日に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十五日 金曜日 夕刻、賢所御神楽につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のユーゴスラビア国駐節特命全権大使中江要介及び同夫人、パラグアイ国駐節特命全権大使内藤武及び同夫人、ガボン国駐節特命全権大使篠村巖及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、正殿梅の間において、新任のビルマ国特命全権大使マウン・マウン・ジー及び同夫人・息女、フィンランド国特命全権大使ヘンリック・レナート・ブルムステット及び同夫人を順次御引見にな

昭和五十三年十二月

る。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 火曜日 午前、花の間において、京都在住堂上会総代久世業総の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録

二十日 水曜日 天皇と共に連翠において、菊栄親睦会会員の皇太子始め皇族・元皇族等二十七方をお招きになり、午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報

日本赤十字社に天皇・皇后が、財団法人結核予防会に皇后が、事業御奨励のためそれぞれ金一封を賜う。また向陽会に皇后が、歌道御奨励のため金一封を賜う。○恩賜録、社会事業、発表綴、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十三日 土曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官、元皇后宮女官の祝賀を順次お受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、東宮録、内廷皇族誕生日綴、宮内庁庁報

二十五日 月曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十九日 金曜日 天皇が御風気のため御静養中につき、午前、皇后お一方にて鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官等、ついで皇太子・同妃始め皇族・御縁故者より歳末の祝詞言上をお受けになる。さらに芳菊の間において、徳仁親王・文仁親王・清子内親王の祝詞言上を

お受けになる。その後、天皇と共に吹上御所において、鷹司和子の祝詞言上をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、発表綴、宮内庁庁報、富田メモ、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

昭和五十四年（西曆一九七九年）

七十六歳

一月

一日 月曜日 午前九時四十五分より、天皇と共に宮殿において新年祝賀の儀に臨まれ、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・寛仁親王・宜仁親王・容子内親王の祝賀をお受けになる。続いて内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等、各国外交使節団の長等の祝賀を順次お受けになる。なお、新年祝賀の儀に先立ち、あるいは各祝賀の間に、徳仁親王・文仁親王・清子内親王、元皇族・御縁故者等、宮内庁長官始め部局長等及び側近奉仕者等の祝賀を天皇と共にお受けになる。また祝賀の儀に先立ち宮内庁より、皇后は同儀において皇族の祝賀等には臨まれるが、宮内庁長官始め部局長等を除く宮内庁職員の祝賀等にはお出ましにならない旨が発表される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、

儀式録、年末年始行事、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記

新年を迎えるに当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰は徐々にはあるが順調に回復されていること、あまり活発には動かれなくなったこと、祭儀へのお出ましは当分お控えになる見通しであることなどが発表される。○年末年始行事、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

二日 火曜日 新年一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に、午前三回・午後五回の計八回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、年末年始行事、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報、入

江相政日記、卜部亮吾侍従日記、読売新聞

三日 水曜日 午前、元始祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、贈賜録、入江相政日記

七日 日曜日 新年につき、午後、天皇と共に鳳凰の間において元女官・元皇后宮女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、ついで宮殿御車寄内において元女孀等の祝賀をお受けになる。その後皇后お一方のみにて、花の間において御学友・御同級生七名の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮殿行事録

八日 月曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、第二十二回日本学生科学賞^{全日本科学教育振興委員会主催、読売新聞社後援}の入

賞者代表・入賞校校長等の拝謁をお受けになる。読売新聞社代表取締役副社長原四郎より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

九日 火曜日 天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王と御夕餐を御会食になる。以後、この年は概ね毎週火曜日に行われた定例の参殿を始め、随時、皇太子一

昭和五十四年一月

家と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録

十一日 木曜日 英照皇太后の祥月命日につき、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十二日 金曜日 午前、歌会始の儀が行われる。皇后は、腰痛への御用心のため御欠席になる。この年のお題は「丘」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

海ぞひの丘のかなたの空はれて利島もけふは見えわたるなり

○女官長日記、女官日誌、儀式録、年末年始行事、官報、サンケイ

十六日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、この日退職する女官原田リツ、及び新任の女官田村和子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録

花の間において、新たに宮内庁御用掛を委嘱された西村元彦外務省欧亜局、西欧第一課長、及び同職の委嘱を解かれた人

木真幸在スイス日本国大使館参事官の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、恩賜録

十七日 水曜日 正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、公賓タイ国首相クリアンサク・チャマナン及び同夫人ウィラットを御引見になる。この来訪に際し、天皇・皇后が同首相夫妻に御紋付銀製花瓶を賜う。また首相夫妻より天皇・皇后に台座付象牙が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報

天皇と共に吹上御所において、正仁親王・同妃華子と御夕餐を御会食になる。以後、この年は、月一、

二回程度吹上御所にて行われた御会食を始め、随時、正仁親王・同妃と御対面・御会食になる。○女官
長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

元侍医高木逸雄昨十六日死去につき、天皇・皇后が祭染料を賜う。○恩賜録

二十日 土曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・林丘寺・靈鑑寺・円照寺・中宮寺・法華寺・三
時知恩寺・長福寺・善光寺に、恒例により乾海苔料を賜う。○贈賜録

二十四日 水曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久
子、崇仁親王・同妃百合子と御対面になり、寒中の挨拶をお受けになった後、御夕餐を御会食になる。
以後、この年も皇族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、
内舎人日誌

二十六日 金曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、先般退職した元女官原田リツの拝謁をお受
けになり、同人及び女官長、上直の侍従・侍医・女官二名と御夕餐を共にされる。その際、原田へ天
皇・皇后がお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恩賜録、贈賜録

二十七日 土曜日 邦彦王^{御父}五十年式年祭につき、午後三時二十二分御出門、豊島岡墓地に行啓され
る。御着後、御親族代表の久邇朝尊^{御兄朝融の孫}によるお出迎えをお受けになる。ついで久邇家墓所中の邦彦
王墓所を御拝礼になる。続いて久邈倪子^{御母}の墓所を御拝礼になる。終わって久邈朝尊の挨拶をお受け
になられた後、朝尊及び御親族のお見送りを受けられ、三時四十八分皇居に還啓される。この度の御
拝礼に当たり、天皇・皇后が墓所に榊を、霊舎に菓子をお供えになり、皇后が霊舎に果物を、写真に

昭和五十四年二月

切り花及び菓子を、墓所に菓子をお供えになる。また久邇侂子・久邇朝融^御・知子女王^{朝融}の墓所に皇

后が菓子をお供えになる。このほか、朝尊にお尋ねとして菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、幸啓録、旧皇族録、宮内庁庁報

二十八日 日曜日 米国前副大統領ネルソン・アルドリッチ・ロックフェラー去る二十六日死去につ

き、同夫人ハッピーに対し、この日天皇・皇后が侍従長名をもって弔電をお送りになる。これに対し

後日、同夫人より礼状^{四月十日付}が寄せられる。○侍従日誌、外交慶弔録、重要雑録

二十九日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のモンゴル国特命全権大使デンゼンギン・ツェ

レンドンドブ及び同夫人を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮

殿行事録、宮内庁庁報

三十日 火曜日 午前、孝明天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、

内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二月

一日 木曜日 東久邇盛厚十年式年祭に当たり、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二日 金曜日 午後、花の間において、新たに宮内庁御用掛を委嘱された太田博^{外務省大臣官房}及び同職

の委嘱を解かれた渡辺允^{在フィリピン日本、大使館参事官}、並びに新任の審議官勝山亮・皇宮警察本部長松井三郎及び前任

の審議官藤巻清太郎・皇宮警察本部長武田安雄の拜謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁序報、官報

五日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のアイルランド国特命全権大使チャールズ・ヴィクター・ウィーラン及び同夫人、ポリビア国特命全権大使ロベルト・パチエコ・ヘルツォグ及び同夫人・息女を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

六日 火曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十八分須崎御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁序報

エスター・ビドル・ローズは、昭和二十五年から三十二年まで皇太子の英語の家庭教師を務め、二十九年電が送られる。ローズは、昭和二十五年から三十二年まで皇太子の英語の家庭教師を務め、二十九年から三十五年までは皇后の英語教師として進講を行った。○外交慶弔録、発表綴

七日 水曜日 午前、天皇と共にお成道からミカン園付近を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に御用邸敷地内及びその周辺を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓

十五日 木曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁序報

十九日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のレバノン国特命全権大使ジョゼフ・ナツファー、シリア国特命全権大使アブドゥル・ワドウッド・アル・アターシ及び同夫人を順次御引見になる。○

昭和五十四年三月

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十一日 水曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

来る二十五日、沖縄県糸満市の沖縄戦没者墓苑において厚生省主催の同墓苑竣工並びに追悼式が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 午前、花の間において、日本赤十字社社長林敬三の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十三日 金曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた徳仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

二十六日 月曜日 来る三月六日に満七十六歳のお誕生日を迎えられるに当たり、この日、思召しをもって日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院の救助収容患者に、合わせて手拭い七千四百十本を賜う。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

二十七日 火曜日 午後、正殿梅の間において、新任のブルガリア国特命全権大使トル・ペトコフ・ディチェフ及び同夫人、パキスタン国特命全権大使カマル・ウル・イスラム及び同夫人・息女を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

三月

一日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のフランス国駐箚特命全権大使井川

克一及び同夫人、欧州共同体日本政府代表部特命全権大使加川隆明、イスラエル国駐箚特命全権大使吉田長雄及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、

宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

三日 土曜日 国立東京第二病院に入院中の元侍従長大金益次郎に、天皇・皇后がお尋ねとして切り花を賜う。○女官長日記、贈賜録

五日 月曜日 東久邇聡子の一周年祭に当たり、皇后が皇后宮使として侍従角田素文を東久邇邸の権舎へ差し遣わされ、拝礼させられる。また同様に、皇后宮使として侍従小林忍を豊島岡墓地の墓所に差し遣わされ、拝礼させられる。この御差遣に際し、天皇・皇后より権舎に菓子を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録

六日 火曜日 満七十六歳のお誕生日を迎えられる。

午前、芳菊の間において、宮内庁長官始め各部署局長等、続いて側近奉仕者の祝賀をお受けになる。ついで花の間において、参与宇佐美毅、続いて皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、正殿梅の間において内閣総理大臣・衆議院議長・参議院議長・最高裁判所長官等及びその配偶者の祝賀を、花の間脇廊下において女嬪・雑仕の祝賀を、芳菊の間において元側近奉仕者、続いて元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀を、御車寄内において元女嬪等の祝賀を、花の間にて元御用掛有島暁子、続いて御学友・御同級生七名の祝賀を、御車寄前において宮内庁職員・皇宮警察本部職員の祝賀を、花の間において東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。

午後、天皇と共に吹上御所において、徳仁親王・文仁親王・清子内親王の祝賀をお受けになる。夕刻、

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王・同妃百合子・宜仁親王・容子内親王、鷹司和子、池田厚子と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、東宮録、宮内庁庁報

お誕生日に当たり、宮内庁より皇后の御様子について、腰痛は第一腰椎変形症によるものであり、痛みはほとんどないが引き続きコルセットを着用されていること、天皇の御健康をお気遣いになりつつ、御散策や御会食を楽しまれながらお過ごしになっていることなどが発表される。○内廷皇族誕生日録、朝日新聞、サンケイ、東京新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞

九日 金曜日 天皇と共に、午後一時十二分御出門になり、四時四十九分須崎御用邸に行啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報

十日 土曜日 午前、天皇と共にお成道から静岡県警宿舍付近を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に御用邸敷地内及びその周辺を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓

十二日 月曜日 社会福祉施設及び御用邸の近隣諸施設を御視察のため、天皇と共に、午後一時須崎御用邸を御出門になり、社会福祉法人南伊豆厚生会賀茂老人ホームを御訪問になる。御着後、施設及び同ホーム利用者の活動を御巡覧になる。その後、御出発の際、施設職員に御会釈を賜う。なお、この御訪問に際し、天皇・皇后が同ホーム利用者に菓子を賜う。続いて石廊埼灯台に向かわれる。御着後、風雨の中で伊豆七島方面を御展望になる。ついで静岡県伊豆振興センター南伊豆農場に向かわれる。御着後、天皇は施設を御巡覧になり、皇后はお一方で御休憩所にて御休憩になる。御視察を終えた

天皇と合流の後、玄関で下田花卉組合の制作した生花を御覧になり、四時二十八分須崎御用邸に還啓される。なお、天皇・皇后お揃いでの御視察は、皇后が昭和五十二年に腰を痛められて以来、今回が初めてとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報、サンケイ、日本経済新聞、静岡新聞

元侍従長大金益次郎昨十一日死去につき、天皇・皇后が枢前使・賜物使として侍従卜部亮吾を同人邸に差し遣わされ、祭糝料及び生花を賜う。また別に天皇・皇后が霊前に菓子・果物を、皇后が切り花を賜う。翌十三日の葬儀には、天皇・皇后が葬場使として侍従田中直を同人邸に差し遣わされ、拝礼させられる。

大金は、昭和七年より十四年まで侍従を、二十一年から二十三年まで侍従長を務めた。○女官長日記、侍従日誌、贈賜録、恩賜録、発表綴、宮内庁庁報

十五日 木曜日 天皇と共に、午後零時三十六分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の英国駐劔特命全権大使藤山樞一及び同夫人、ベルギー国駐劔特命全権大使徳久茂及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、前米国大統領ジェラルド・ルドルフ・フォード及び同夫人エリザベスを御引見になる。その際、大統領夫妻と昭和五十年御訪米時の思い出等をお話しになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、発表綴、宮内

昭和五十四年三月

庁庁報、真崎秀樹英文日記、入江相政日記

二十一日 水曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十二日 木曜日 午後、正殿梅の間において、新任のルーマニア国特命全権大使ラデュ・イオン・ボグダン及び同夫人、ユーゴスラビア国特命全権大使セルモ・ハシンベゴヴィッチ及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十七日 火曜日 午後、吹上御所において元宮内庁御用掛武者小路不二子の拝謁をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌

去る二十三日より宮内庁病院に入院中の寛仁親王に、お尋ねとして天皇・皇后が果物を賜う。○女官長日記、贈賜録、皇族雑録

三十日 金曜日 午後、天皇と共にこの度完成した皇居内主馬班覆馬場にお出ましになり、古式馬術を御覧になる。御到着後、先着していた皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王のお出迎えをお受けになる。続いて馬見所に移動され、車馬課主馬班による古式打毬・母衣引・部班馬術^{馬場}を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、古式馬術供覧、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記

三十一日 土曜日 マレーシア国王ヤヒヤ・プトラ去る二十九日崩御につき、天皇・皇后から弔意を同国王妃トウンク・ザイナブへ伝えるよう御下命があり、この日、宮内庁長官より外務大臣にこの旨が通知される。○上奏モノ控簿、外交慶弔録

四月

一日 日曜日 午後、天皇と共に御散策の際、半蔵門堤上にお出ましになり、対岸のサクラを御覧になる。その際、対岸の花見客に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、卜部

亮吾侍従日記、サンケイ

二日 月曜日 午前、花の間において、新任の正倉院事務所長武部敏夫始め四名及び前任の書陵部長野本松彦・正倉院事務所長後藤四郎・侍医杉村昌雄始め六名の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

三日 火曜日 午前、神武天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

五日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のエチオピア国駐節特命全権大使橋爪三男及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮

殿行事録、宮内庁庁報

午後、桃華楽堂にお出ましになり、昭和五十三年度東京都下五校の音楽大学卒業生による演奏会に御臨席になる。楽部玄関に御着後、公務課長小川省三の先導により御休所にお入りになり、ついでホールに進まれ御着席になる。演奏会では、東京芸術大学卒業生による長唄、武蔵野音楽大学卒業生によるクラリネット独奏、桐朋学園大学卒業生によるピアノ独奏をお聴きになる。御少憩の後、上野学園大学卒業生によるリコーダー独奏、東京芸術大学卒業生によるピアノ独奏、国立音楽大学卒業生による

るバス・バリトン独唱をお聴きになる。皇太子妃・容子内親王のほか、元皇族・御縁故者が陪聴する。終わって御休所脇廊下において、各大学の学長・担当教員等の拝謁をお受けになる。出演者一同のお見送りを受け楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。なお、この日の出演者十一名に御紋付銀製スプーンを賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、音楽大学卒業生演奏会、恩賜録、発表綴

九日 月曜日 午後、天皇が国会の賓客中華人民共和国全国人民代表大会常務委員会副委員長鄧穎超を御引見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より同副委員長に『御物聚成』書跡Ⅰ・Ⅱ、絵画Ⅰ・Ⅱ、朝日新聞社刊を御贈

進になる。また同副委員長より天皇・皇后に献上の品があり、皇后にはフリージアの刺繡飾り立て付きが献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報、入江相

政日記、サンケイ、日本経済新聞、毎日新聞

十日 火曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、常陸宮家経済顧問中谷一雄、久邇家経済顧問川北禎一・栄木忠常・密田博孝、鷹司家経済顧問舟山正吉、島津家経済顧問小笠原光雄・池田家経済顧問野津克己の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、入江相政日記

この日皇太子・同妃が結婚から二十年を迎えるに当たり、天皇・皇后がお祝いとして皇太子にお品を、同妃に洋服地紅葉山御養蚕所製を賜う。○女官長日記、贈賜録、発表綴

十二日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、セネガル国駐劬特命全権大使内田園生より同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事

録、入江相政日記

午後、花の間において、イレレーヌ・ストライカー皇后の元
英語教師及び息女を御引見になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十六日 月曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、国賓セネガル国大統領レオポール・セダル・サンゴール及び同夫人と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、天皇・皇后にグラン・クロワ・ド・ロルドル・ナシオナル・デュ・リオンが贈られる。またこの来訪に際し、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后へは大統領夫人より金製のネックレス及びブレスレットが贈られる。

天皇・皇后からは大統領に七宝花瓶紫紺地
菊文を、同夫人に有田焼コーヒー茶碗金唐花一重、今
泉今右衛門作を、大統領夫妻

に凶録『宮殿』特製
本を御贈進になる。なお、大統領夫妻の入京に際し、皇后より夫人に花束を御贈進に

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、接待書類、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、

恩賜録、宮内庁序報、官報

十八日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のレバノン国駐節特命全権大使山

口広次及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮

殿行事録、宮内庁序報

午後、宮殿北溜において、財団法人結核予防会総裁表彰の結核予防事業功労者等五十六名の拝謁をお受けになる。代表の出水市長税所重蔵より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報、卜部亮吾侍従日記

夕刻、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた清子内親王と御対面になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、宮内庁庁報、下部亮吾侍従日記

十九日 木曜日 午前、宮殿北溜において、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総裁又は会長表彰の愛育班員及び愛育班育成成功労者等二十一名の拝謁をお受けになる。代表の宮本美都子より挨拶をお受けになり、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、発表綴、宮内庁庁報

天皇と共に鳳凰の間において、来る二十日より五月二日までイラク国を訪問する崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、随員富張伸一郎式部の拝謁をお受けになる。○女

官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、崇仁親王同妃両殿下イラク共和国御訪問、宮内庁庁報

二十二日 日曜日 この日バザーを開催する常磐会へ切り花を賜う。○女官長日記、贈賜録

二十四日 火曜日 午後、正殿梅の間において、新任のパナマ国特命全権大使アルベルト・アルトゥーロ・カルボ・ポンセ、大韓民国特命全権大使金正濂及び同夫人を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十五日 水曜日 午後、正殿梅の間において、新任のドミニカ共和国特命全権大使ポリバル・アントニオ・ガルシア・ヒメネス、エジプト国特命全権大使サード・アブデル・ファター・ハリールを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十九日 日曜日 天皇誕生日につき、午前、花の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官の祝賀をお受けになる。ついで正殿梅の間において、皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者の祝賀をお受けになる。その後、天皇と共に花の間前廊下において女嬬・雑仕の祝賀を、鳳凰の

間において東久邇文子始め御親族の祝賀を順次お受けになる。さらに、皇后お一方のみにて再び花の間において、元皇后宮女官・元女官・元皇太后宮女官等の祝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、贈賜録、内廷皇族誕生日綴、宮内庁庁報、入江相政日記

天皇誕生日一般参賀につき、天皇及び皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子と共に、午前中四回、長和殿ベランダにお出ましになり、宮殿東庭に参集した一般参賀者に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、官報

天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃・徳仁親王・文仁親王・清子内親王、正仁親王・同妃とお祝いの御夕餐を御会食になる。なお、天皇誕生日に当たり、天皇にお祝いの品をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内廷皇族誕生日綴

五月

一日 火曜日 第二十四回ユニセフ学校募金運動を実施する財団法人日本ユニセフ協会に、金一封を賜う。○発表綴、宮内庁庁報

四日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る二日イラク国訪問より帰国した崇仁親王・同妃百合子と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、随員富張伸一郎の拝謁をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、崇仁親王同妃両殿下イラク共和国御訪問、宮内庁庁報

七日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、発表綴、入江相政日記

昭和五十四年五月

九日 水曜日 ドイツ連邦共和元大統領夫人ヒルダ・ハイネマン去る四日死去につき、天皇・皇后から弔意を遺族に伝えるよう御下命があり、この日、宮内庁長官より外務大臣にこの旨が通知される。

○上奏モノ控簿、外交慶弔録

十一日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の様子を御覧になる。また御給桑を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十三日 日曜日 母の日につき、皇太子・同妃より盛花が贈られる。○女官長日記

十四日 月曜日 天皇と共に吹上御所において、去る二日イラク国より帰国した崇仁親王・同妃百合子のために御晩餐を催される。崇仁親王・同妃のほか、皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、容子内親王が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東宮録、宮内庁庁報

十五日 火曜日 午前、花の間において、新任の侍医大橋敏之の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

午後、天皇と共に春秋の間において、昭和五十四年春の褒章受章者のうち文部省・厚生省・最高裁判所関係の受章者等の拝謁をお受けになる。藍綬褒章受章者林義興より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

スウェーデン国王カール十六世グスタフの第一王子カール・フリッツ去る十三日誕生につき、天皇・皇后が同国王へ祝電をお送りになる。これに対し二十六日に答電がある。○外交慶弔録、宮内庁庁報、官報

十七日 木曜日 午前、貞明皇后例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、

内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

十八日 金曜日 元皇后宮女官宇野千代昨十七日死去につき、天皇・皇后が祭染料を賜う。また、靈前に切り花・菓子を賜う。宇野は、昭和十三年に皇后宮職御用掛、翌十四年には皇子御養育掛となり、正仁親王・島津貴子の養育に奉仕したほか、十六年から十九年までは皇后宮女官を務めた。○女官長日記、贈賜録、恩賜録、発表綴、宮内庁庁報

十九日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、野蚕を御覧になる。また御給桑を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十四日 木曜日 この日から二十九日まで日本橋高島屋において開催される財団法人日本ばら会主催の「春の日本ばら会展」へ、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十六日・二十八日にも御出品になる。○女官長日記、贈賜録、発表綴

二十五日 金曜日 正午過ぎ、天皇と共に正殿竹の間において、来日中のスウェーデン国王族ベテイル国王の叔父及び同妃リリアンと御会見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、宮内庁庁報

翌二十六日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において厚生省主催の拝礼式並びに納骨が行われるに当たり、天皇・皇后が同省に生花を賜う。○恩賜録、宮内庁庁報

二十六日 土曜日 天皇と共に愛知県において開催の第三十回全国植樹祭に御臨場、併せて地方事情を御視察のため、同県に行啓される。天皇と共に、午前九時十六分御出門になり、東京駅より三河槇原駅を経て、全国植樹祭のお手播き会場である南設楽郡鳳来町の愛知県民の森に御到着になる。お手

昭和五十四年五月

播き床に進まれ、愛知県林業種苗組合連合会会長竹下喜兵衛の介添えによりヒノキの種子をお手播きになる。天皇はスギの種子をお手播きになる。ついで高齢者代表による記念播種を御覧になりつつ、隣接する御休所のビクターロッジに移動され、愛知県事仲谷義明より県勢概要をお聞きになる。その後林業展示会場において、クロマツ

皇后が御父邦彦王等と共に大正七年
長篠城跡にお手植えになったもの

のパネル写真の展示等を御覧になる。

終わって本長篠駅より蒲郡駅を経て、午後四時四十三分幡豆郡幡豆町の御泊所グリーンホテル三ヶ根に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、愛知県下行幸啓、

地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、愛知県庁所蔵資料、名古屋市役所所蔵資料、愛知県鳳来寺県有林事務所所蔵資料、入江相政日記、行幸啓記念誌、中日新聞、中部読売新聞

二十七日 日曜日 天皇と共に、午前八時五十九分御泊所のグリーンホテル三ヶ根を御出発になり、蒲郡駅より新豊田駅を経て、第三十回全国植樹祭会場である西加茂郡藤岡町の藤岡県有林に向かわれる。御着後、お野立所に着席される。表彰・天皇のお言葉・第三十回全国植樹祭大会会長灘尾弘吉による答辞の後、お手植え地に移られ、農業祭大臣賞受賞者大橋和子・林業後継者代表阿部田美智代・みどりの少年団代表中根久恵・青年代表曾田まゆみの介添えでハナノキの苗三本をお手植えになる。天皇はヒノキの苗三本をお手植えになる。終わって参加者による植樹状況を御覧になり、隣接する愛知県緑化センターに移動される。御休所にて御小憩の後、施設内の植物を御覧になる。続いて愛知県長久手町の愛知県農業総合試験場を御訪問になり、御休所にて御昼餐の後、同試験場の取り組みに関する展示等を御覧になる。終わって午後二時三十一分、名古屋市の御泊所名古屋観光ホテルに御到着になる。御少憩の後、海部郡蟹江町の愛知県蟹江川排水機場の御視察に向かわれる天皇をお見送りに

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、愛知県下行幸啓、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、愛知県庁所蔵資料、愛知県農業総合試験場所蔵資料、名古屋市役所所蔵資料、入江相政日記、行幸啓記念誌、第三〇回全国植樹祭記録誌、中日新聞、中部経済新聞、中部読売新聞

二十八日 月曜日 天皇と共に、午前十時御泊所の名古屋観光ホテルを御出発になり、熱田神宮に向かわれる。御着後、拝殿に進まれ、禰宜による修祓の後、天皇に続いて正殿階下の御拝座において御拝礼になる。その後、御休所において宮司篠田康雄・権宮司長谷晴男・権宮司岡本健治の拝謁をお受けになる。終わって名古屋博物館に移動される。天皇とは別々に常設展を御覧になり、ついで天皇と共に御休所^{特別室}において、開催中の特別展^{古代トラキア黄金展}展示品の一部を御覧になる。終わって御泊所の名古屋観光ホテルにお戻りになる。御昼餐の後、天皇は御視察^{春日井市の愛知県心身障害者コロニー}に向かわれ、皇后はお一方にて御泊所にてお過ごしになる。なお、宮内庁よりこの日の御視察に関する皇后の御感想について、古代トラキアの作品を御覧になって古い時代にすばらしい作品があることに感心された旨が発表される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、愛知県下行幸啓、神宮及神社諸件、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、愛知県庁所蔵資料、熱田神宮所蔵資料、名古屋市役所所蔵資料、名古屋博物館所蔵資料、入江相政日記、行幸啓記念誌、あつた、中日新聞、東京新聞

二十九日 火曜日 天皇と共に、午前八時三十九分御泊所の名古屋観光ホテルを御出発になり、財団法人日本モンキーセンターに向かわれる。御着後、サル類に関する展示及び敷地内のモンキーパーク各館を御覧になる。続いて財団法人博物館明治村を御訪問になる。御休所で御昼餐の後、動態展示である明治期の路面電車、蒸気機関車が牽引する客車へ乗車され、ついで園内の建造物を御巡覧にな

昭和五十四年六月

る。終わって名古屋駅より東京駅を経て、午後五時十六分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、愛知県下行幸啓、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、愛知県庁所蔵資料、名古屋市役所蔵資料、財団法人日本モンキーセンター所蔵資料、博物館明治村所蔵資料、入江相政日記、行幸啓記念誌、れいめい、明治村通信、朝日新聞、サンケイ、日本経済新聞、中日新聞、中部経済新聞、中部読売新聞、東京新聞、名古屋タイムズ

三十一日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る六月四日より十八日まで英国を訪問する故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。ついで天皇と共に同所において、宮内庁御用掛首席随員吉川重国宮内庁御用掛の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、雍仁親王妃勢津子殿下英国御訪問、贈賜録、宮内庁庁報

病気で静養中の宣仁親王妃喜久子へ、お見舞いとして果物を賜う。○女官長日記、贈賜録

六月

一日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、上簇中の蚕の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の中華人民共和国駐筋特命全権大使吉田健三及び同夫人、マレーシア国駐筋特命全権大使有田武夫及び同夫人、ギリシャ国駐筋特命全権大使長谷川孝昭及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

七日 木曜日 明治神宮會館において開催の昭和五十四年度全国赤十字大会に、御名代として皇太子

妃を差し遣わされ、次のお言葉を賜う。

本日、ここに昭和五十四年度全国赤十字大会が開かれましたことを、大変うれしく思います。

赤十字は、人道的事業を進めることにより、広く世界の人々の平和と福祉増進のために、大きな力となつておりますが、日本赤十字社が国際赤十字の一員として立派にその使命を果たしていることは、皆さんの尽力によるものと心から満足に思います。

日本赤十字社の使命は、これからますます重要さを加えることと思いますが、皆さんの一層の努力によつてさらに業績をあげられるよう希望します。

正午過ぎ、吹上御所において、同大会への臨席を終えた皇太子妃より復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、発表綴、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）、赤十字新聞

八日 金曜日 正午前、天皇と共に正殿竹の間において、インドネシア国大統領スハルト及び同夫人シテイ・ハルテイナと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后が大統領に七宝花瓶青銅ほか、し鳳竜文、同夫人に佐賀錦ハンドバッグ山水模様を御贈進になる。また大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、夫人より皇后へ金細工ハンドバッグの御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、

外賓参内録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、恩賜録、発表綴、宮内庁庁報、入江相政日記

九日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭掻きを行われる。また繭や天蚕等の様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十五日 金曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任の国際連合日本政府代表部特命全権大使西堀正弘及び同夫人、ベトナム国駐劄特命全権大使野田英二郎及び同夫人の拝謁をお受けにな

昭和五十四年六月

る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

夕刻、天皇と共に吹上御苑内のオオムラサキ飼育場都内の蝶愛好家が飼育した幼虫を
去る三月より吹上御苑内で飼育にお出ましになり、天皇が

羽化したオオムラサキ四匹去る十三日よ
り羽化始まるをお放しになる様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

内舎人日誌、発表綴

二十日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、米国駐劔特命全権大使東郷文彦の進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、入江相政日記

午後、天皇と共に芳菊の間において、一昨十八日英国より帰国した故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内庁庁報

二十一日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のフィジー国駐劔特命全権大使大鷹弘及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮

殿行事録、宮内庁庁報

二十二日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、故雍仁親王妃勢津子の英国訪問の首席随員吉川重国の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、雍仁親王妃勢津子殿下

英国御訪問

二十五日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、国賓米国大統領ジミー・カーター及び同夫人ロザリンと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后が大統領夫妻に凶録『宮殿』特製
本を、大統

領に九谷焼飾壺極彩色吉野
山桜文様を、同夫人に七宝宝石箱正角形緑共彩
正倉院裂文を、同息女に人形鼓を、皇后が夫人に凶録『皇

居の盆栽』を御贈進になる。また、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后へは夫人より書籍 *The Pieced Quilt* 及びキルト飾り蒲団の御贈進がある。なお、大統領夫妻の入京に際し、皇后より夫人に花束を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、外賓参内録、接待書類、宮殿行事録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報、真崎秀樹英文日記、入江相政日記、朝日新聞、サンケイ、毎日新聞、読売新聞

二十八日 木曜日 夜、天皇と共に正殿竹の間において、この日主要国首脳会議東京サミットに出席したフランス国大統領ヴァレリー・ジスカールデスタン、米国大統領ジミー・カーターと御会見、ドイツ連邦共和国首相ヘルムート・シュミット、イタリア国首相ジュリオ・アンドレオッティ、英国首相マーガレット・サッチャー、カナダ国首相チャールス・ジョセフ・クラークを御引見になる。ついで天皇と共に同所において、御会見・御引見を終えた各国首脳及び内閣総理大臣大平正芳とお写真の撮影をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、東京サミット接待書類、主要国首脳会議（東京サミット）、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報、入江相政日記、大平正芳回想録

七月

二日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、発表綴、朝日新聞

正午前、天皇と共に宮殿御車寄前において、紅葉山御養蚕所主任浅羽登代夫及び助手四名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、卜部亮吾侍従日記、紅葉山御養蚕所八十年記念誌

午後、桃華楽堂にお出ましになり、楽部職員による洋楽演奏会に御臨席になる。演奏会には、皇太子妃第二部より参加・正仁親王妃華子、及び鷹司和子始め元皇族・御縁故者等八名が出席する。楽部玄関に御着

後、式部副長松平潔の先導により御休所にお入りになり、正仁親王妃等のお迎えをお受けになる。

ついでホールに進まれ御着席になる。演奏会では、バッハ作曲「ヴァイオリンとオーボエのための協

奏曲」をお聴きになり、御休所において御少憩の後、各国歌曲接続曲甲斐正雄編曲、先月二十八日の東京サミットに伴う宮中晩餐での演奏曲で、御臨席になら

なかつた皇后にお聴かせするためこの日演奏・メンデルスゾーン作曲交響曲第四番「イタリア」をお聴きになる。演奏終了後、御

休所において指揮者甲斐正雄・首席楽長豊雄秋・楽長東儀信太郎の拝謁をお受けになる。ついで皇太子妃・正仁親王妃及び出演者一同のお見送りをお受けになり楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇族雑録、発表綴、卜部亮吾侍従日記

三日 火曜日 お一方にて午後一時五分御出門になり、原宿駅を経て、小田原駅にて先に出発された天皇箱根湿性花園及び彫刻の森美術館を御訪問と合流され、四時四十八分須崎御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報、入江相政日記

四日 水曜日 午前、天皇と共にミカン園からお成道付近を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に御用邸敷地内及びその周辺を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録

六日 金曜日 午後、天皇と共に御用邸御車寄前庭において、毎年八月開催の下田八幡神社例大祭太鼓祭で用いられる山車及び同社氏子による太鼓の打ち鳴らしを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

内舎人供奉日誌、須崎御用邸行幸啓録、幸啓録、贈賜録、發表綴、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記

去る六月二十六日からの大雨により甚大な被害を受けた福岡県に、天皇・皇后がお見舞金を賜う。○災害お見舞い、發表綴

十三日 金曜日 天皇と共に、午後零時三十五分須崎御用邸を御出門になり、四時皇居に還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、須崎御用邸行幸啓録、宮内庁庁報

十六日 月曜日 午前、花の間において、新任の書陵部長福留守・皇室経済主管中野晟始め八名の拝

謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

十七日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、来る九月九日の雄略天皇千五百年式年祭に先立ち、京都大学教授岸俊男より雄略天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十八日 水曜日 午後、正殿梅の間において、新任のケニア国特命全権大使ケファ・オニヨニ及び同夫人・息女、ネパール国特命全権大使バドリ・プラサド・シユレシユタ及び同夫人・息女を順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十九日 木曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた正仁親王妃華子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十日 金曜日 天皇と共に吹上御所において、去る六月十八日英国訪問より帰国した故雍仁親王妃勢津子をお招きになり、御夕餐を御会食になる。皇太子・同妃、正仁親王・同妃華子、崇仁親王・同妃百合子・容子内親王が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、宮内庁庁報

昭和五十四年八月

二十四日 火曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この度東作興と婚約した東久邇優子の拝謁をお受けになる。その際、天皇・皇后が万那料・お品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、発表綴

三十日 月曜日 午前、明治天皇例祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、

内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

三十一日 火曜日 天皇と共に、午前九時四十二分御出門になり、午後零時三十九分那須御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県所蔵資料

午後、天皇と共に御用邸御内庭を散策され、植物を御調査になる。御用邸御滞在中、しばしば天皇と共に御用邸敷地内及びその周辺を御調査になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料

八月

二日 木曜日 元侍従小畑忠^{元皇孫経} 昨日死去につき、天皇・皇后が祭染料を賜う。また別に霊前に切り花・菓子^{濟主管}を賜う。○女官長日記、贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報

三日 金曜日 午前、植物の御調査にお出ましの際、天皇と共に御用邸御車寄前において、那須町長益子重雄・同町議会議長大高章始め三名に御会釈を賜う。四日にも同様に、天皇と共に栃木県市長会会長古沢俊一以下二十五名に御会釈を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、那須御用邸行幸啓

録、栃木県所蔵資料

六日 月曜日 広島原爆の日につき、終日、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、那須御用邸管理事務所日誌

九日 木曜日 長崎原爆の日につき、午前中、御用邸にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十日 金曜日 天皇と共に、午前八時五十三分那須御用邸を御出門になり、十一時四十七分皇居に還

啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那

須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県所蔵資料、入江相政日記

十一日 土曜日 北白川房子五年式年祭に当たり、終日、吹上御所にて静かにお過ごしになる。また、

霊舎祭及び豊島岡墓地における墓所祭の御代拝を女官市村菊重に仰せ付けられる。天皇・皇后が霊舎に菓子を、墓所に柿をお供えになり、北白川道久^{房子の孫}にお尋ねとして菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、旧皇族録

十四日 火曜日 午前、花の間において、新任の式部官長安倍勲及び前任の式部官長湯川盛夫の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、恩賜録、宮内庁庁報、官報

午後、左脚の御不調のため、侍医の拝診をお受けになる。以降、全国戦没者追悼式及び那須御用邸への行啓を除き、二十五日まで行事等への参加やお出ましをお控えになり、吹上御所及び那須御用邸において御静養になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、

昭和天皇最後の侍従日記、朝日新聞、読売新聞

昭和五十四年八月

昭和五十四年八月

十五日 水曜日 天皇と共に、午前十一時四十八分御出門になり、全国戦没者追悼式に御臨席のため日本武道館に行啓される。御着後、天皇と共に式場に臨まれ、正午の時報に合わせて一分間黙禱される。午後零時二十七分還啓される。黙禱のため御自席から式壇中央に移動される際、皇后の御起立がお遅れになる。還啓後、この件に関して宮内庁より、御起立のお遅れは去る十三日から発症した軽い左脚の肉離れによるものであること、那須御用邸に戻られた後も御静養になることなどが発表される。なお、同追悼式が行われるに当たり、昨十四日、天皇・皇后が厚生省に生花を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸啓録、恩賜録、発表綴、宮内庁庁報、官報、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

十七日 金曜日 天皇と共に、午前九時三十九分御出門になり、午後零時三十九分那須御用邸に行啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内庁庁報、栃木県所蔵資料、入江相政日記、卜部亮吾侍従日記、朝日新聞

二十九日 水曜日 午後、天皇が附属邸御車寄前において宮内記者会会員十七名とお会いになり、各記者からの質問にお答えになる。その際に、皇后の腰の経過や脚の肉離れについて、また去る六月に東京サミットの主会場として使用された迎賓館赤坂離宮^{大正十二年九月から同十三年一月まで天皇が、同十三年一月の御結婚から昭和三年七月まで天皇・皇后が、御所として御使用の}思い出などについての質問をお受けになる。皇后の腰に関しては、経過が非常に順調である旨、脚の肉離れに関しては、痛みはほぼない旨をお答えになり、赤坂離宮に関しては、御結婚当時の思い出深い建物である旨などをお答えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸行幸啓録、天皇

記者会見、那須御用邸管理事務所日誌

三十日 木曜日 天皇と共に、午前八時五十三分那須御用邸を御出門になり、十一時四十七分皇居に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、那須御用邸行幸啓録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁所蔵資料、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、同所の改修工事が行われた箇所を御視察になる。○女官日誌、侍従日誌、特宮

九月

一日 土曜日 関東大震災の日につき、午前中、吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

三日 月曜日 午前、天皇と共に吹上御所において、翌四日より二十二日までフランス国を旅行する
崇仁親王・同妃百合子・容子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、崇仁親王同妃両殿下及び容子内親王殿下フランス国御旅行、贈賜録、宮内庁庁報

四日 火曜日 元侍従野口明^{元帝室林野局監理部長} 昨三日死去につき、天皇・皇后が祭糝料を賜う。また、霊前に菓子^子を賜う。九日の葬儀に際しては、天皇・皇后が霊前に切り花を賜う。○女官長日記、贈賜録、恩賜録、宮内庁庁報

八日 土曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、スリランカ国駐劄特命全権大使越智啓介より同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、接待書類、宮殿行事録

九日 日曜日 午前、雄略天皇千五百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。午後は吹上御所にて静かにお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁序報

十日 月曜日 午前、千鳥の間・千草の間において、皇族たる皇室会議の議員及びその予備議員の互選に臨まれる。議員に宣仁親王・崇仁親王が、予備議員に故雍仁親王妃勢津子・皇太子がそれぞれ選出される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、皇室会議皇族議員互選録、宮殿行事録、

宮内庁序報、官報

天皇と共に芳菊の間において、昨九日古希の誕生日を迎えた故雍仁親王妃勢津子と御対面になる。天皇・皇后が同妃にお品料・洋服地紅葉山御養蚕所製等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、贈賜録

十一日 火曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、国賓スリランカ国大統領ジュニアス・リチャード・ジャヤワルダナ及び同夫人エリナと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后が大統領に有田焼花瓶清華金襴手雲鶴絵を、大統領夫人に九谷焼香炉金襴手小紋文様を御贈進になる。また大統領夫妻より天皇・皇

后に御贈進の品があり、皇后には白金製指輪ブルーサファア入が贈られる。なお、大統領夫妻の入京に際し、

皇后より夫人に花束を御贈進になる。後日、大統領夫人より来日中の款待を謝する旨の親書十月十日付が寄せられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、接待書類、外賓参内録、宮殿行事録、外交

贈答録、外賓接待録、恩賜録、宮内庁序報、官報、真崎秀樹英文日記、入江相政日記、朝日新聞、毎日新聞

十七日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のニュージーランド国駐劄特命全

権大使小山田隆及び同夫人、軍縮委員会日本政府代表部特命全権大使大川美雄及び同夫人の拝謁を受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁序報

十九日 水曜日 正午頃、天皇と共に正殿竹の間において、来日中の英国王族ケント公エドワード^{英国}の従弟と御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后がケント公に七宝花瓶^{紺地}を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、典式録、宮殿行事録、外交贈答録、恩賜録、外賓接待録、真崎

秀樹英文日記

二十一日 金曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る十月五日より十四日まで天皇の御名代としてルーマニア国及びブルガリア国を訪問^{オランダ国・ベルギー国立ち寄り}する皇太子、及び同妃の随員の拝謁をお受けになる。夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃のために御晚餐を催される。皇太子・

同妃のほか、正仁親王・同妃華子、宣仁親王・同妃喜久子、鷹司和子が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇太子同妃両殿下ルーマニア国・ブルガリア国御訪問、東宮録、宮内庁序報

二十四日 月曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

二十五日 火曜日 午前、天皇と共に芳菊の間において、去る二十二日にフランス国旅行より帰国した崇仁親王・同妃百合子・容子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内庁序報

二十六日 水曜日 午前、正殿梅の間において、新任のチリ国特命全権大使セサル・ルイス・ダンジャ

昭和五十四年九月

ウ及び同夫人、初代ルワンダ国特命全権大使ジャン・クリソストム・ドウホウンギレへ及び同夫人を
順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

東京プリンスホテルにおいて開催の第二十七回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に、御名代
として皇太子妃を差し遣わされる。元日本赤十字社中央病院看護部長飯塚スツ日本赤十字社看護婦研修所講師、元日本赤

十字社幹部看護婦研修所教務部長小林清子日本赤十字中央女子短期大学顧問兼
日本赤十字社幹部看護婦研修所講師の二名にナイチンゲール章記及び

記章を授与され、次のお言葉を賜う。

本日ここに、第二十七回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式が行われますことを、大変
うれしく思います。

このたび、飯塚スツ、小林清子の二名の方々が、赤十字国際委員会から看護婦として最高の名
誉であるフローレンス・ナイチンゲール記章を贈られましたことは、長年にわたる献身的努力の
たまものであり、本人の榮譽はもとより、我が国にとりましても、誠に喜ばしいことであります。

受章された方々は、今後も博愛と人道のため、看護の道に力を尽くすとともに後進の指導に当
たり、また、他の看護婦の皆さんも、これを模範として、その職に励み、広く内外の人々から信
頼され、感謝されることとなるよう切に希望します。

午後、吹上御所において、同式への臨席を終えた皇太子妃より復命をお受けになる。○女官長日記、女官
日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雑録、東宮録、発表綴、宮内庁庁報、官報、事業年報（日本赤十字社）、

日本赤十字社社史稿、赤十字新聞、会報

二十八日 金曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣より表彰された第三十一回保健文

化賞受賞者等の拝謁をお受けになる。厚生事務次官曾根田郁夫より挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報、入江相政日記

二十九日 土曜日 来る十月一日より十二月三十一日まで昭和五十四年度国民たすけあい共同募金運動を実施する社会福祉法人中央共同募金会に、天皇・皇后が事業御奨励のため金一封を賜う。なお、この募金運動を題材として、この年、次の御歌をお詠みになる。

赤き羽根胸にかざしてわかうどのあゆむすがたをたのものと見る

○社会事業、年末年始綴、宮内庁庁報

十月

四日 木曜日 午前、天皇と共に松風の間に於いて、松榮会会員二十三名の拝謁をお受けになる。○

女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮殿行事録、入江相政日記

翌五日より十四日まで皇太子が天皇の御名代として同妃同伴にてルーマニア国及びブルガリア国を訪問オランダ国・ベルギー国立ち寄りするに当たり、夕刻、天皇と共に吹上御所において、皇太子・同妃と御対面になる。この訪問に際し、皇太子を通じて天皇・皇后がルーマニア国大統領ニコラエ・チャウシエスクに有田焼

飾鉢濁手草を、同夫人エレナに広蓋尾形光琳画を、ブルガリア国国家評議会議長トードル・ジフコフに有

田焼飾鉢濁手露草文を御贈進になる。なお、五日には東京国際空港に差し遣わされた侍従長入江相政が、天

昭和五十四年十月

皇・皇后のお言葉を皇太子・同妃に伝える。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇太子同妃両殿下ルーマニア国・ブルガリア国御訪問、外交雑録、外交贈答録、恩賜録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記

五日 金曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、アルゼンチン国駐劔特命全権大使大和田涉より同国についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、宮殿行事録

八日 月曜日 午後、天皇と共に正殿竹の間において、国賓アルゼンチン国大統領ホルヘ・ラファエル・ヴィデラ及び同夫人アリシアと御会見になる。この来訪に際し、天皇・皇后より大統領に七宝花瓶赤透釉、赤透釉、菊文、同夫人に七宝宝石箱正角形薄緑地牡丹文を御贈進になる。また、大統領夫妻より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后にはブローチが贈られる。なお、大統領夫妻の入京に際し、皇后より夫人に花束を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、外賓参内録、接待書類、宮殿行事録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、官報、入江相政日記

九日 火曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、先般オーストラリア国から帰国した久邇邦昭御甥及び同夫人正子の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、旧皇族雑録、贈賜録、入江相政日記

十一日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、外務省賓客ルクセンブルク国大公ジャン及び同妃ジョセフィン・シャルロットと御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、天皇・皇后にナツソウ家黄金獅子勲章が贈られる。この来訪に当たり、天皇・皇后からは大公・同妃に有田焼花瓶色鍋島草花文

を御贈進になる。また、大公・同妃より天皇・皇后に御贈進の品があり、皇后へは石彫果物の置物の御贈進がある。なお、昨十日の大公・同妃の入京に際し、皇后より同妃に花束を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、接待書類、宮殿行事録、外賓参内録、外交贈答録、恩賜録、宮内庁庁報、入江相政日記

十四日 日曜日 午後、吹上御所において、天皇が御臨場になる第三十四回国民体育大会秋季大会開会式昨十三日より十六日まで開催地宮崎県に行幸のテレビ中継放送を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内庁庁報、官報

十六日 火曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る十四日にルーマニア国及びブルガリア国訪問オランダ国・ベルギー国立ち寄りより帰国した皇太子・同妃と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、東宮録、宮内庁庁報

十七日 水曜日 午前、神嘗祭につき、吹上御所において神宮及び賢所を御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

翌十八日から二十日まで広島市の福屋百貨店において開催される財団法人日本ばら会主催の「創立十周年記念日本ばら会中国支部秋のばら祭り」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。○女官長日記、贈賜録、発表綴

十八日 木曜日 午後、天皇と共に鳳凰の間において、去る十四日にルーマニア国及びブルガリア国訪問オランダ国・ベルギー国立ち寄りより帰国した皇太子・同妃の首席随員有田圭輔及び随員の拝謁を、続いて天皇と共に

昭和五十四年十月

宮殿御車寄内において、随行員の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内庁庁報

十九日 金曜日 午後、天皇と共に連翠において、昭和四十六年の御訪欧及び同五十年の御訪米の首席随員福田赳夫以下随員・随行員をお招きになり、お茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮殿行事録、真崎秀樹英文日記、入江相政日記

二十日 土曜日 皇太子妃の誕生日につき、午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代の祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に同所において、皇太子妃と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報

二十二日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のサウジアラビア国駐節特命全権大使中村輝彦及び同夫人、チリ国駐節特命全権大使赤谷源一及び同夫人、パナマ国駐節特命全権大使石井亨及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

天皇と共に正殿竹の間において、公賓シンガポール国首相リー・クアン・ユー及び同夫人・息女を御引見になる。この来訪に際し、首相夫妻より天皇・皇后に献上の品があり、天皇・皇后にランシンガポールの国花の切り花・洋酒が、首相夫人より皇后に掛軸同国の画家呉在炎による金魚を描いた指頭画が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、宮殿行事録、外交贈答録、宮内庁庁報、真崎秀樹英文日記

二十三日 火曜日 夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る十七日オーストラリア国より帰国した島津久永・同夫人貴子と御対面になる。続いて九月二十二日フランス国旅行より帰国した崇仁親王・

同妃百合子・容子内親王、去る十四日ルーマニア国及びブルガリア国オランダ国・ベルギー国立ち寄り訪問より帰国した皇

太子・同妃のために、天皇と共に御晚餐を催される。皇太子・同妃、崇仁親王・同妃・容子内親王、

島津久永・同夫人貴子のほか、正仁親王・同妃華子、故雍仁親王妃勢津子、宣仁親王、鷹司和子が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、旧皇族雑録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、朝日新聞

この日から二十八日まで三越銀座支店において開催される財団法人日本ばら会主催の「秋の日本ばら会展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品になる。二十六日にも御出品になる。○

女官長日記、贈賜録、発表綴

二十五日 木曜日 午前、吹上御所において、御絵「絵巻 葉山」・「絵巻 那須」に御歌を書き入れ、

御完成になる。御絵の部分は去る昭和四十四年に御完成この作品は、来る十一月八日より十日まで開催される宮内庁職員組合文

化祭の美術展へ御出品になる。○女官長日記、女官日誌、重要雑録、香淳皇后の御絵と画伯たち、香淳皇后のご生涯と作品

二十六日 金曜日 この日から二十九日まで福岡県福岡市の玉屋デパートで開催される財団法人日本ばら会主催の「秋の日本ばら会九州支部展」に、吹上御所前庭にて御栽培のバラの切り花を御出品

になる。○贈賜録、発表綴

十一月

三日 土曜日 午前、天皇と共に宮殿北溜において、朝日新聞社が主催する全日本健康優良学校表彰会で表彰された健康優良学校代表等の拝謁をお受けになる。同表彰会会長渡辺誠毅朝日新聞社長より挨拶を

昭和五十四年十一月

お受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、発表綴、宮内庁庁報、入江相政日記

七日 水曜日 天皇と共に吹上御所において、来る二十九日結婚する東久邇優子のために御晩餐を催される。優子のほか、東久邇信彦・同夫人吉子、同文子が出席する。その際、天皇・皇后が優子に万那料を、皇后がお品・布地^{紅葉山御養蚕所製}等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

九日 金曜日 午後、天皇と共に宮内庁庁舎講堂にお出ましになり、宮内庁職員組合文化祭の美術展を御覧になる。同展には、日本画の御作品「須崎の春―おおばやしやぶし」「高原立秋―りんどう」「絵巻 那須」「絵巻 葉山」を御出品になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、

発表綴、香淳皇后の御絵と画伯たち、香淳皇后のご生涯と作品

十三日 火曜日 正午過ぎ、天皇が公賓チエコスロバキア国首相ルボミール・シュトロウガルを御引見になり、ついで宮中午餐を催される。この来訪に際し、首相より天皇・皇后に献上の品があり、皇后にはクリスタルガラス製の大皿・小皿が献上される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、外賓参内録、外交贈答録、宮殿行事録、恩賜録、宮内庁庁報

十六日 金曜日 天皇と共に、午前十時二分御出門になり、多摩東陵^{大正天皇陵}並びに多摩東陵^{貞明皇后陵}に行啓される。御到着後、天皇に続いて多摩東陵、ついで多摩東陵を御拝礼になる。午後二時七分還啓される。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸啓録、発表綴、臨時祭祀録、宮内庁庁報

十九日 月曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、来る二十九日に結婚する東久邇優子及び東久

邇稔彦優子の祖父・同吉子優子の義姉の拝謁をお受けになる。また天皇・皇后が稔彦に清酒・鮮鯛代料を、優子に

扇子代料・白縮緬・金員等を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、旧皇族録、贈賜録、

賢所諸件、發表綴、入江相政日記

二十日 火曜日 午後、天皇と共に春秋の間において、昭和五十四年秋の褒章受章者のうち、文部省・厚生省・最高裁判所関係の受章者等の拝謁をお受けになる。代表者よりお礼をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宣召録、典式録、宮殿行事録、宮内庁

庁報

二十六日 月曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、来る十二月六日の後桃園天皇二百年式年祭に先立ち、正倉院事務所長武部敏夫より後桃園天皇の御事蹟についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に春秋の間において、文部大臣から表彰された昭和五十四年度教育者表彰被表彰者等の拝謁をお受けになる。紫綬褒章受章者松田智雄よりお礼をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

二十八日 水曜日 午後、天皇と共に吹上御所において、この誕生日を迎えた正仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

三十日 金曜日 午後、正殿梅の間において、新任のバングラデシユ国特命全権大使マンズール・アームド・チョードリ及び同夫人、インドネシア国特命全権大使サイディマン・スルヨハディプロジヨを順次御引見になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二月

一日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、去る十一月二十九日に結婚した東作興・同夫人優子の拝謁をお受けになる。また天皇・皇后が作興及び優子にそれぞれお品を、夫妻に万那料・菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、入江相政日記

三日 月曜日 天皇と共に地方事情を御視察のため、奈良県に行啓される。午前九時三十四分天皇と共に御出門になり、東京駅より京都駅・近鉄奈良駅を経て奈良県庁に御到着になる。御休所において奈良県副知事上田繁潔より、県勢概要及び同所に展示された県内遺跡出土遺物等の説明をお聞きになる。次に玄関ホールにおいて、平城京の復元模型を御覧になる。その後、聖武天皇陵・聖武天皇皇后陵に移動され、天皇に続いて御拝所にて聖武天皇陵を、ついで皇后陵を御拝礼になる。続いて正倉院事務所を御訪問になる。御休所において同事務所長武部敏夫より正倉院の概要についてお聞きになり、ついで正倉院宝物及び正倉の外観を御覧になる。午後四時二十五分、奈良市の御泊所奈良ホテルに御到着になる。御到着後、女官候所において、円照寺門跡の山本静山、中宮寺門跡の日野西光尊、法華寺門跡の久我高照の拝謁をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、地方行幸啓、年末年始綴、宮内庁庁報、官報、奈良県庁所蔵資料、宮内庁書陵部畝傍陵墓監区所蔵資料、正倉院事務所所蔵資料、入江相政日記、宮中侍従物語、奈良市民だより、月刊奈良、奈良ホテル物語、奈良新聞

四日 火曜日 午前、明日香村へ御出発になる天皇をお見送りの後、御泊所の奈良ホテルにおいてテイチク製作の文芸カセット「万葉の心」大阪大学名誉教授 犬養孝録音をお聞きになる。御泊所にお戻りになった天皇と御昼餐の後、天皇と共に午後二時二十七分春日大社へと御移動になる。御休所において宮司花山院親

忠、権宮司千鳥祐信・中根義明の拜謁をお受けになる。それより権宮司による修祓の後、天皇に続いて本殿前の御拝座に進み御拝礼になる。ついで舞殿に移られ、同社に伝わる和舞を御覧になる。終わって三時三十三分御泊所の奈良ホテルにお戻りになる。なお皇后が同社に『御物聚成』を賜う。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、地方行幸啓、宮内庁庁報、官報、春日大社所蔵資料、入江相政日記、春日、朝日新聞、サンケイ、毎日新聞、奈良新聞、奈良日日新聞

五日 水曜日 天皇と共に、午前九時御泊所の奈良ホテルを御出発になり、法隆寺へと御移動になる。

御着後、管主間中定泉より同寺の概要についての説明をお聞きになり、ついで金堂前の二本松天皇が大正四年に、及

び皇后が同十二年に、それぞれお手植えになった松 及び金堂・五重塔・大講堂・夢殿、並びに聖徳太子二歳像皇后が御結婚前にお手縫いになり同寺に納められた衣が掛けられる

始めとする収蔵庫の宝物を御巡覧になる。次に御徒歩にて隣接する中宮寺に移動され、寺内を御覧になる。終わって同寺より近鉄奈良駅・京都駅・東京駅を経て、午後三時四十三分皇居に還啓される。なお、この日中宮寺において御覧になった山茶花を題材として、この年、次の御歌をお詠みになる。

中宮寺のついちの内にしづもりてさざんくわの花きよらかに咲く

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、地方行幸啓、年末年始綴、宮内庁庁報、官報、法隆寺所蔵資料、安国哲雄所蔵資料、入江相政日記、斑鳩町広報、毎日新聞、読売新聞、奈良日日新聞

六日 木曜日 午前、後桃園天皇二百年式年祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、

女官日誌、内舍人日誌、典式録、臨時祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

七日 金曜日 久邇朝融二十年式年祭につき、午後三時二十二分御出門になり、豊島岡墓地に行啓される。御到着後、子息の久邇邦昭・同夫人正子のお出迎えをお受けになる。邦彦王墓所・久邇侁子墓

所をそれぞれ御拝礼の後、朝融の墓所、ついで知子女王の墓所を御拝礼になる。終わって邦昭・同夫人より挨拶をお受けになり、午後三時五十一分皇居へ還啓される。なお、式年祭に先立ち、この日午前に行われる霊舎祭に女官長を差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后が霊舎に菓子・榊を、墓所に榊をお供えになり、皇后が朝融の写真に切り花・果物を、朝融の墓所に野菜を、邦彦王・久邇侁子・知子女王の墓所に果物をそれぞれお供えになる。このほか、邦昭・大谷智子^御・東伏見慈治^御にお尋ねとして菓子を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、旧皇族録、重要雑録、贈賜録、宮内庁庁報

十一日 火曜日 午後、天皇と共に宮殿北溜において、厚生大臣から表彰された身体障害者の自立更生者及び更生援護功労者等の拝謁をお受けになる。更生援護功労者山田真爽子の挨拶をお受けになり、天皇に続いてお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁録、典式録、宮殿行事録、宮内庁庁報

十二日 水曜日 正午過ぎ、天皇と共に連翠北において、皇太子・同妃始め菊栄親睦会会員をお招きになり、会員の算賀を祝う午餐を催される。終わって連翠南においてお茶の席を設けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、菊栄親睦会録、宮殿行事録、東宮録、贈賜録

十三日 木曜日 午後、宮内庁楽部にお出ましになり、糸竹会例会へ御臨席になる。楽部玄関に御着後、同会会長三条実春の先導により御休所にお入りになり、ついで鏡の間に進まれ御着席になる。例会では、杵越調音取、春鶯囀^入、賀殿急、胡飲酒破^{残楽、三返}、酒胡子、御歌の演奏をお聴きになる。演奏終

了後、御休所脇廊下において、糸竹会会員十五名及び首席楽長豊雄秋^{糸竹会講師}・楽長東儀信太郎^同の拝謁をお受けになる。その後、糸竹会会員等のお見送りを受け楽部玄関を御発、吹上御所に還御される。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、糸竹会

夕刻、天皇と共に吹上御所において、去る十一月三十日に誕生日を迎えた文仁親王と御対面になる。

○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十五日 土曜日 夕刻、賢所御神楽につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、内

舍人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁序報

十七日 月曜日 午後、正殿梅の間において、新任のイラン国特命全権大使ガーセム・サーレフホウ及び同夫人、ベネズエラ国特命全権大使ヘース・マリア・ポンセ及び同夫人を順次御引見になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮殿行事録、宮内庁序報

十八日 火曜日 午前、花の間において、京都在住堂上会総代葉室頼昭の拝謁をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録

御夕餐後、天皇及び皇太子・同妃・清子内親王と共に吹上御所において、昨十七日吹上御苑内で保護されたキムネオオハシ^{中南米生息のオオハシ科の鳥、二十八日には元の持ち主が保護}を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、発表綴、卜部亮

吾侍従日記、昭和天皇最後の侍従日記

二十日 木曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のマダガスカル国駐筋特命全権大使古沢一彦及び同夫人、イラク国駐筋特命全権大使加賀美秀夫及び同夫人、リベリア国駐筋特命全権大使杉谷好一及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝

昭和五十四年十二月

謁録、宮殿行事録、宮内庁庁報

日本赤十字社に天皇・皇后が、財団法人結核予防会に皇后が、事業御奨励のためそれぞれ金一封を賜う。また向陽会に皇后が、歌道御奨励のため金一封を賜う。○恩賜録、社会事業、宮内庁庁報、事業年報（日本赤十字社）

二十三日 日曜日 皇太子の誕生日につき、午前、天皇と共に吹上御所において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官の祝賀をお受けになる。ついで天皇と共に同所において皇太子と御対面になり、お礼言上をお受けになった後、元皇后宮女官・元女官・元皇子傳育官の祝賀をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、東宮録、宮内庁庁報、入江相政日記

二十五日 火曜日 午前、大正天皇祭につき、吹上御所において御遙拝になる。○女官長日記、女官日誌、

内舎人日誌、典式録、恒例祭祀録、祭典録、宮内庁庁報

二十六日 水曜日 午前、天皇と共に正殿竹の間において、近く赴任のフィリピン国駐箚特命全権大使田中秀穂及び同夫人の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁

録、宮殿行事録、宮内庁庁報

午後、天皇と共に吹上御所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十七日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、新たに参与を委嘱された森永貞一郎元日本銀行総裁

の拝謁をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、入江相政日記、朝日新聞、

サンケイ、東京新聞、日本経済新聞

二十九日 土曜日 午前、天皇と共に鳳凰の間において、宮内庁長官始め総代、続いて女官長始め女官等、ついで皇太子・同妃始め皇族、元皇族、御縁故者より歳末の祝詞言上をお受けになる。その後、天皇と共に芳菊の間において、徳仁親王・文仁親王・清子内親王より祝詞言上をお受けになる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、東宮録、宮内庁庁報